

TERAGATE

RAIDシステム搭載
ネットワーク接続型HDユニット

LHD-LANQGシリーズ

User's Manual

このマニュアルは、別冊の「クイックスタートガイド」
とあわせてお読みください






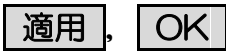
はじめに	P1
安全にお使いいただくために	P2
もくじ	P4
本製品の概要	P5
導入手順	P19
基本操作	P51
応用操作	P103
こんなときは	P156
設定制限表	P161

●このマニュアルで使われている用語

このマニュアルでは紙面上の都合により、一部の表記を除いて“LHD-LANQG シリーズ”を「本製品」と表記しているほか、次の用語を使用しています。

ドライブ	本製品に内蔵されているハードディスクドライブのことを示しています。
USBディスク	USB接続対応の外付けハードディスクドライブのことを示しています。
LHD-LAN名称	本製品のネットワーク上でのホスト名のことを示しています。初期値は「LogitecNAS」です。

●このマニュアルで使われている記号

記号	意味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
	キーボード上のキーを表します。
	OSまたはユーティリティソフトなどのボタン名を表します。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTPサイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、ロジテック株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップをお願いいたします。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

LHD-LANQG シリーズ

User's Manual

ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

重要

このユーザーズマニュアルは以下の場合にお読みください。

- ・ 本製品の詳細な設定をおこなう。
- ・ 設定情報の詳しい説明を参照する。



- 導入手順については、別冊「クイックスタートガイド」をお読みください。
- ハードディスクドライブに障害が発生した場合の交換手順については、別冊「クイックリペアガイド」をお読みください。
- このマニュアルでは一部の表記を除いて各製品名を「本製品」と表記しています。
- このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

本製品に保存したデータは定期的にバックアップしてください。

RAIDシステムはディスク障害時の速やかなデータ復旧を目的としたもので、保存データを保証するものではありません。弊社はいかなる場合でも保存内容の修復、保証はいたしかねますので、十分にご注意ください。

安全にお使いいただくために

けがや故障，火災などを防ぐために，ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと，火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと，感電やその他の事故によりけがをしたり，他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告



本製品の分解，改造，修理をご自分でおこなわないでください。火災や感電，故障の原因になります。また，故障時の保証の対象外となります。



本製品から煙やへんな臭いがしたときは，直ちに使用を中止したうえで電源を切り，ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと，ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。そのまま使用すると，火災や感電，故障の原因になります。



本製品に水などの液体や異物が入った場合は，直ちに使用を中止したうえで電源を切り，ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと，ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。そのまま使用すると，火災や感電，故障の原因になります。



本製品を，水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。火災や感電，故障の原因になります。

注 意



本製品を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺



長期間本製品を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
故障の原因になります。

もくじ

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
もくじ	4

Chapter 1 概要編

1. 製品の概要	6
本製品の特徴	6
2. 本製品の使用環境	9
クライアント環境	9
設定、管理クライアント環境	10
3. 本体各部の名称とはたらき	11
本体前面	11
本体背面	12
4. 付属品について	14
5. 設置条件	15
6. RAIDについて	16

Chapter 2 導入編

1. 本製品の接続	20
2. セットアップランチャーの起動	22
3. クイックセットアップツールによる初期設定	24
4. 管理用ソフトウェアへのログイン	33
5. 本製品の起動と終了	35
システムの起動	35
システムのシャットダウン	35
6. 一般ユーザとしての利用	36
「ドライブマップウィザード」による接続	37
SMB共有による接続	39
AppleTalk共有による接続	43
FTP共有による接続	46
7. USB機器の使用について	48
USBプリンタ	48
USBディスク	49
USBメモリ, USB接続対応のデジタルカメラ	50
UPS（無停電電源装置）	50

Chapter 3 基本操作編

1. パスワードの設定	52
2. ユーザ, グループの作成	53
ユーザを登録する	53
グループを登録する	55
3. 共有フォルダの作成	58
4. フォトステーション機能の利用	63
フォトステーション機能を有効にする	63
アルバムを作成する	65
アルバム内のデータ操作	68
5. 簡易Webサーバ機能の利用	69
簡易Webサーバ機能を有効にする	69
簡易Webサーバ機能を使用する	70
6. FTPサービスの利用	74
FTPサービスを有効にする	75
匿名FTPユーザの管理	76

7. ダウンロードステーション機能の利用	80
ダウンロードステーション機能を有効にする	80
ダウンロードリダイレクタのインストール	82
ダウンロードリダイレクタのセットアップ	82
ダウンロードリダイレクタを使用する	85
8. USB機器の利用	88
USBディスクマネージャを使用する	89
USBプリンタマネージャを使用する	92
USBバックアップを使用する	96
UPS（無停電電源装置）を使用する	101

Chapter 4 応用操作編

1. [HOME]メニュー	104
概要	105
システム情報	106
ログ	107
著作権・商標	108
2. [共有設定]メニュー	109
ユーザ	111
グループ	112
共有フォルダ	113
時刻	114
パワーマネージャ	115
バックアップ	116
ボリューム	118
3. [ネットワーク]メニュー	128
LAN	129
Win/MacOS	130
FTPサービス	131
Webサービス	132
E-mail通知	133
ダウンロードサービス	135
マルチメディアサービス	136
4. [ツール]メニュー	137
シャットダウン	138
出荷時設定	139
システム更新	140
USBバックアップ	141
ネットワークバックアップ	142
5. [USB機器]メニュー	149
USBディスク	149
USBプリンタ	151
UPS	152
6. その他のメニュー	153
[ヘルプ]メニュー	153
[ログアウト]メニュー	154

Chapter 5 付録編

1. こんなときは	156
Mac, Windows共通のトラブル	156
Macintoshクライアントのトラブル	159
2. 設定制限表	161

Chapter 1

概要編

ここでは、本製品の概要、使用環境について説明します。

1. 製品の概要	6
2. 本製品の使用環境	9
3. 本体各部の名称とはたらき	11
4. 付属品について	14
5. 設置条件	15
6. RAIDについて	16

1 製品の概要

本製品は、ネットワークに接続して使用するHDユニット：NAS（Network Attached Storage）です。

本製品の特徴

●サーバOS不要のNAS（Network Attached Storage）

本製品は、ネットワークに直接接続して使用するHDユニット（NAS）です。ファイルサーバ用にコンピュータやOSを用意しなくても、ネットワークに接続するだけで、ファイルサーバとして使用できます。

●RAID 0, 1, 5を構築可能

4台のドライブを内蔵し、RAIDが構築できます。データの冗長性を持つ構成を選択した場合、1台のドライブが故障しても、ディスクの交換によりRAIDを再構築できます。ディスク交換は「コールドスワップ」（電源を切った状態で交換）に対応しています。

●Webブラウザでの管理

Webブラウザから共有エリアの作成、ユーザ管理などの設定ができます。また、ネットワークストレージ（NAS）として必要最低限の設定のみに特化しているため、サーバの知識がなくても簡単に設定可能です。

●ギガビットイーサネット（1000BASE-T）対応の高速データ転送

ギガビットイーサネット（1000BASE-T）対応LANポート、高性能CPU、64MBメモリの搭載により、高速データ転送、高速処理を実現します。

●USB2.0を2ポート搭載

USB2.0に対応したUSBポートを2ポート搭載しており、USB機器を接続して共有できます。

●FTPサーバとして使用可能

FTP転送に対応しており、FTPサーバとして使用できます。

●フォトステーション機能

本製品に保存した画像や動画に自動的にサムネール、インデックスを作成し、Webブラウザ上で確認できるフォトステーション機能を利用できます。

●簡易Webサーバ機能

作成したhtmlファイルを格納しておき、ネットワーク内で閲覧できる簡易Webサーバ機能を利用できます。

●ダウンロードステーション機能

インターネットからのファイルのダウンロードを自動的におこないます。
※クライアント用アプリケーション「ダウンロードリダイレクタ」が必要で、添付のソフトウェアパックからインストールできます。

●ネットワークバックアップ機能

同じネットワークバックアップ機能に対応したNASにデータをバックアップできます。

●ジャーナリングファイルシステム対応

本製品への読み書きに関するアクシデント発生時に、ファイルシステムの健全性を高く保つことができます。

●「Auto MDI/MDI-X機能」によるネットワーク規格の自動識別

接続する機器のLANポートの仕様（MDI/MDI-X）に応じて、自動的にネットワーク仕様を識別します。接続先のLANポートの仕様や、ストレートケーブル/クロスケーブルの違いを意識する必要がありません。

●低騒音，低消費電力設計

「HDDスリープ機能」，「流体軸受けドライブ」採用により，騒音の発生を抑えています。ホームユースでの使用においても騒音が気になりません。定格消費電力65W，HDDスリープ機能動作時25Wの低消費電力を実現し，これにより，常時起動して使用する環境でも，運用コストを抑えることができます。

●コンパクトサイズの筐体

60×181×213mm（幅×高さ×奥行き）のコンパクトサイズの筐体によ

り，設置場所をとりません。

●盗難防止用の「ケンジントンロック接続用スリット」を装備

3mm×7mmサイズのスリットを搭載しているので，市販のケンジントン対応盗難防止ワイヤを接続でき，企業ユースでの盗難防止対策に役立ちます。

2 本製品の使用環境

本製品は以下の環境でご使用ください。

使用するパソコンはLAN環境に接続されている必要があります。

クライアント環境

本製品にアクセスできるOSは次のとおりです。

日本語のOSのみサポートしています。

Windows	Windows XP Home Edition Windows XP Professional Service Pack1以降 Windows 2000 Professional Service Pack1以降 Windows NT 4.0 Workstation Service Pack6以降 Windows Me Windows 98(Second Edition含む)
Macintosh	Mac OS X 10.4~10.4.2 Mac OS X 10.0.4~10.3.9 Mac OS 9.0.4~9.2.2

設定、管理クライアント環境

本製品の初期設定は、「クイックセットアップツール」でおこないます。
初期設定後の管理には、Webベースの管理ソフトウェア「ストレージマネージャ」を採用しています。

●クイックセットアップツール動作環境

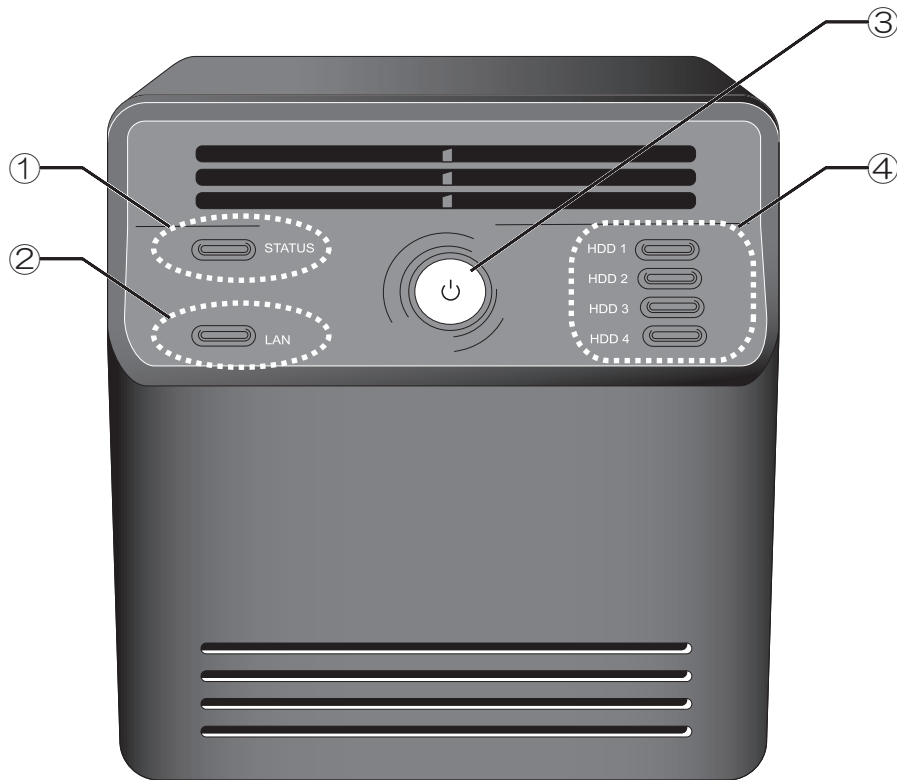
Windows	Windows XP Home Edition Service Pack1以降 Windows XP Professional Service Pack1以降 Windows 2000 Professional Service Pack1以降 Windows Me Windows 98 Second Edition
Macintosh	Mac OS X 10.4~10.4.2 Mac OS X 10.2~10.3.9

●管理ソフトウェア対応ブラウザ

Windows	Internet Explorer 6.0以降 (Javaスクリプトを実行可能な環境が必要です)
Macintosh	Internet Explorer 5.0以降 (Javaスクリプトを実行可能な環境が必要です)

3 本体各部の名称とはたらき

本体前面



① ステータス表示ランプ (STATUS)

ドライブの状態を示します。

緑色	正常に動作しています。
オレンジ色	本製品のシステムが起動完了していないか、本製品にエラーが発生しています。管理画面 (ストレージマネージャ) で状態を確認してください。

② ネットワーク表示ランプ (LAN)

ネットワーク接続が確立しているときに点灯、データ送受信時に点滅します。

③ 電源スイッチ

本製品の電源を投入／切断するときに押します。

また、正常起動時は青色に点灯します。

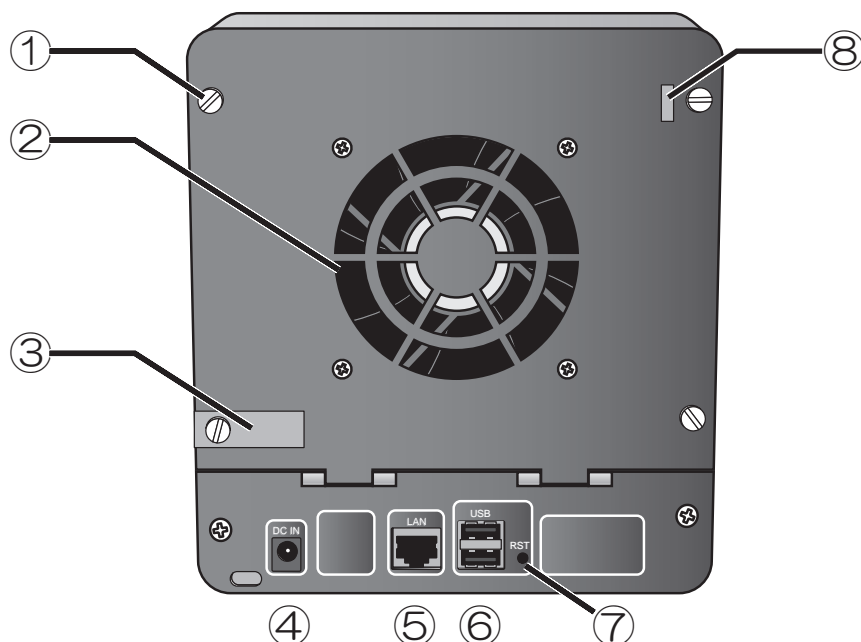
→導入編「5. 本製品の起動と終了」(P35) を参照してください。

④ HDDアクセスランプ (HDD1~HDD4)

本製品に内蔵の4台のドライブの状態を示します。

緑色	正常に動作しています。 データアクセス時には点滅します。
オレンジ色	ドライブに異常が発生しています。ブラウザから管理画面を表示し、詳しいステータスを確認してください。

本体背面



① 背面カバー取り付けネジ (4箇所)

本体背面カバーを固定します。

② 冷却ファン

本体内部の冷却用ファンです。設置の際は、冷却性能確保のため壁などから10cm以上離し、開口部をふさがないようにしてください。

③ ACアダプタケーブル固定フック

DC INに接続したケーブルをこのフックを通して固定することにより、不用意にACアダプタが外れることによる電源の切断を防ぎます。

④ DC IN

添付のACアダプタ（ACケーブルと接続した状態）を接続します。本製品に添付のACアダプタ以外は接続しないでください。

⑤ LANポート

添付のLANケーブルを使用して、ハブなどのネットワーク機器に接続します。

⑥ USB2.0ポート（2ポート）

市販のUSB機器を接続します。接続したUSB機器は、本製品のクライアントで共用できます。また、USBバックアップ（P96）時にUSBディスクを接続します。

⑦ リセットスイッチ（RST）

本製品が起動しているときに5秒以上押し続けることで、本製品の管理者パスワード、IPアドレスを初期状態に戻します。



本製品を初期状態に戻す際は、念のためデータのバックアップを取ってからおこなってください。

⑧ ケンジントンロック装着スリット

市販の盗難防止用ケンジントンロックを接続可能な、3mm×7mmのスリットです。

4 付属品について

ACアダプタ

添付のACケーブルと接続して使用します。本製品添付のACアダプタ以外は使用しないでください。



不用意にACアダプタが外れて本製品の電源が切断されるのを防ぐため、ACアダプタのケーブルは本体背面のACアダプタケーブル固定フック（P13）で固定してください。

ACケーブル

ACアダプタと接続した状態で、ACコンセントと本体背面のDC INを接続して使用します。本製品添付のACケーブル以外は使用しないでください。

LANケーブル

本体背面のLANポートに接続して使用します。
ストレートタイプのLANケーブルです。

5 設置条件

●設置場所

次の条件を満たす場所に設置してください。

項目	動作時	非動作時
温度	10~35℃	-20~+50℃
湿度	20~80%（結露なきこと）	
ちり，ほこり	一般的な事務室での使用を想定	

●設置してはいけない場所

次のような場所には設置しないでください。

- ・ 直射日光のあたる場所
- ・ 温度，湿度の変化が激しい場所
- ・ 電氣的ノイズを発生する機器の近く（モーターの近くなど）
- ・ 強磁界を発生する機器の近く（ラジオなど）
- ・ ちり，ほこりの多い場所
- ・ 振動の多い場所
- ・ 腐食性ガス（亜硫酸ガス，硫化水素，塩素ガス，アンモニアなど）や塩分を多量に含む空気が発生する場所
- ・ 周囲が密閉された棚や箱の中などの，通気が妨げられる場所
- ・ 不安定な場所

6 RAIDについて

ここでは、RAIDについて知っておいていただきたい基本的な知識について説明します。



- RAIDはシステムの可用性のレベルを大幅に引き上げますが、データの安全を保障するものではありません。定期的にデータをバックアップしておくことを強くおすすめします。不意な電源切断などで、RAIDでもデータを復元できない場合があります。弊社ではいかなる場合でも保存内容の修復、保証はいたしかねます。
- 最も可用性が高いRAID 5であっても、1台のディスクで起きる使用不能を補償する手段に過ぎず、2台のディスクが同時に使用不能になると、データは消失してしまいます。
- 本製品を初期状態に戻すと、本製品に保存されたデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取ってから作業してください。

冗長性があるRAID構成での利用時に、1台のディスクに障害が発生した場合のディスク交換方法については、別冊の「クイックリペアガイド」に詳しく掲載しています。事前に必ず目を通しておいてください。

RAIDとは

RAIDは“Redundant Array of Independent Drives”の略語です。

RAIDは、小容量、低コストの多数のディスク装置を結合して“ディスクアレイ”を構成し、同等容量の1台の大型ディスク装置に勝る性能を可能にし、さらに個別のディスク装置のメリットを活かしてシステムを効率化する技術です。

RAIDでは、読み書きを個々のディスク装置に分散することによりデータアクセスを高速化します。これにより、大型のディスク装置1台の場合と比べて、アクセス要求待機時のボトルネックを解消します。実際には、ディスクアレイにデータを書き込む際に多数のブロックに分割し、複数のディスク装置に記憶されます。同様に、データを読み取る際には、複数のディスク装置から同時に読み出すことにより、ディスクアレイのアクセス速度を高速化します。

これに加えて、RAIDの種類によっては記憶領域の一部をデータのミラーリングに利用する仕様のものがあります。つまり、冗長なデータを記憶することに

なり、ディスクアレイにしたディスク装置の1台が故障してもシステムの整合性が損なわれることはありません。

RAIDの種類

RAIDにはいくつか種類がありますが、本製品に関係する内容について説明します。

● RAID 0（ストライピング）

RAID 0では、データを分割し、別々の場所に記録します。ただし、フォールトトレラントではありません。

RAID 0では、ディスクアレイは1台の大型ディスク装置として取り扱われます。そのサイズは、個々のディスク装置をすべて結合したサイズとほぼ同じです。

複数ディスク装置への並列アクセスにより、読み書きの高速化が可能となり、個別にディスク装置を使用する場合より動作が高速化されます。そのため、RAID 0は大量のストリーミングデータの効率的な転送が必要な用途に最適です。

RAID 0は冗長性を備えていません。したがって、ディスクアレイのうち1台のディスク装置に障害が起きると、ディスクアレイ全体が使用不能になります。

● RAID 1（ミラーリング）

RAID 1は、2台のディスクで構成され、ディスク装置がペア配列されます。データは常に両方のディスク装置にペアで書き込まれます。したがって、RAID 1は比較的障害に対しての安全性が考慮されています。ただし、使用可能な容量は物理記憶容量の半分になり、他の方法より対容量コストが高くなります。

RAID 1は、安全性が重視される複数ユーザの環境で多く使用されます。

● RAID 5

RAID 5は、RAID 0と同じく、複数のディスク装置（最低3台）を使用して1台の大型仮想ディスクの働きをします。ただし、パリティデータ (Parity) 形式によって冗長なデータを記録する点がRAID 0と異なります。RAID 5では、データの書き込み中にデータをスキャンし、冗長な

(redundancy) データがディスクアレイ内の別のディスク装置に記録されます。さらに、パリティ情報は分割して別々のディスクに記録されます。ディスクアレイ内の1台のディスク装置が使用不能になっても、データ保護用のディスクに保存されているパリティデータを使用して情報全体を復元することができます。

RAID 5構成時の使用可能容量は、物理記憶容量の合計から1台分のディスク容量を引いた値になります。

※RAID 5を構成するには、最低3台のディスクが必要です。

Chapter 2

導入編

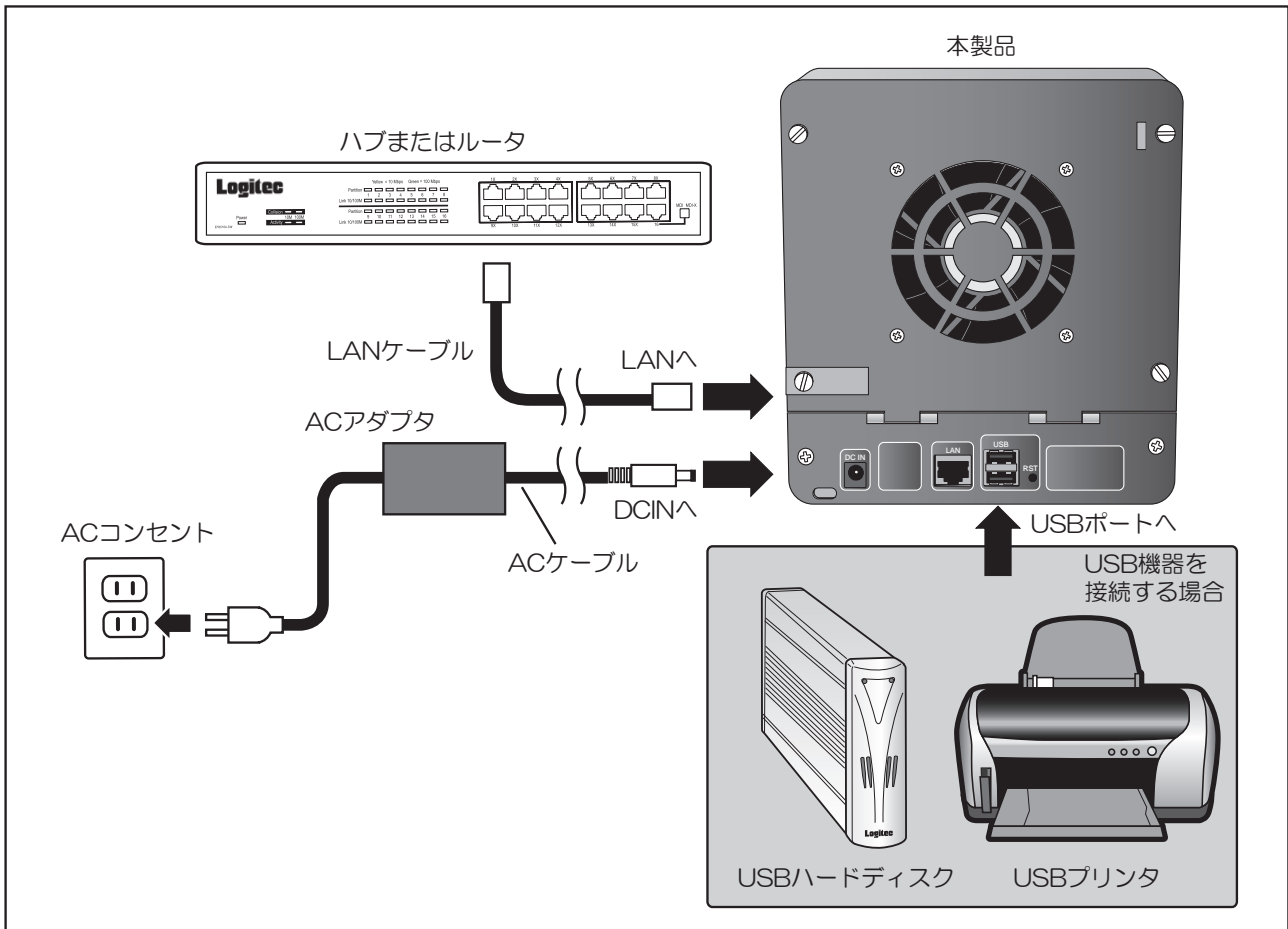
ここでは、本製品の初期設定および基本操作について説明します。

1. 本製品の接続	20
2. セットアップランチャーの起動	22
3. クイックセットアップツールによる初期設定	24
4. 管理ソフトウェアへのログイン	33
5. 本製品の起動と終了	35
6. 一般ユーザとしての利用	36
7. USB機器の使用について	48

1

本製品の接続

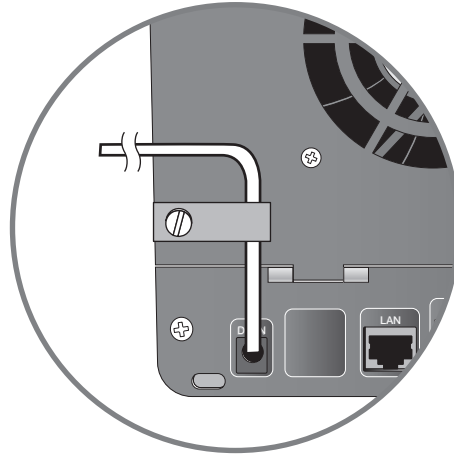
本製品をご利用のネットワーク環境に接続する手順を説明します。



1

付属のACアダプタとACケーブルを接続します。

- 2** ACアダプタ先端のコネクタを、本体背面のDC INに接続します。
このとき、ACアダプタの引き抜け防止のため、ACアダプタのケーブルをACアダプタケーブル固定フックに固定してください。



- 3** ACアダプタをACコンセントに接続します。
- 4** 付属のLANケーブルで、本体背面のLANポートとハブなどのネットワーク機器を接続します。
- 5** 必要に応じて、本製品を経由して共用するUSB機器を接続します。
「6. USB機器の使用について」をお読みください。
- 6** 本体前面の電源スイッチを押し、電源を投入します。

これで本製品の接続は完了です。
引き続き、「2. セットアップランチャーの起動」に進んでください。

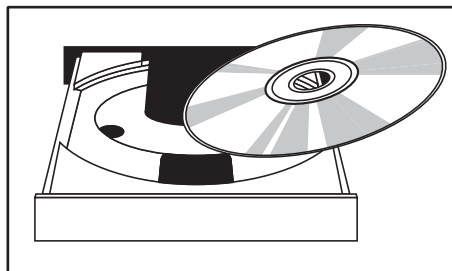
2 セットアップランチャーの起動

本製品の初期設定をおこなうため、添付のサポートディスクを本製品と同じネットワーク内の管理用パソコン（クライアント）のCD-ROMドライブに入れ、セットアップランチャーを起動します。

MEMO 管理用パソコンに特殊な設定は必要ありません。
ネットワーク内のどのパソコンを管理用パソコンにしても結構です。
管理用パソコンの環境については、「設定、管理クライアント環境」(PX)をお読みください。

管理用パソコンがWindows環境の場合の手順を説明します。

- 1 添付の「LHD-LANQGサポートディスク」を管理用パソコンのCD-ROMドライブに入れます。



- 2 セットアップランチャーが起動します。



自動的にセットアップランチャーが起動しない場合は、CD-ROM内の「START.exe」をダブルクリックしてください。

セットアップランチャーが起動したら、引き続き、「3. クイックセットアップツールによる初期設定」に進んでください。

管理用パソコンがMac OS X環境の場合

管理用パソコンがMac OS X環境の場合は、セットアップランチャーは起動しません。次の手順で直接クイックセットアップツールを起動してください。

- ① 「LHD-LANQGサポートディスク」をCD-ROMドライブに入れます。
- ② CD-ROM内の「MacOS X」フォルダをデスクトップにコピーします。
- ③ コピーしたフォルダをダブルクリックして開きます。
- ④ フォルダ内にある「クイックセットアップツール」をダブルクリックすると、クイックセットアップツールが起動します。

引き続き、「3. クイックセットアップツールによる初期設定」に進んでください。

3 クイックセットアップツールによる初期設定

本製品の初期設定は、クイックセットアップツールでおこないます。クイックセットアップツールにより、接続するネットワーク環境を自動的に検出して本製品に設定します。

※ Windows環境について説明していますが、Macintoshの場合も手順はほぼ同じです。

本製品のセットアップ方法には、「1クリックセットアップ」と「詳細設定セットアップ」の2種類があります。

1クリック セットアップ (P25)	IPアドレス、管理者パスワードの設定、LHD-LAN名称、初期共有フォルダ (public) の作成、ネットワークドライブへのマッピングまでを自動でおこないます。通常はこちらを選択してください。
詳細設定セットアップ (P28)	各設定を手動でおこないます。 任意のネットワーク設定をおこないたい場合はこちらを選択してください。

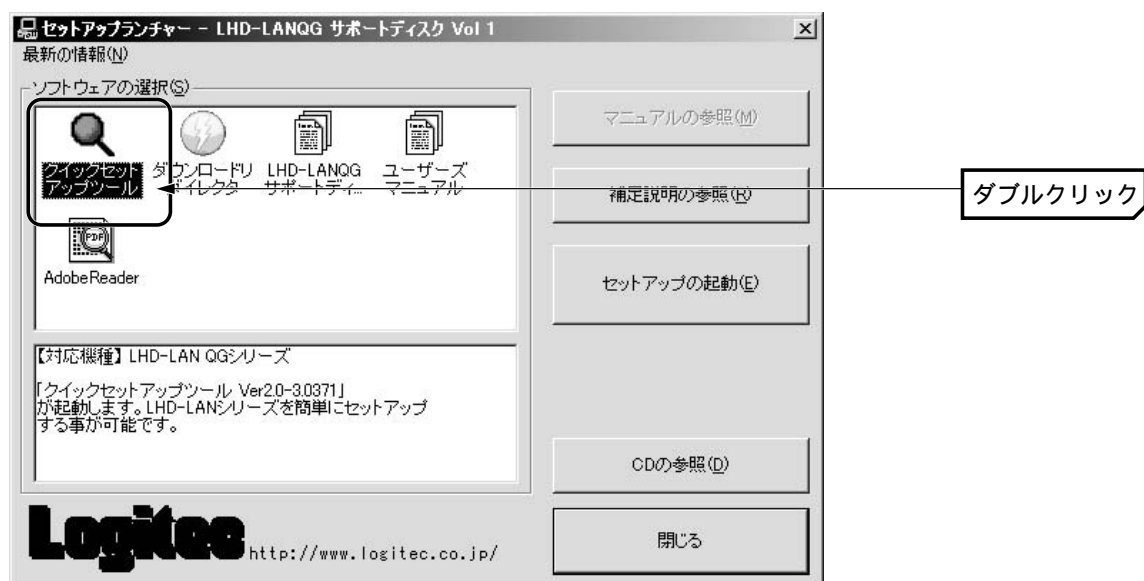


クイックセットアップツールは、ルータを越えた場所にある機器は検出できません。必ず同じセグメント内のパソコンから実行してください。

1 クリックセットアップによる初期設定

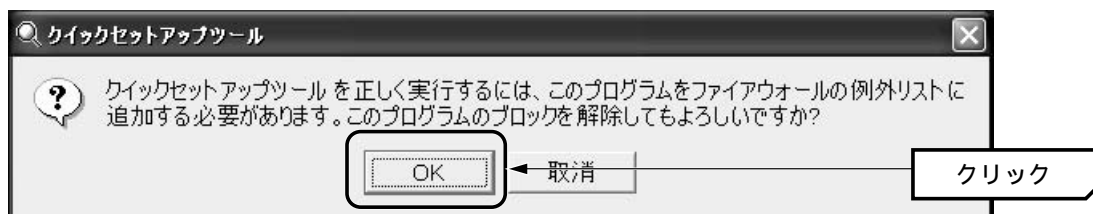
1クリックセットアップによる初期設定手順を説明します。

- 1** 電源ボタンを押して、本製品の電源を入れます。しばらくして、すべてのランプが緑色に点灯することを確認します。
- 2** セットアップランチャーから、「クイックセットアップツール」を選択し、ダブルクリックします。



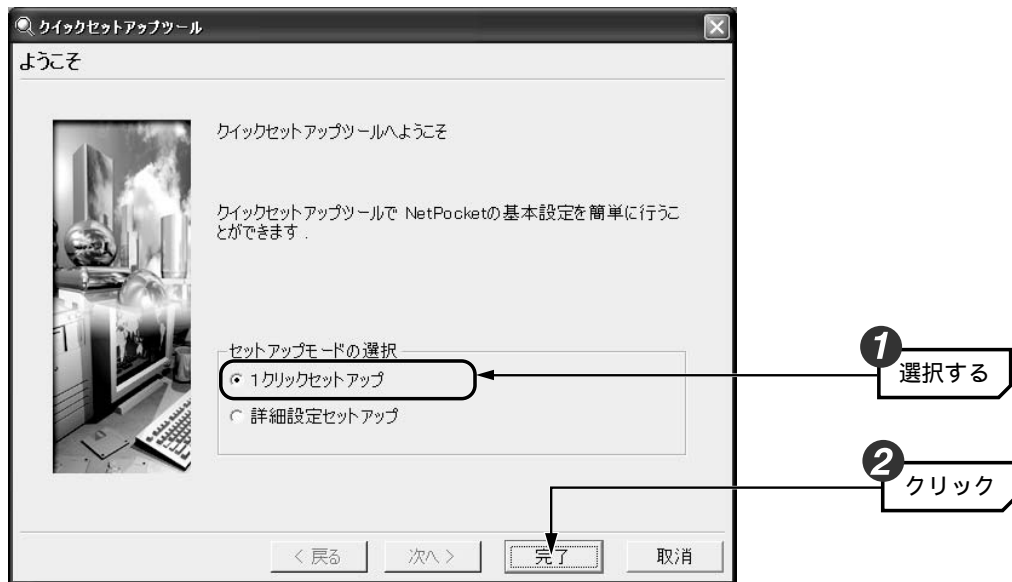
ダブルクリックの代わりに、**セットアップの起動** をクリックしても同じ動作となります。

- 3** 管理用パソコンの環境によっては、次の画面が表示されますので、**OK** をクリックします。



クイックセットアップツールは、Windowsファイアウォールなどのファイアウォールソフトと同時に使用できませんので、例外に設定する必要があります。この画面は、初めてクイックセットアップツールを起動したときのみ表示されます。

- 4** クイックセットアップツールが起動しますので、セットアップモードに「1クリックセットアップ」を選択して、**完了**をクリックします。
設定が終わるまでしばらくお待ちください。



MEMO クイックセットアップツールは、ルータを越えた場所にある機器は検出できません。必ず同じセグメント内のパソコンから実行してください。

1クリックセットアップでの設定値は次のとおりです。

IPアドレス	ネットワーク設定検出による自動設定
管理者パスワード	(なし)
LHD-LAN名称	LogitecNAS

MEMO ●ネットワークドライブのマッピング

1クリックセットアップでは、自動的に本製品内のpublicフォルダがネットワークドライブとしてマッピングされます。ネットワークドライブへのアクセスは、セットアップを実行したユーザのみ有効です。

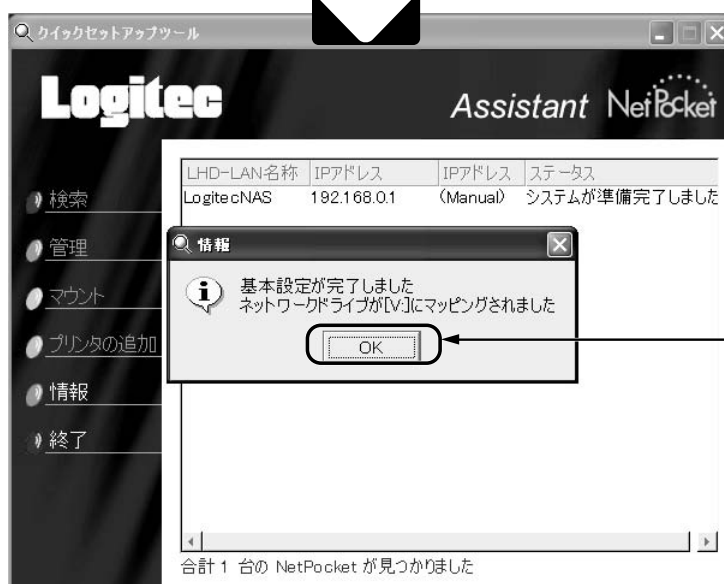
●publicフォルダのアクセス権限

1クリックセットアップでは、adminユーザ権限でネットワークドライブが登録されます。このユーザが、後から別のユーザで本製品を使用したい場合は、ユーザ名を登録後、いったんマッピングされたドライブをすべて削除し、登録したユーザ名でネットワークドライブを登録し直す必要があります。

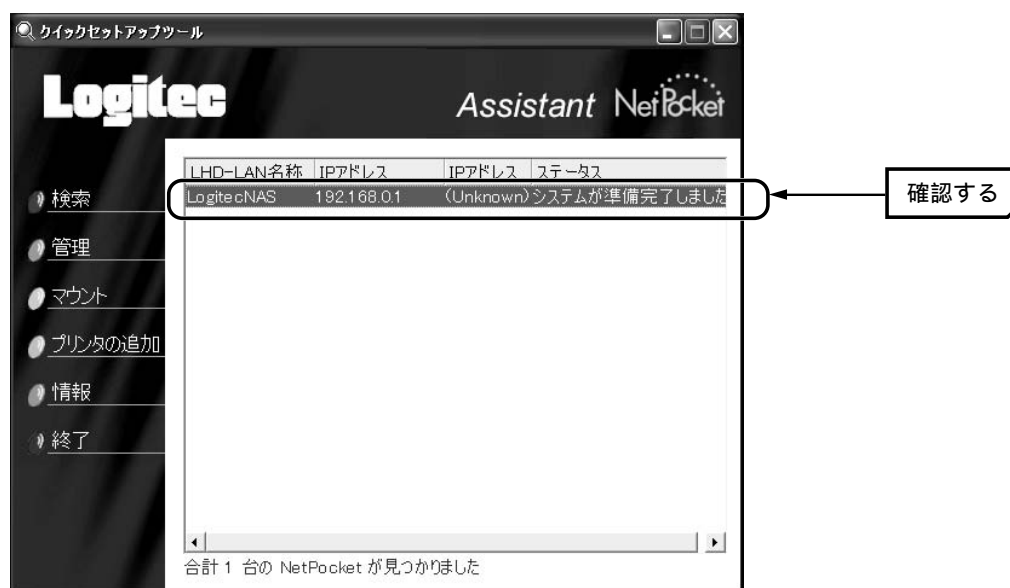
5

途中で設定内容が表示されます。

設定情報の登録が完了すると、確認ダイアログが表示されますので、**OK**をクリックします。



- 6 セットアップツールの画面に戻りますので、LHD-LAN 名称に「LogitecNAS」が登録されていることを確認してください。



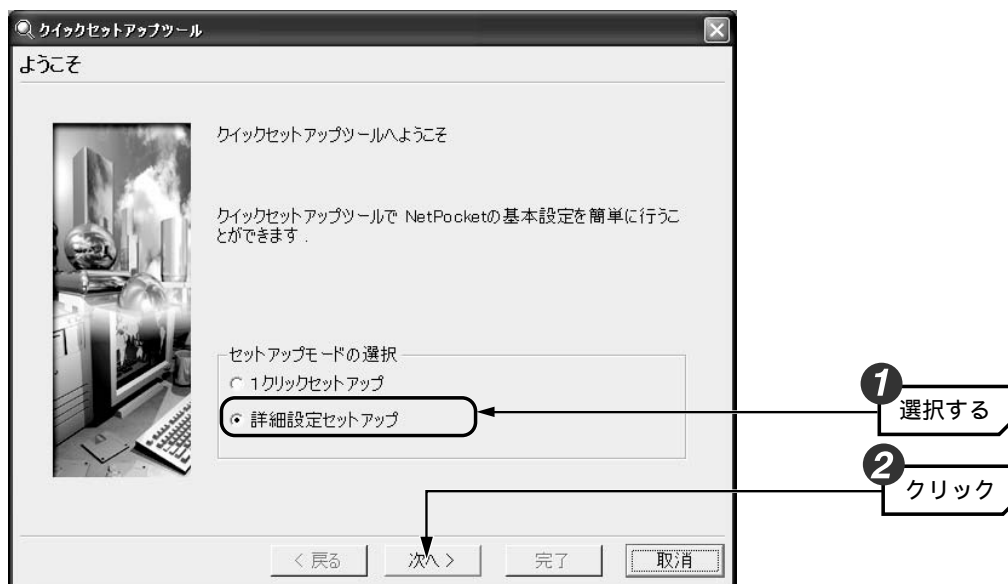
以上で初期設定は完了です。以降の設定は、管理画面にアクセスしておこないます。「4. 管理ソフトウェアへのログイン」に進んでください。

詳細セットアップによる初期設定

詳細セットアップによる初期設定手順を説明します。

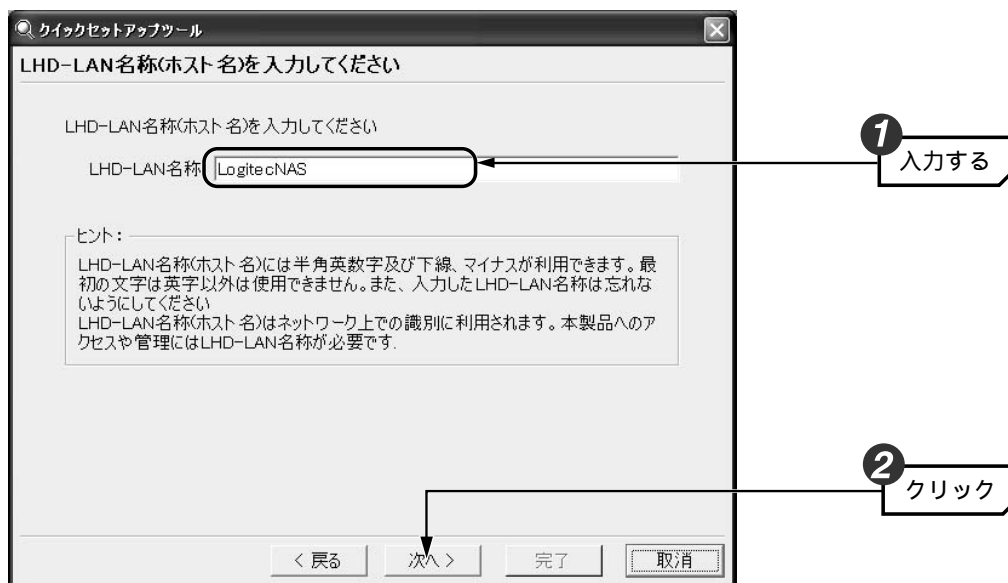
- 1 本製品の電源を入れ、クイックセットアップツールを起動します。手順は「1クリックセットアップによる初期設定」と同じです。P25の手順1～3をお読みください。

- 2** クイックセットアップツールが起動しますので、セットアップモードに「詳細設定セットアップ」を選択して、**次へ**をクリックします。



MEMO クイックセットアップツールは、ルータを越えた場所にある機器は検出できません。必ず同じセグメント内のパソコンから実行してください。

- 3** LHD-LAN名称（ホスト名）を入力します。初期値（LogitecNAS）から変更する必要がある場合は、名称を入力して、**次へ**をクリックします。



MEMO

●複数の弊社製NASを使用する場合

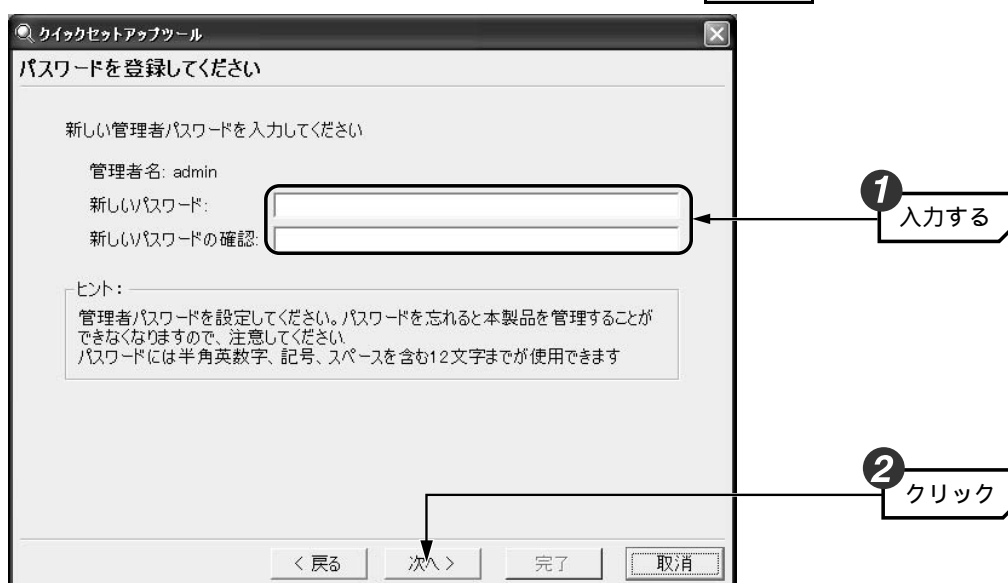
弊社製NASのLHD-LAN名称（ホスト名）の初期値は、「LogitecNAS」で共通です。同一ネットワークで複数の弊社製品を使用する場合は、名称を変更してください。

●ホスト名の制限

LHD-LAN名称には、半角英数字、ハイフン（-）が使用でき、大文字、小文字が区別されます。ただし、最初の文字は英字以外登録できません。

4

管理者（admin）のパスワードを設定します。初期値は空白になっていますので、必要に応じてパスワードを入力して、**次へ**をクリックします。



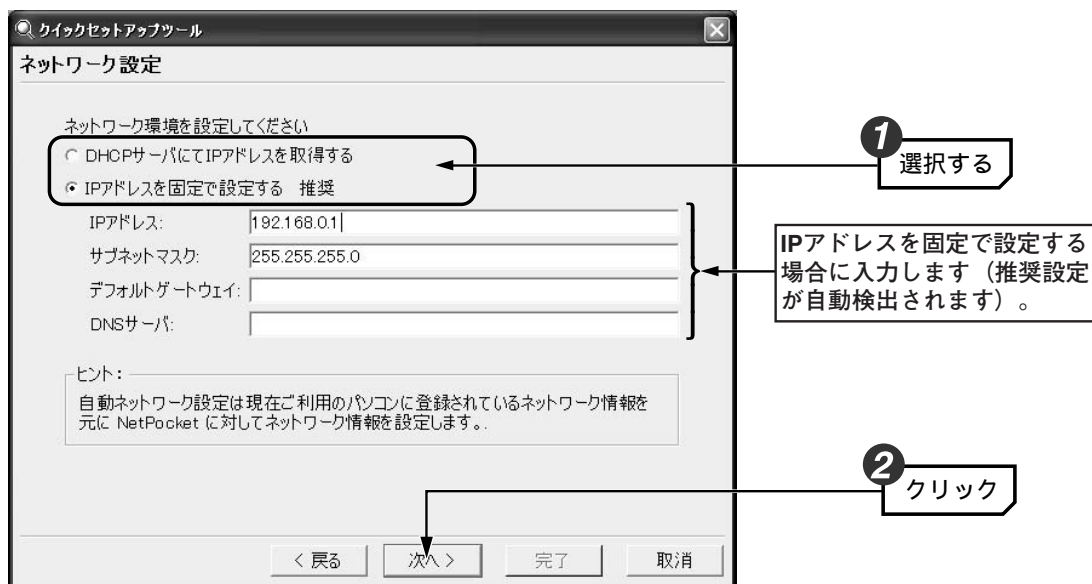
登録したパスワードを忘れると、管理画面にアクセスできなくなります。忘れないように管理してください。

MEMO

●パスワードの制限

パスワードには、12文字以内の半角英数字、記号、スペースが設定できます。大文字、小文字は区別されます。

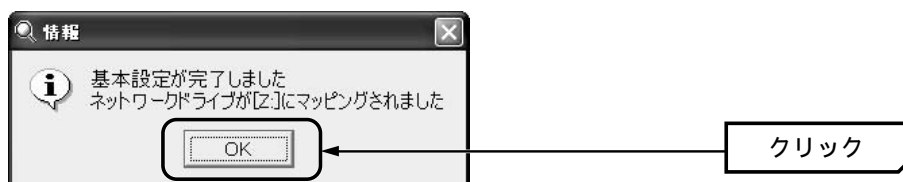
- 5** ネットワーク設定画面が表示されますので、ご使用のネットワーク環境に合わせて設定します。設定が終わったら、**次へ** をクリックします。



- 6** 設定レポートが表示されますので、内容を確認して**完了** をクリックします。設定内容が登録されるまで、しばらくお待ちください。



- 7** 設定情報の登録が完了すると、ネットワークドライブのマッピング確認ダイアログが表示されますので、**OK** をクリックします。



- 8** セットアップツールの画面に戻りますので、設定したLHD-LAN名称が登録されていることを確認してください。

以上で初期設定は完了です。以降の設定は、管理画面にアクセスしておこないます。「4. 管理ソフトウェアへのログイン」に進んでください。

本製品出荷時のRAID構成

本製品出荷時のRAID構成は次のとおりです。

必要に応じてボリューム設定を変更して使用してください。

ボリューム構成の変更方法は、Chapter 4 応用操作編をお読みください。

品名	ドライブ構成	RAID構成	容量
LHD-LAN2000QG	500GB×4台	RAID 5	約1.5TB
LHD-LAN1600QG	400GB×4台	RAID 5	約1.2TB
LHD-LAN1000QG	250GB×4台	RAID 5	約750GB

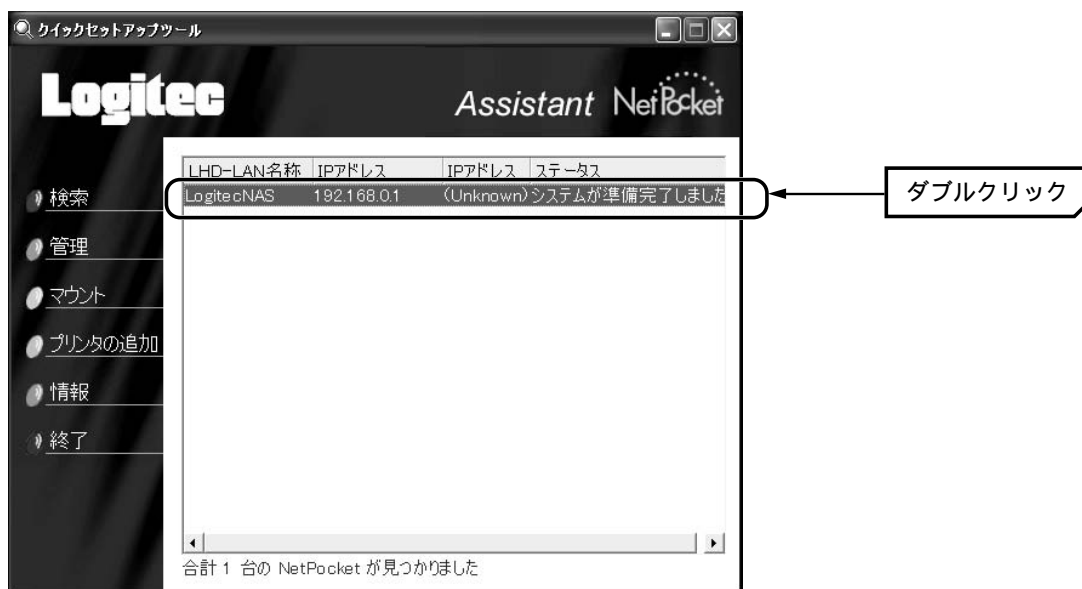
4 管理ソフトウェアへのログイン

初期設定が終わったら、次の手順で管理ソフトウェア「ストレージマネージャ」にログインし、必要な設定をおこないます。

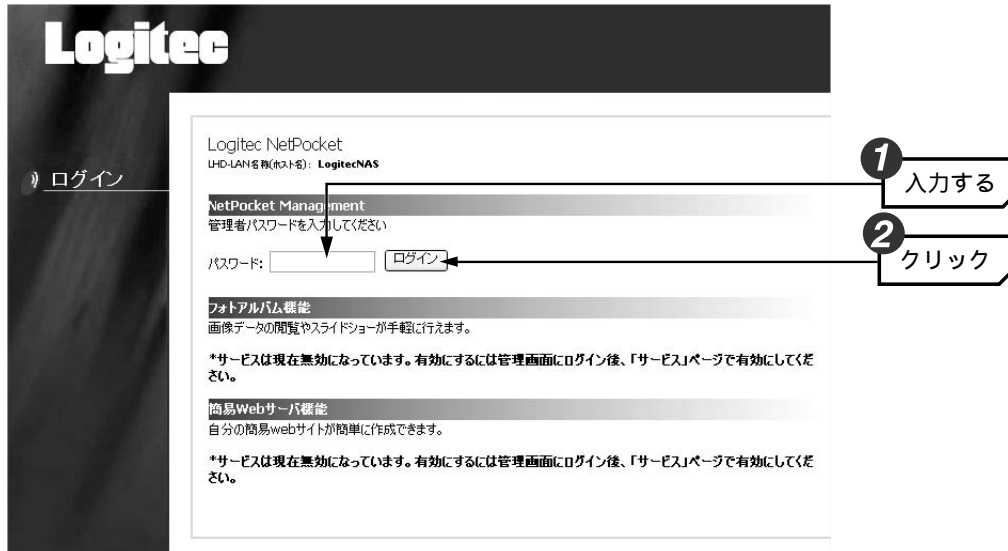
管理ソフトウェアの詳細については、Chapter 3「基本操作編」をお読みください。

- 1 クイックセットアップツールが起動していない場合は、セットアップランチャーから「クイックセットアップツール」のアイコンをダブルクリックし、クイックセットアップツールを起動します。
すでに起動している場合は手順2に進みます。

- 2 表示されているLHD-LAN名称から、管理画面を表示したいホスト名を探してダブルクリックします。



- 3** Webブラウザが起動し、ログイン画面が表示されます。パスワードを設定した場合はパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。



- 4** [HOME]→「概要」が表示された状態で、ストレージマネージャの初期画面が表示されます。

MEMO

●インターネットエクスプローラからの直接起動

インターネットエクスプローラの「アドレス」欄に半角英数字で本製品のIPアドレスとポート名「:5000」を入力することで、クイックセットアップツールを経由せずにストレージマネージャにアクセスできます。

ご使用のLHD-LANシリーズのIPアドレスが「192.168.2.10」の場合は、アドレス欄に次のように入力します。

<http://192.168.2.10:5000/>

※「:5000」を入力しない場合は、簡易Webサーバのトップページが表示されます（簡易Webサーバ機能が有効で、共有Webフォルダにindex.htmlファイルが存在する場合）。

5 本製品の起動と終了

本製品の起動と終了（シャットダウン）について説明します。

システムの起動

本製品の起動は、次の手順でおこないます。

- ① 本製品前面の電源スイッチを押します。
- ② 電源表示ランプが点滅します。
- ③ 30秒ほどするとビープ音が鳴り、ネットワーク表示ランプとHDアクセスランプが緑色に点灯します。
- ④ しばらくして、ステータス表示ランプが点灯したら、システムの起動は完了です。

システムのシャットダウン

本製品の終了（シャットダウン）は、次の手順でおこないます。

- ① 本製品前面の電源スイッチを、ビープ音が鳴るまで数秒間押し続けます。
- ② 電源表示ランプが点滅し、シャットダウン処理が始まります。
- ③ しばらくすると、本製品の電源が切れます。



ストレージマネージャの[ツール]→[シャットダウン]を選択しても、本製品の電源を切ることができます。

停電などによる不意の電源切断に備えるため、UPS（無停電電源ユニット）の使用をおすすめします。

6 一般ユーザとしての利用

管理者でない一般ユーザが本製品の共有フォルダを利用するには、次の4つの方法があります。お使いの環境により適切な方法を選択してください。

●「ドライブマップウィザード」による接続（Windowsのみ）（P37）

クイックセットアップツールの「ドライブマップウィザード」を使用してマッピングします。ドライブマップウィザードは、クイックセットアップツールの[マウント]を選択して開始します。

ドライブマップウィザードにより、本製品の共有フォルダをクライアントパソコンのマイコンピュータ上に自動登録できます。クライアントからは、ローカルディスクにアクセスするのと同じ感覚で共有フォルダへアクセスできます。

●SMB共有による接続（Windowsのみ）（P39）

Windows標準の機能を使用します。IPアドレスまたはホスト名（LHD-LAN名称）で本製品をネットワーク上で検索し、表示された共有フォルダにアクセスします。必要に応じて手動でネットワークドライブとして登録することもできます。

●AppleTalk共有による接続（MacOSのみ）（P43）

Macintosh標準のネットワークプロトコル「AppleTalk」を使用します。IPアドレスまたはホスト名（LHD-LAN名称）で本製品をネットワーク上で検索し、表示された共有フォルダにアクセスします。

●FTP共有による接続（P46）

FTPクライアントとして本製品の共有ドライブに接続します。本製品出荷時の状態ではFTPサービスは有効になっていないので、ストレージマネージャ上での設定が必要です。

→Chapter 3 基本操作編「6. FTPサービスの利用」を参照してください。

「ドライブマップウィザード」による接続

ドライブマップウィザードを使用して本製品の共有フォルダにアクセスする手順を説明します。

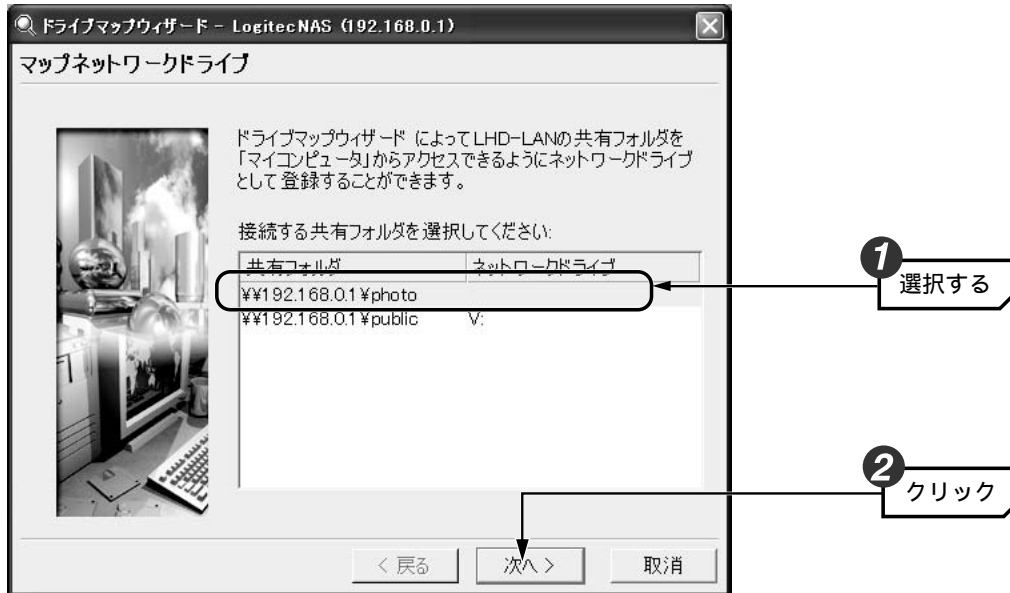
1 添付の「LHD-LANQGサポートディスク」をパソコンのCD-ROMドライブに入れ、セットアップランチャーを起動します。

手順については、「2. セットアップランチャーの起動」(P22)の手順1, 2をお読みください。

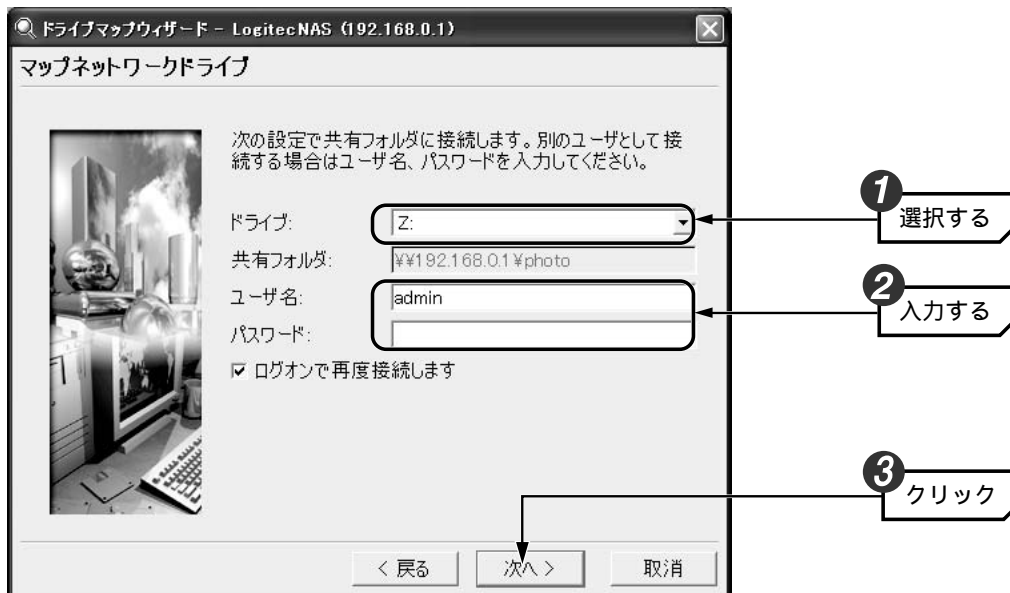
2 表示されているLHD-LAN名称から、接続したい機器名を選択して、[マウント]をクリックします。



- 3** ドライブマップウィザードが起動しますので、利用したい共有フォルダを選択し、**次へ**をクリックします。

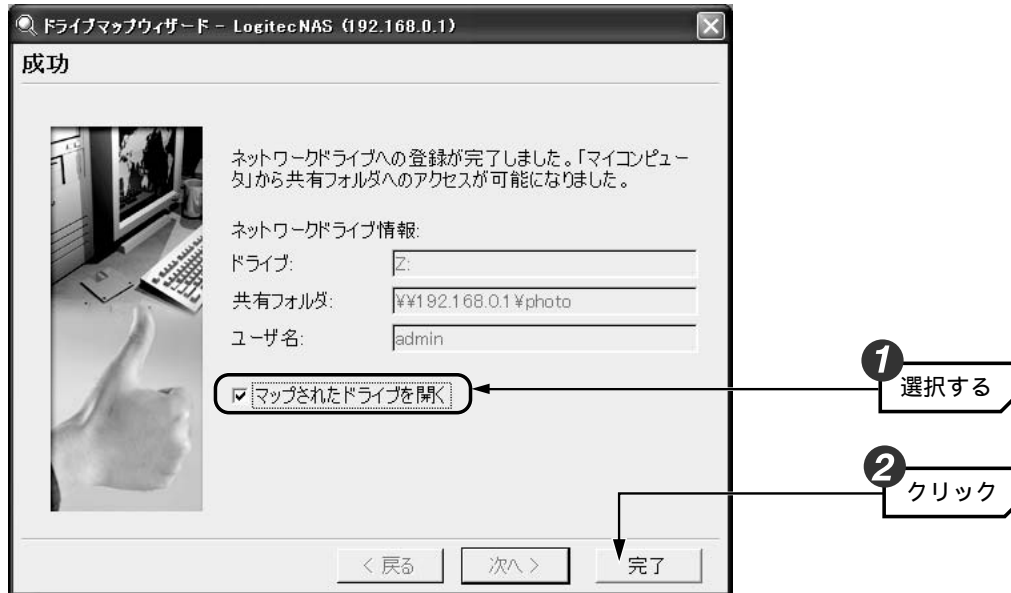


- 4** 必要に応じて使用するドライブ番号を変更し、ユーザ名、パスワードを入力して、**次へ**をクリックします。



MEMO ユーザ名、パスワードには、本製品にあらかじめ登録した情報を入力してください。Windowsへのログインと同じユーザ名、パスワードを登録し、「ログオンで再度接続します」を選択すると、本製品のアクセス時に個別にログインをする必要がなくなります。

- 5** マッピングが成功すると、次の画面が表示されます。「マップされたドライブを開く」のチェックボックスをクリックし、**完了**をクリックします。



- 6** マッピングしたドライブが開けば、設定は完了です。

SMB共有による接続

Windows標準のSMBプロトコルを使用して本製品の共有フォルダにアクセスする手順を説明します。OSにより手順が異なりますので、ご使用のOSの説明をお読みください。

Windows XP/2000/Meからの接続

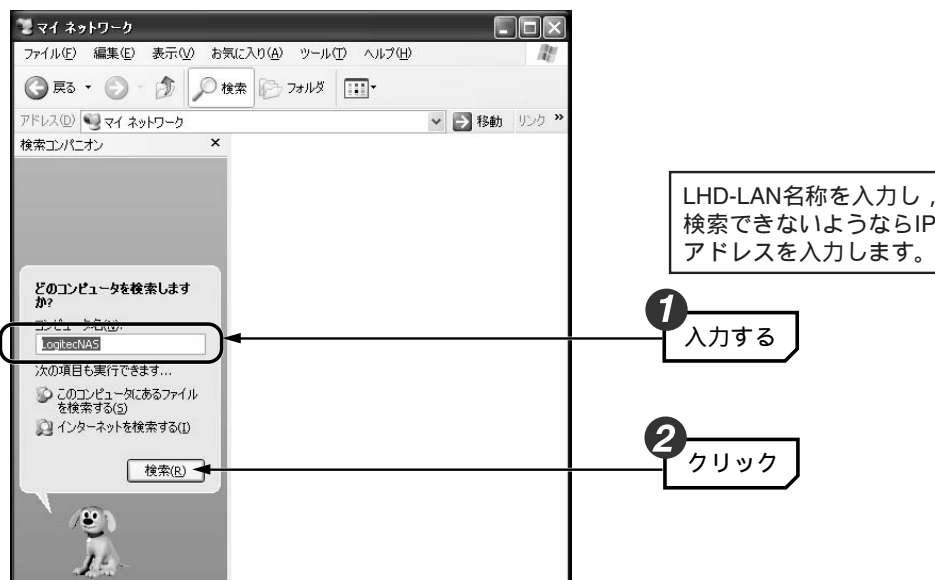
Windows XPを例に説明していますが、Windows 2000, Meでもほぼ手順は同じです。

- 1** スタートメニューから「マイコンピュータ」を選択し、表示された画面から「マイネットワーク」をクリックします。

2 メニューバーから、[検索]をクリックします。



3 検索画面が表示されますので、「コンピュータ名」に本製品のLHD-LAN名称またはIPアドレスを入力して、[検索]をクリックします。



4 見つかったコンピュータのアイコン（本製品のLHD-LAN名称またはIPアドレスが表示）をダブルクリックします。

- 5** ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されますので、本製品に登録したユーザ名とパスワードを入力し、**OK**をクリックします。



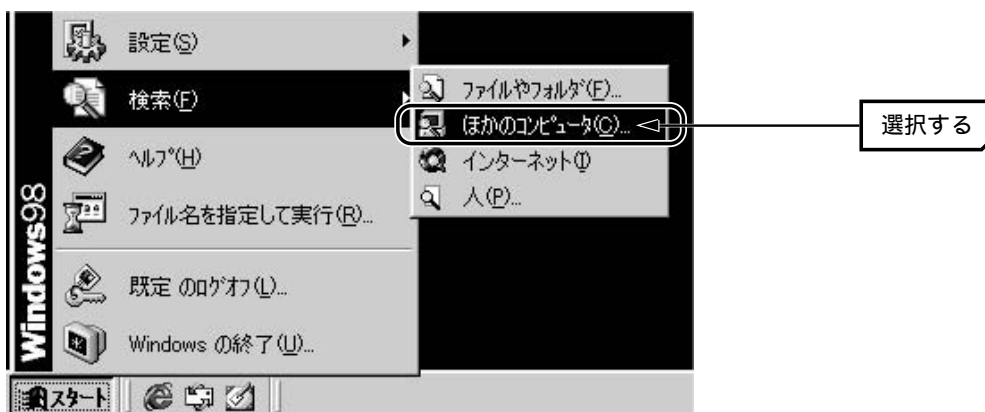
共有フォルダが表示されれば、SMB共有による接続は完了です。
本製品のguestアカウントが有効になっている場合は、ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されません（初期設定では有効になっています）。

MEMO この状態で共有フォルダを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を選択すると、共有フォルダを任意のドライブにマッピングできます。

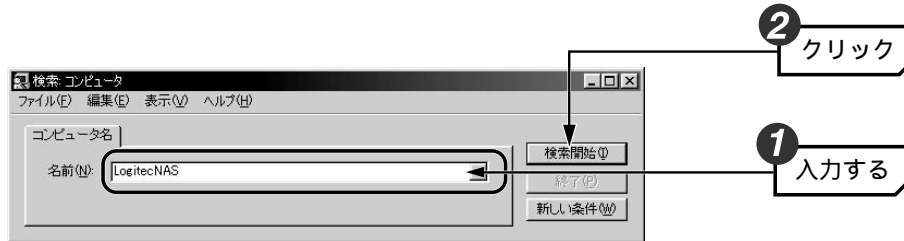
Windows 98, NT4.0からの接続

Windows 98（SE含む）、NT4.0からの接続手順を説明します。
※Windows 98を例に説明しています。

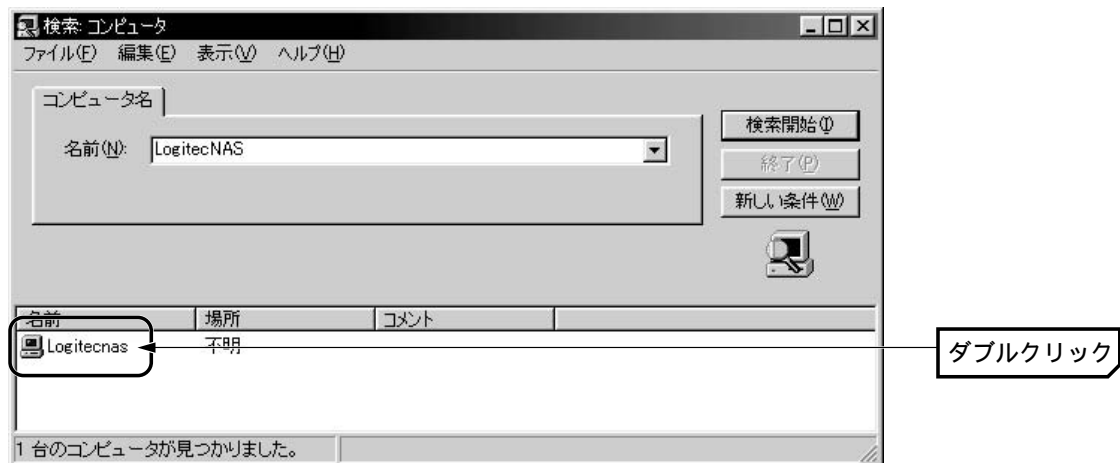
- 1** スタートメニューから[検索]→[ほかのコンピュータ]を選択します。



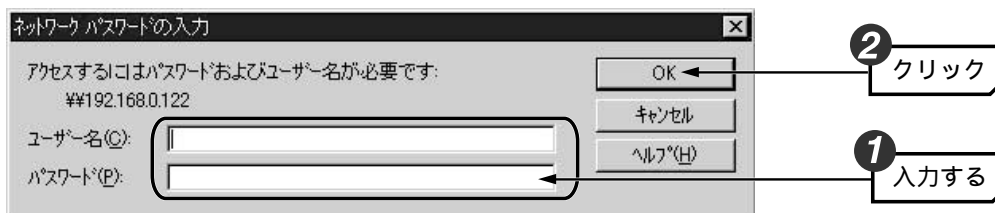
- 2** 検索ウィンドウが表示されますので、「名前」に本製品のLHD-LAN名称またはIPアドレスを入力して、**検索開始**をクリックします。



- 3** 見つかったコンピュータのアイコン（本製品のLHD-LAN名称またはIPアドレスが表示）をダブルクリックします。



- 4** Windows NT4.0では、ユーザ名パスワードを入力する画面が表示されますので、本製品に登録したユーザ名とパスワードを入力し、**OK**をクリックします。Windows 98では共有フォルダが表示されます。



Windows98では、次の場合にパスワード入力を求められることがあります。

Windowsユーザ名と本製品のユーザ名が同じで、パスワードのみが異なる場合
 guestアカウントが有効で、パスワードが設定されている場合

共有フォルダが表示されれば、SMB共有による接続は完了です。



この状態で共有フォルダを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を選択すると、共有フォルダを任意のドライブにマッピングできます。

AppleTalk共有による接続

Macintosh標準のネットワークプロトコル「AppleTalk」を使用して本製品の共有フォルダにアクセスする手順を説明します。

Mac OS Xの場合

1 [移動]→[サーバへ接続]を選択します。

2 リストからホスト名を選択して、**接続**をクリックします。

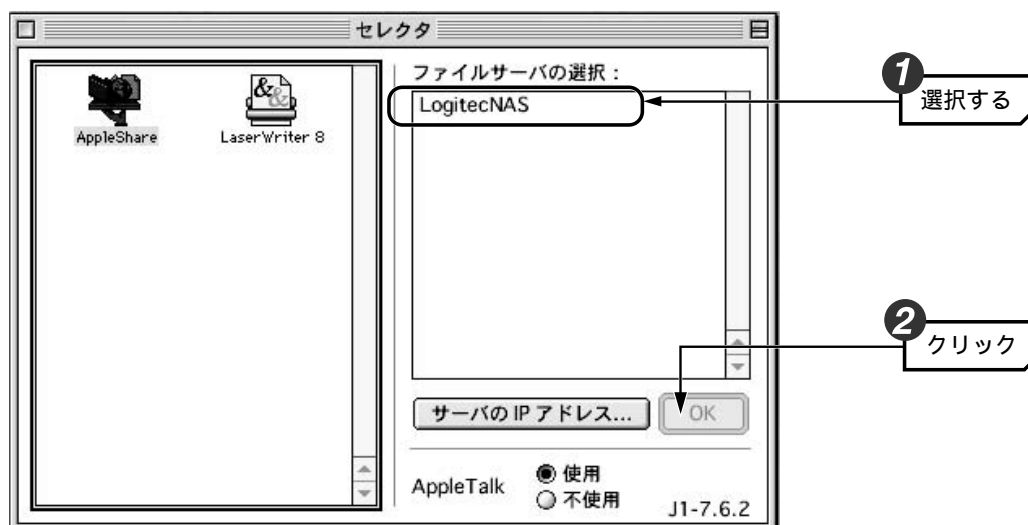


ホスト名が表示されない場合は、「アドレス」の欄にIPアドレスを入力します。

4 ユーザ名とパスワードを求めてきますので、本製品にユーザ登録をしていない場合は[ゲスト]のラジオボタンをクリックし、**接続**をクリックします。共有フォルダが表示されれば、接続は完了です。

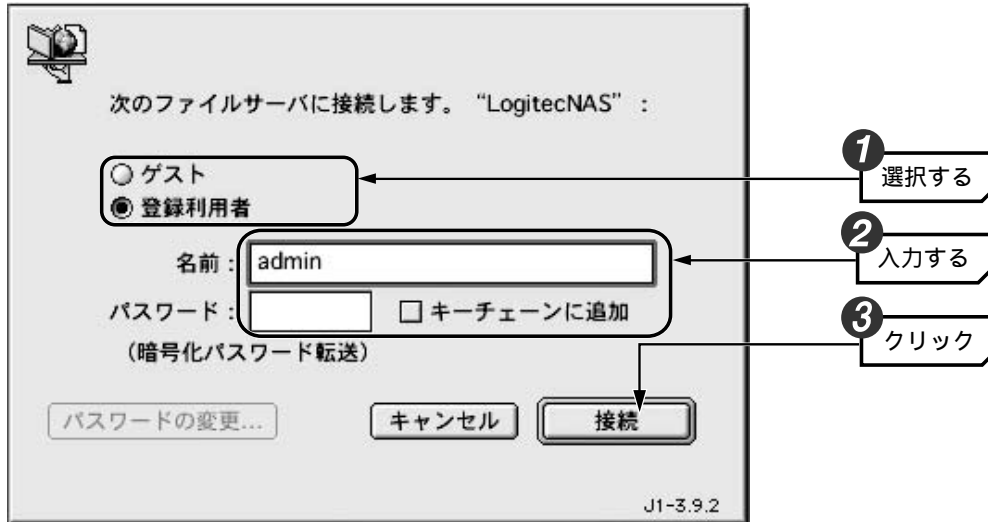
Mac OS 9の場合

- 1** Appleメニューより [セレクト] を選択します。
- 2** [セレクト] の画面が表示されますので、[AppleShare] を選択します。
- 3** [ファイルサーバの選択] に現れたリストからホスト名を選択して、**OK** をクリックします。



ホスト名が表示されない場合は、**サーバのIPアドレス** をクリックして表示された画面にIPアドレスを入力し、**接続** をクリックします。

- 4** ユーザ名とパスワードを求めてきますので、ユーザ名とパスワードを入力して、**接続**をクリックします。本製品にユーザ登録をしていない場合は「ゲスト」のラジオボタンをクリックし、**接続**をクリックします。



共有フォルダが表示されれば、接続は完了です。

FTP共有による接続

FTPプロトコルを使用して本製品の共有フォルダにアクセスする手順を説明します。インターネットエクスプローラを使用した手順で説明していますが、市販のFTPソフトウェアでも同様にIPアドレスまたはホスト名を指定すれば接続できます。

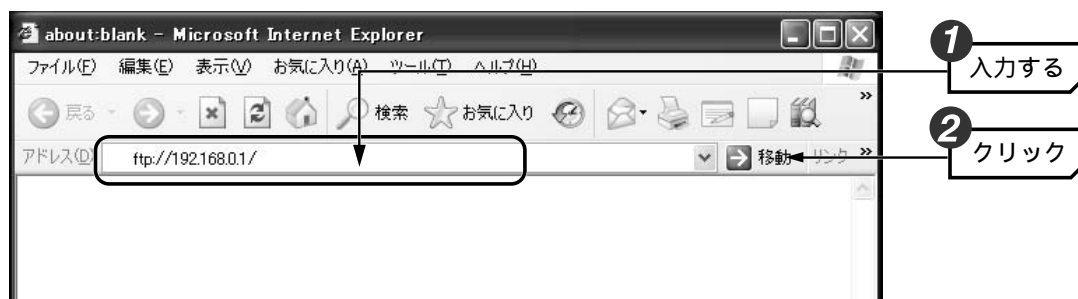
本製品出荷時の状態ではFTPサービスは有効になっていませんので、ストレージマネージャ上での設定が必要です。

→Chapter 3 基本操作編「6. FTPサービスの利用」を参照してください。



Macintosh環境からアクセスした場合は、書き込みはできません。読み込みのみ可能となります。

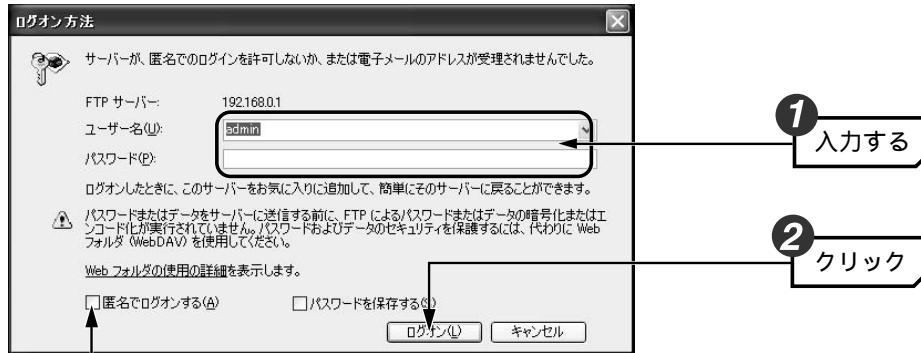
- 1 インターネットエクスプローラを起動し、「アドレス」に「ftp://本製品のLHD-LAN名称またはIPアドレス/」と入力して、**移動**をクリックします。



本製品のIPアドレスが「192.168.0.1」の場合は、次のように入力します。

ftp://192.168.0.1/

- 2** 「ログオン方法」ダイアログが表示されますので、本製品に設定されたユーザ名、パスワードを入力して、**ログオン** をクリックします。



匿名FTP(Anonymous FTP)で接続する場合は、ここをチェックします。

共有フォルダが表示されれば、接続は完了です。

MEMO

ストレージマネージャの[ネットワーク]→「FTPサービス」で「匿名FTPを有効にする」のチェックをオンにしておき、共有フォルダのアクセス権に「Anonymous FTP」を追加しておくことで、ユーザ名、パスワードの入力なしにFTP共有ができます。

7 USB機器の使用について

本製品の背面には、「USB2.0 High-Speed」に対応したUSBポートを2ポート装備しています。このUSBポートにUSBプリンタ、USBハードディスクなどを接続して共有することができます。



USBポートに機器を接続する場合は、USB機器とUSBポートを直接接続してください。USBハブを経由して接続しないでください。

●USBポートに接続して共有できる機器

USB機器	接続制限
プリンタ	同時に1台のみ接続可能
ハードディスク（USBディスク）	同時に2台まで接続可能
フラッシュメモリ	同時に2台まで接続可能
カードリーダー	・同時に2台まで接続可能 ・1スロットの製品のみ接続可能
USBポートを搭載したデジタルカメラ	同時に2台まで接続可能
無停電電源ユニット（UPS）	同時に1台のみ接続可能

※ 接続できる機器については、弊社Webサイト（<http://www.logitech.co.jp/>）でご確認ください。

USBプリンタ

本製品にUSBプリンタを接続すると、WindowsユーザがUSBプリンタを共有できるようになります。また、接続したプリンタがポストスクリプト（Postscript）対応の場合のみ、MacintoshユーザもUSBプリンタを共有できます。

ユーザは、使用するクライアントからドライバのインストールなど必要な設定をおこなうことでプリンタが使用可能となります。

詳しい設定方法については「USBプリンタマネージャを使用する」（P92）をお読みください。



本製品に接続できるプリンタは1台までです。2台以上のプリンタを接続しないでください。

USBディスク

本製品にはUSBディスクを2台まで接続できます。

USBディスクは、次の用途で使用できます。

●共有フォルダ（「増設用」に設定）

USBディスクのデータ領域を、共有フォルダとして使用できます。

●本製品のバックアップ領域（「バックアップ用」に設定）

USBディスクを、本製品内のデータのバックアップ領域として使用できます。

USBディスクは、次のような組み合わせで使用できます。

	1台目	2台目
1	増設用	—
2	バックアップ用	—
3	増設用	増設用
4	増設用	バックアップ用

※上記以外の組み合わせはできません。

USBディスクのフォーマットは、次の2種類が選択できます。

FAT32	Windows環境と互換性の高い形式です。 アクセス速度は専用フォーマットより低下します。
専用フォーマット	本製品内蔵ディスクと同じ専用フォーマットです。 本製品に最適化されているため、FAT32よりアクセス速度は高くなります。 本製品に接続してフォーマットする必要があります。

MEMO

FAT32で複数のパーティションが存在するUSBディスクを接続した場合は、先頭のパーティションのみが認識されます。

増設用HDとしての利用

共有フォルダとして使用できます。

ただし、USBディスクに対して、デフォルトのアクセス権（全ユーザーリード/ライト可）の設定を変更できません。

バックアップ用HDとしての利用

本製品内のデータのバックアップ領域として使用する設定です。

バックアップ領域として使用する場合、本製品に保存されたデータ容量以上の容量が必要です。

MEMO

本製品のシステム情報はバックアップされません。

増設用HDと組み合わせて使用した場合、増設用HD部分をバックアップすることはできません。

USBメモリ、USB接続対応のデジタルカメラ

USB接続対応のデジタルカメラやUSBメモリを接続することで、特に設定をしなくても接続した機器内のデータを共有できます。



機器の取り外しは、必ず管理画面からおこなってください。

USBハブは使用せず、本製品のUSBポートに直接接続して使用してください。

MEMO

接続できるUSB機器については、弊社Webサイト (<http://www.logitech.co.jp>) でご確認ください。

UPS（無停電電源装置）

UPS（無停電電源装置）として、弊社指定の機種を接続できます。UPSを接続することにより、常時起動での不意の停電の際にも正常にシャットダウンがおこなわれ、内蔵ディスクを保護します。

Chapter 3

基本操作編

ここでは、管理ソフトウェア「ストレージマネージャ」のよく使う機能について、操作方法と手順を説明しています。

管理画面へのアクセス方法や、一般のユーザがネットワーク経由で各フォルダにアクセスする方法については、「Chapter 2 導入編」をお読みください。

ストレージマネージャのその他の機能やコマンドリファレンスについては、「Chapter 4 応用操作編」をお読みください。

- ストレージマネージャの各画面で設定を変更した場合は、必ず画面の **適用** をクリックして設定値を確定してください。**適用** をクリックしないと設定は登録されません。
- ストレージマネージャ内で画面を移動する場合、メニューやタブなどの画面内の項目を利用してください。ブラウザの「進む」、「戻る」ボタンは使用しないでください。
- ストレージマネージャにログインしたまま、一定時間操作がない場合は、自動的に接続が切断されます。ログインし直してから操作してください。

1. パスワードの設定	52
2. ユーザ、グループの作成	53
3. 共有フォルダの作成	58
4. フォトステーション機能の利用	63
5. 簡易Webサーバ機能の利用	69
6. FTPサービスの利用	74
7. ダウンロードステーション機能の利用	80
8. USB機器の利用	87

1 パスワードの設定

パスワードの設定方法について説明します。

MEMO

1クリックセットアップでは、管理者ユーザ（admin）のパスワードは設定されません。管理者ユーザ以外のクライアントに設定を変更されたくない場合は、パスワードを設定してください。

パスワードの設定/変更は、[共有設定]→「ユーザ」タブでおこないます。

1 管理画面にログインし、[共有設定]を選択します。「ユーザ」タブが選択されていることを確認してください。

2 パスワードを設定したいユーザを選択し、「パスワード」、「パスワードの確認」に設定したいパスワードを入力します。**適用**をクリックすると、パスワードが設定されます。

The screenshot shows the Logitec user management interface. The 'ユーザ' (Users) tab is selected. A list of users is shown on the left, with 'admin' selected. The user details for 'admin' are shown on the right, including the password field. The '適用' (Apply) button is highlighted with a red circle and labeled '3 クリック'. Arrows point from the 'admin' user, the password fields, and the '適用' button to labels '1 選択する', '2 入力する', and '3 クリック' respectively.



注意 Adminのパスワードを変更した場合、そのパスワードを忘れると管理画面にログオンできなくなります。パスワードは忘れないように管理してください。

MEMO

パスワードは、12文字以内の半角英数字、記号、スペースで設定します。大文字、小文字が区別されます。

2 ユーザ，グループの作成

本製品へのアクセス権限は，サーバOSでのデータ共有と同様に，ユーザとグループで管理します。

ユーザを登録する

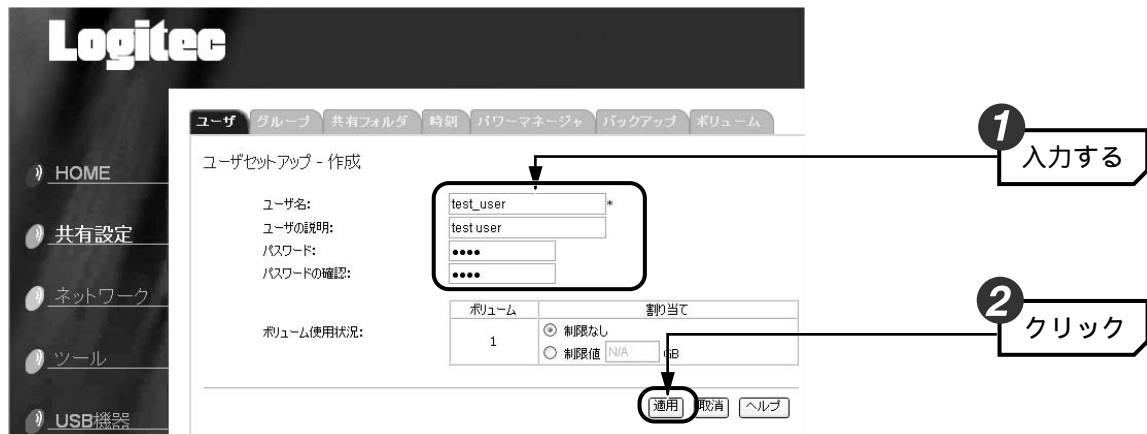
ユーザの登録は，[共有設定]→「ユーザ」タブでおこないます。

1 管理画面にログインし，[共有設定]を選択します。「ユーザ」タブが選択されていることを確認してください。

2 画面左下の**作成**をクリックします。



3 「ユーザセットアップー作成」が表示されます。登録したいユーザ名，ユーザの説明，パスワード，パスワードの確認を入力します。入力が終わったら，**適用**をクリックします。



ユーザに対して使用容量を制限したい場合は、「ボリューム使用状況」の「割り当て」から「制限値」を選択して、容量を入力します。

- 4** 設定が反映され、確認のメッセージが表示されたら、**続行**をクリックします。[共有設定]→「ユーザ」に戻りますので、作成したユーザが登録されたことを確認してください。



MEMO

- パスワードは、全角文字7文字または半角英数字15文字以内で設定します。アンダースコア (_), ハイフン (-), ドット (.), スペースが使用できます。大文字、小文字が区別されます。
ただし、最初の文字は英数字以外登録できません。
- ユーザの説明は、全角32文字、半角64文字まで入力できます。
- ユーザの削除はユーザを選択して **削除** をクリックすることでおこないます。ただし、「admin」、「guest」は削除できません。

ログイン手順の省略 (Windowsクライアントのみ)

ユーザ名、パスワードをWindowsへのログオンと同じ値に設定すると、本製品の共有フォルダにアクセスするときに、ユーザ名とパスワードの入力を省略できます。この場合のユーザ名、パスワードの制限は本製品ではなく、Windowsの仕様に依存します。

グループを登録する

グループとは、共通のアクセス権を設定できるユーザの集まりのことです。ユーザ数が数名の場合はグループを登録、管理する必要はありませんが、企業内での使用など、ユーザ数が多い場合は、ユーザをグループとして管理した方が効率的です。

MEMO 作成したユーザは、自動的にすべてのユーザが属する「users」に登録されます。

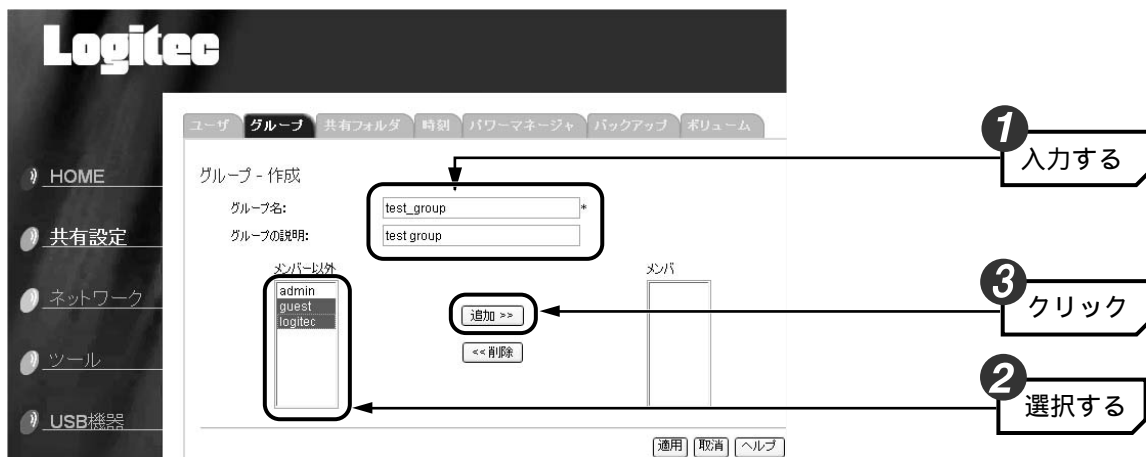
グループの登録は、[共有設定]→「グループ」タブでおこないます。

1 管理画面にログインし、[共有設定]→「グループ」タブを選択します。

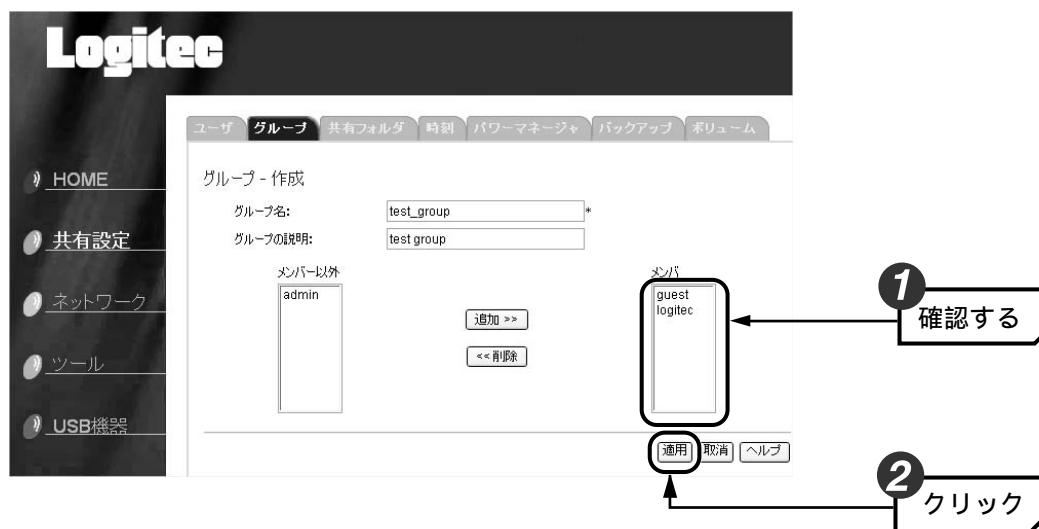
2 画面左下の**作成**をクリックします。



- 3** 「グループ作成」が表示されます。登録したいグループ名、グループ名の説明を入力し、「メンバー以外」からグループに所属させるユーザを選択し、**追加**をクリックします。



- 4** 「メンバー」のユーザ名を確認し、**適用**をクリックします。



- 5** 設定が反映され、確認のメッセージが表示されたら、**続行**をクリックします。[共有設定]→「グループ」に戻りますので、作成したグループが登録されたことを確認してください。

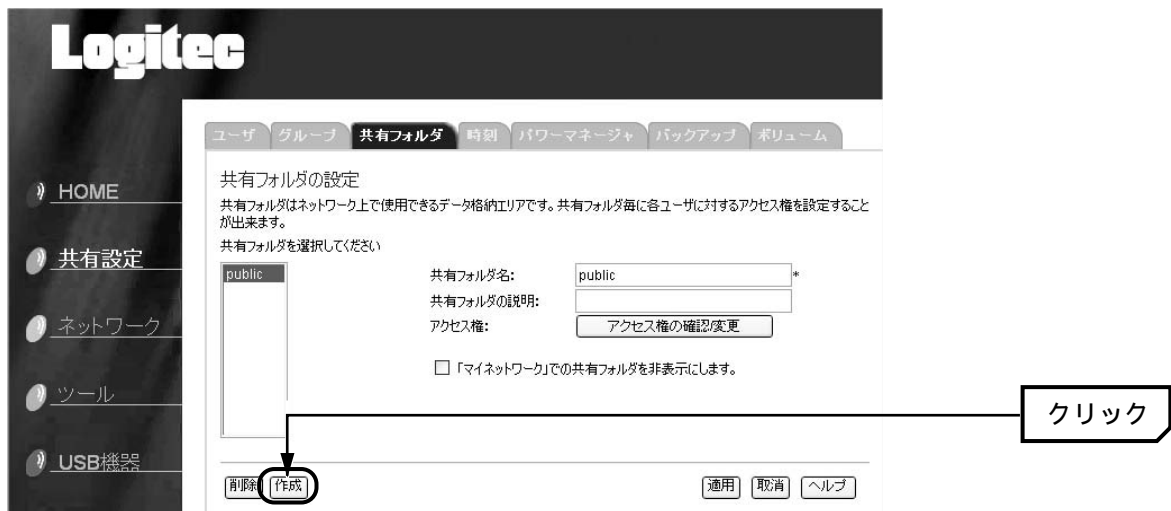


3 共有フォルダの作成

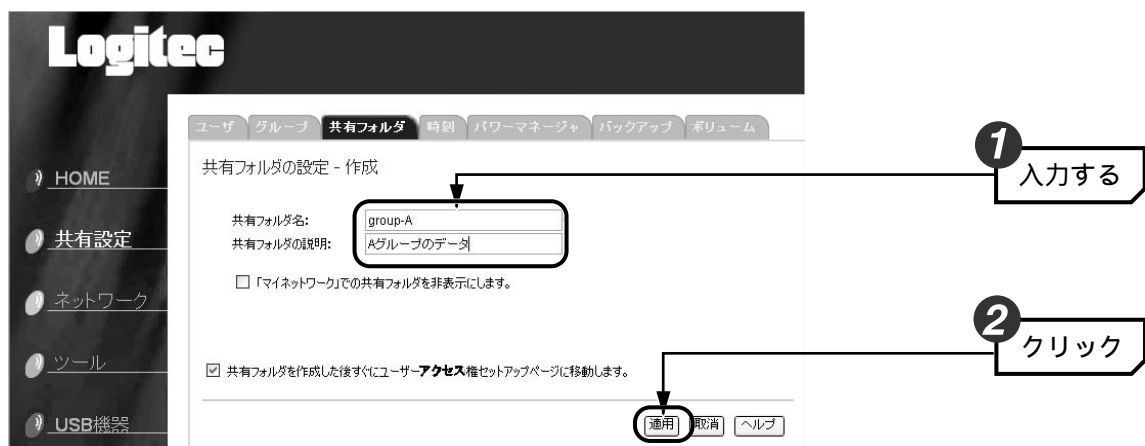
共有フォルダの作成は、[共有設定]→「共有フォルダ」タブでおこないます。新しく共有フォルダを作成し、そのフォルダにアクセス権を設定するまでの手順を説明します。

1 管理画面にログインし、[共有設定]→「共有フォルダ」タブを選択します。

2 画面左下の**作成**をクリックします。



3 「共有フォルダの設定－作成」が表示されます。共有フォルダ名と共有フォルダの説明を入力し、**適用**をクリックします。



「共有フォルダを作成した後すぐにユーザーアクセス権セットアップページに移動します」にチェックを入れると、共有フォルダ作成完了後、直接アクセス権設定に進みます（手順6に進んでください）。
 チェックを入れない場合は手順4に進みます。

MEMO

● 「マイネットワーク」での共有フォルダを非表示にします

このチェックボックスにチェックを入れると、「SMB共有による接続」(P39)で本製品を検索したときに、フォルダが見えなくなります。アクセスするユーザに、許可した以外のフォルダ構成を見せたくない場合に設定してください。

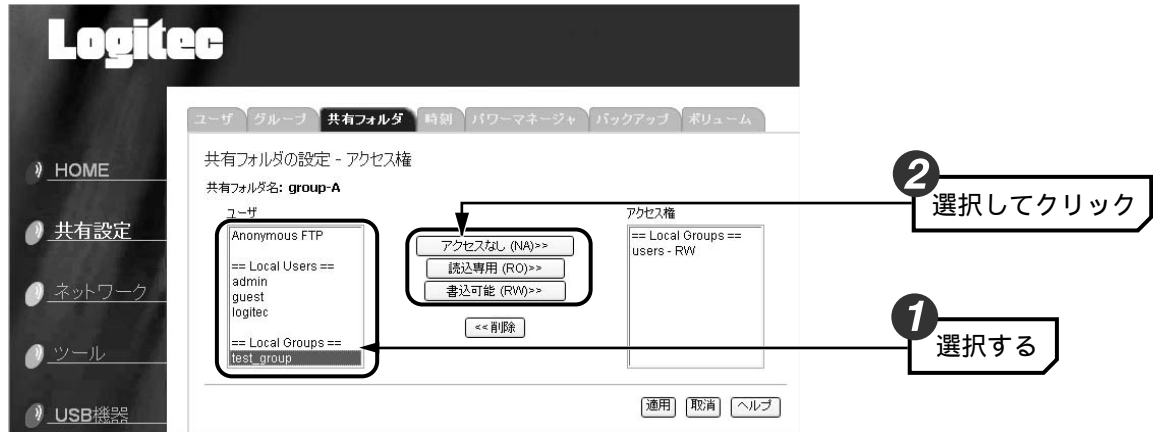
● 場所

ボリュームが複数存在する場合は、共有フォルダを作成するボリュームを指定できます。

4 設定が反映され、確認のメッセージが表示されたら、**続行**をクリックします。「共有フォルダ」欄に新しい共有フォルダが追加されます。

5 次にアクセス権を設定します。登録した共有フォルダを選択し、**アクセス権の確認/変更**をクリックします。

- 6** アクセス権の設定画面が表示されます。「ユーザ」からアクセス権を追加したいユーザ/グループを選択し、アクセス権の種類をボタンで選択すると、「アクセス権」にユーザ/グループが移動します。



アクセス権の種類は次のとおりです。

アクセスなし (NA)	ユーザまたはグループは、この共有フォルダにアクセスできません。
読込専用 (RO)	ユーザまたはグループは、この共有フォルダに対して、読み込みのみ可能です。
書込可能 (RW)	ユーザまたはグループは、この共有フォルダに対して、読み込み、書き込みが可能です。

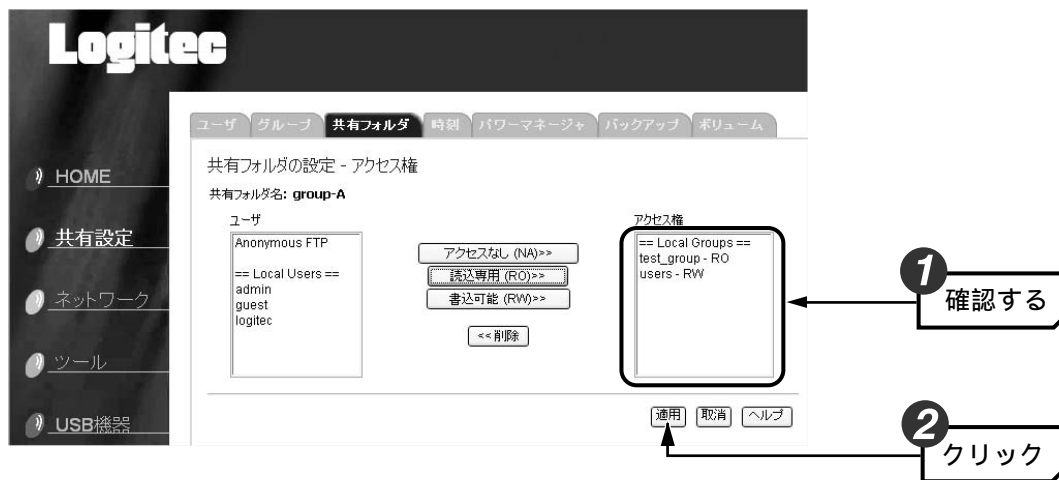
登録されているユーザまたはグループを削除したい場合は、「アクセス権」の欄でユーザまたはグループを選択し、**削除**をクリックしてください。



注意

共有フォルダをデフォルト設定で作成すると、usersグループにRWのアクセス権が付与されます。guestユーザはusersグループに所属しており、初期設定のまま使用すると、ネットワークに属するすべてのユーザが共有フォルダにアクセスできるようになります。セキュリティやリソース配分をきめ細かく管理したい場合は、guestユーザを無効にすることをおすすめします。

7 「アクセス権」の内容を確認し、**適用**をクリックします。



8 設定が反映され、確認のメッセージが表示されたら、**続行**をクリックします。[共有設定]→「共有フォルダ」に戻りますので、フォルダが登録されたことを確認してください。

アクセス権の設定に矛盾がある場合は、優先順位に従って自動的に解決されます。

→「アクセス権の優先順位」(P62)

MEMO

● 共有フォルダとは

共有フォルダとは、クライアントPCからデータの保存、参照、サブフォルダの作成が可能なフォルダです。それぞれの共有フォルダごとに個別のアクセス権を設定できます。アクセス権は共有フォルダのみに設定可能です。サブフォルダには上位の共有フォルダのアクセス権が引き継がれます。

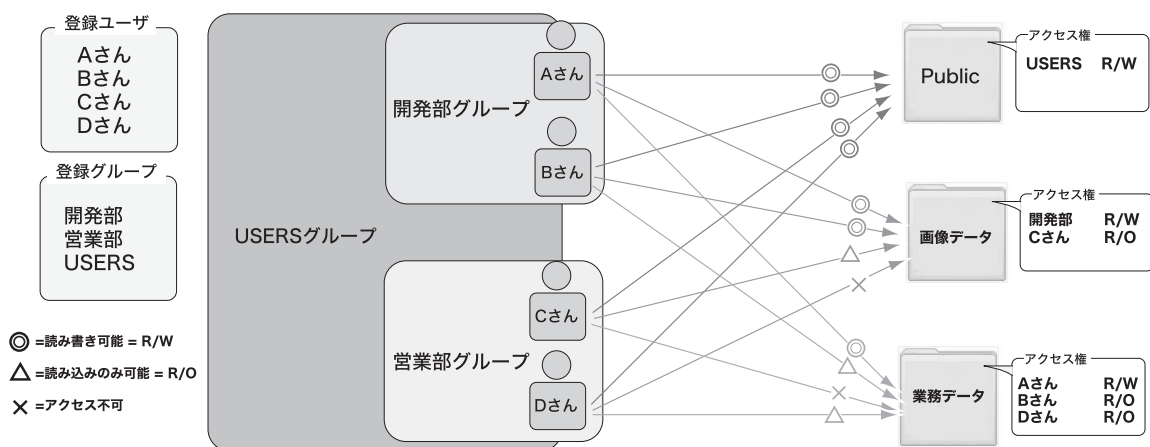
MEMO

● 共有フォルダ名の規則

1. 以下の名称は共有フォルダ名に使用できません。
"global", "homes", "home", "printers", ".", "..", "usbbackup"
2. "usbshare"で始まる共有フォルダ名は作成できません。
3. 共有フォルダ名の文字数は半角32文字以内です。
4. Windows98からアクセスする場合は、共有フォルダ名を半角12文字以内にしてください。
5. MacOS9からアクセスする場合は、共有フォルダ名を半角15文字以内にしてください。
6. 以下の記号は、共有フォルダ名に使用できません
!"#\$%&'()*+,-/:;<=>?@[]¥^`{|}~
7. スペースは共有フォルダ名の最初と最後には使用できません。
また、マイナス(-)は共有フォルダ名の最初の文字には使用できません
8. 共有フォルダの説明は半角で64文字、全角で32文字以内です。

アクセス権の優先順位

グループのアクセス権と、ユーザのアクセス権は別々に設定できます。アクセス権の設定に矛盾が生じたときの優先順位は、NA→RO→RWです。同時に2つのアクセス権を持つユーザは、優先順位の高いアクセス権に設定されます。



MEMO


USBディスク内の共有フォルダにはアクセス権を設定できません。すべてのユーザがRWのアクセス権を持ちます。

4 フォトステーション機能の利用

フォトステーション機能は、本製品内の共有フォルダ「photo」に画像や動画ファイルを保存することで、写真のサムネイルインデックスを自動的に作成し、Webブラウザ上でフォトアルバムとして閲覧できる機能です。

●サポートファイル形式

画像ファイル	BMP, GIF, JPG, JPEG, PNG
動画ファイル	ASF, AVI, MOV, MPG, MPEG, WMV

 ファイルサイズは、1ファイルあたり10MB以下にする必要があります。


●フォトアルバムのアドレス

フォトステーション機能を有効にすると、次のアドレスがフォトアルバムの初期アドレスになります。

`http://LHD-LAN名称または本製品に設定したIPアドレス/photo/`

例 本製品のIPアドレスが「192.168.0.1」の場合


`http://192.168.0.1/photo/`

 セキュリティの関係上、ルータを超えた転送を伴う使用については、未サポートとなります。

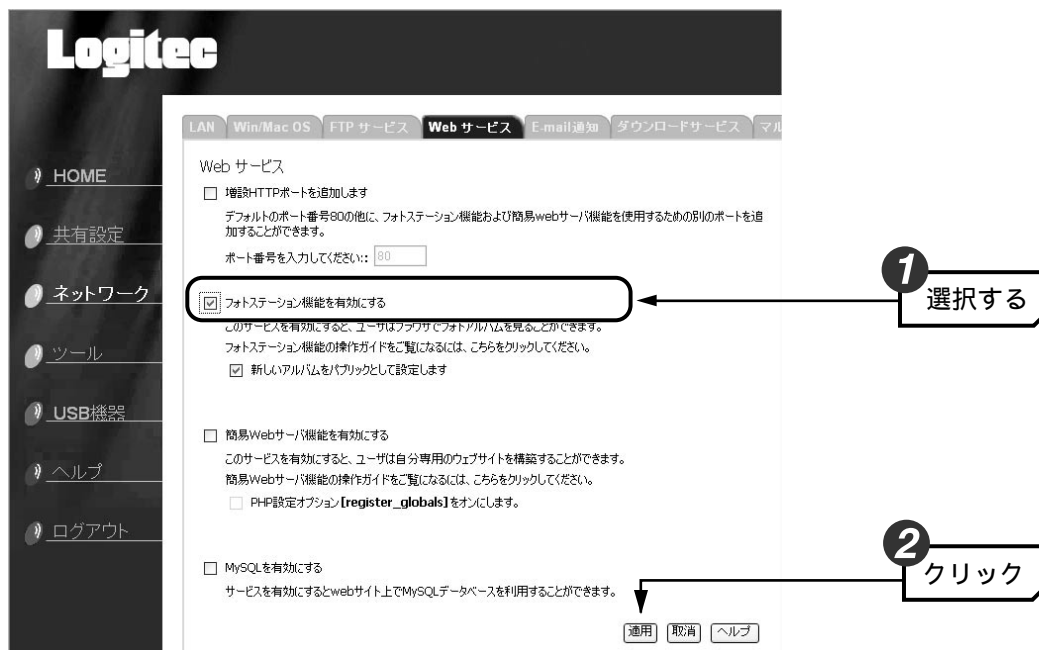
フォトステーション機能を有効にする

フォトステーション機能を有効にする手順を説明します。

フォトステーション機能は、初期設定では無効になっているため、利用の際は有効にする必要があります。

 フォトステーション機能を有効にすると、「photo」という共有フォルダが自動的に作成されます。

- 1 管理画面にログインし、[ネットワーク]→「Webサービス」タブを選択します。
- 2 サービスの一覧から「フォトステーション機能を有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用**ボタンを押します。



出荷時設定はオフになっています。

- 3 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。
[ネットワーク]→「Webサービス」画面に戻れば設定は完了です。

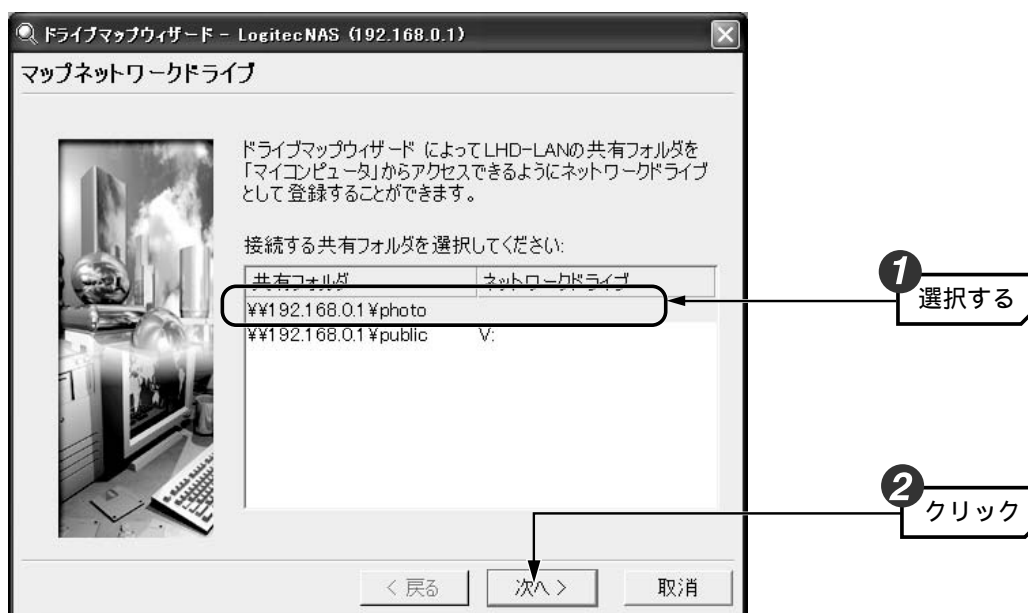
アルバムを作成する

アルバムを新たに作成し、写真データを登録する手順を説明します。
 ※管理用パソコン（クライアント）がWindows XPの場合の説明です。

- 1 クイックセットアップツールを起動して、目的のLHD-LANを選択し、[マウント]をクリックします。



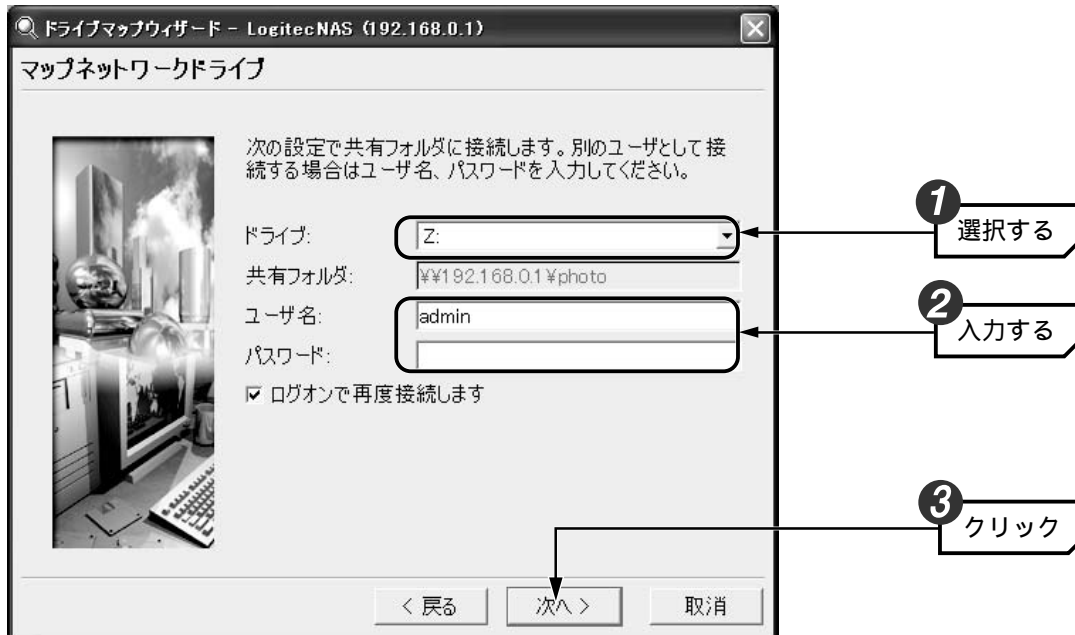
- 2 ドライブマップウィザードが起動しますので、共有フォルダ名の末尾に「¥photo」と表示された共有フォルダを選択し、[次へ]をクリックします。



MEMO

Macintosh環境では、ドライブマップウィザードは使用できません。導入編「AppleTalk共有による接続」(P43)をお読みにになり、photoフォルダをデスクトップ上にマウントさせ、手順5に進んでください。

- 3** 必要に応じて使用するドライブ名を変更し、ユーザ名、パスワードを入力して、**次へ**をクリックします。



- 4** マッピングが成功すると、次の画面が表示されます。「マップされたドライブを開く」をチェックし、**完了**をクリックします。



MEMO 共有フォルダ「photo」は、初期状態ではシステム管理者ユーザ（admin）しかアクセス権がありません。

- 5** マッピングされた共有フォルダが開きますので、右クリックして[新規作成]→[フォルダ]を選択し、「photo」内にサブフォルダを作成します。

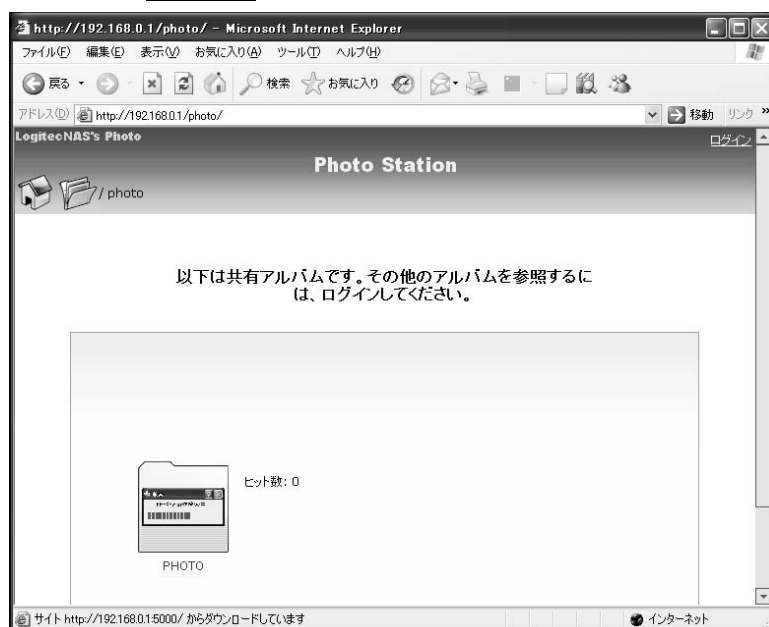


フォルダ名は任意に付けてかまいません。

- 6** 新しいフォルダに画像ファイルをコピーします。



- 7** これで新しいアルバムが作成されました。Webブラウザを開き、アドレス欄に「<http://LHD-LAN名称または本製品に設定したIPアドレス/photo/>」と入力して **移動** をクリックすると、アルバムが表示されます。



MEMO アドレス欄の「photo」の後のスラッシュは省略しないでください。

アルバム内のデータ操作

基本的なデータ操作は次のとおりです。

フォトステーション内のオンラインヘルプにも詳細な説明がありますので、必要に応じてお読みください。

- **アルバムおよび写真を削除する**
photoフォルダを開き、その中のサブフォルダまたはファイルを削除すると、対応するアルバムまたは写真が自動的に削除されます。
- **アルバムおよび写真を変更する**
photoフォルダを開き、その中のサブフォルダまたはファイルを変更すると、対応するアルバムまたは写真のサムネイル画像が自動的に変更されます。

5 簡易Webサーバ機能の利用

簡易Webサーバ機能を有効にすると、ユーザは自分専用のウェブサイトをネットワーク内に構築できます。



簡易Webサーバ内のMySQL、PHPに関する機能は、弊社ではサポートしておりません。したがって、この機能を使用したウェブサイトの外部公開や仕様についても、弊社ではサポートしておりません。

●簡易Webサーバのアドレス

簡易Webサーバ機能を有効にすると、次のアドレスがホームページの初期アドレスになります。

`http://本製品に設定したIPアドレス/`

例 本製品のIPアドレスが「192.168.0.1」の場合

`http://192.168.0.1/`

簡易Webサーバ機能を有効にする

簡易Webサーバ機能を有効にする手順を説明します。

簡易Webサーバ機能は、初期設定では無効になっているため、利用の際は有効にする必要があります。

- 1 管理画面にログインし、[ネットワーク]→「Webサービス」タブを選択します。

- 2** サービスの一覧から「簡易Webサーバ機能を有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用** ボタンを押します。

The screenshot shows the Logitec Web Services configuration interface. On the left is a navigation menu with options like HOME, 共有設定, ネットワーク, ツール, USB機器, ヘルプ, and ログアウト. The main content area is titled 'Web サービス' and contains several settings:

- 増設HTTPポートを追加します
- フォトステーション機能を有効にする
- 簡易Webサーバ機能を有効にする
- MySQLを有効にする

Callout 1 points to the checked '簡易Webサーバ機能を有効にする' checkbox. Callout 2 points to the unchecked 'MySQLを有効にする' checkbox. At the bottom, there are buttons for '適用', '取消', and 'ヘルプ'.

出荷時設定はオフになっています。

PHP設定オプションについてはサポート対象外です。

- 3** 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。
[ネットワーク]→「Webサービス」画面に戻れば設定は完了です。

簡易Webサーバ機能を使用する

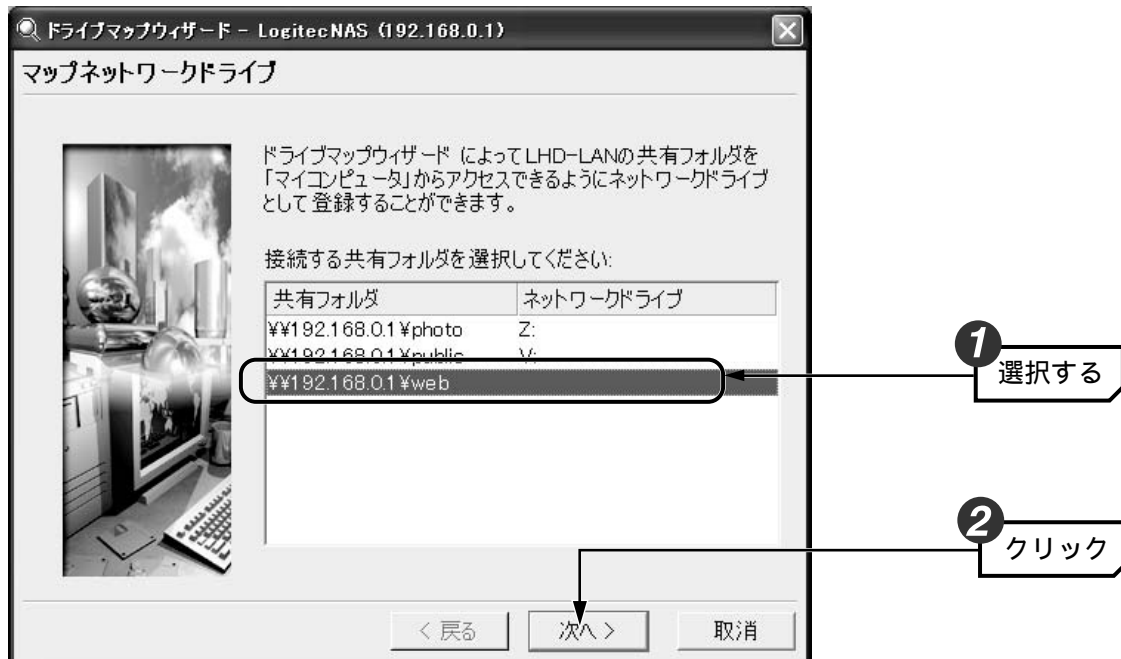
簡易Webサーバ機能を使用して、Webサイトを自動的に構築する手順を説明します。

※管理用パソコン（クライアント）がWindows XPの場合の説明です。

- 1** クイックセットアップツールを起動して、目的のLHD-LANを選択し、[マウント]をクリックします。

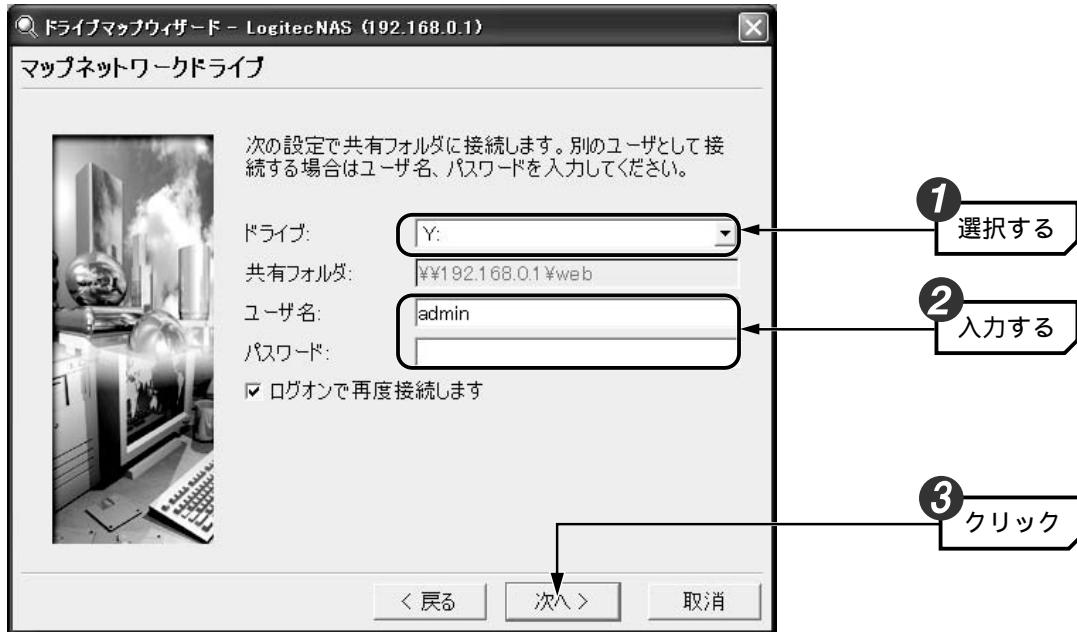


- 2** ドライブマップウィザードが起動しますので、共有フォルダ名の末尾に「¥web」と表示された共有フォルダを選択し、[次へ]をクリックします。

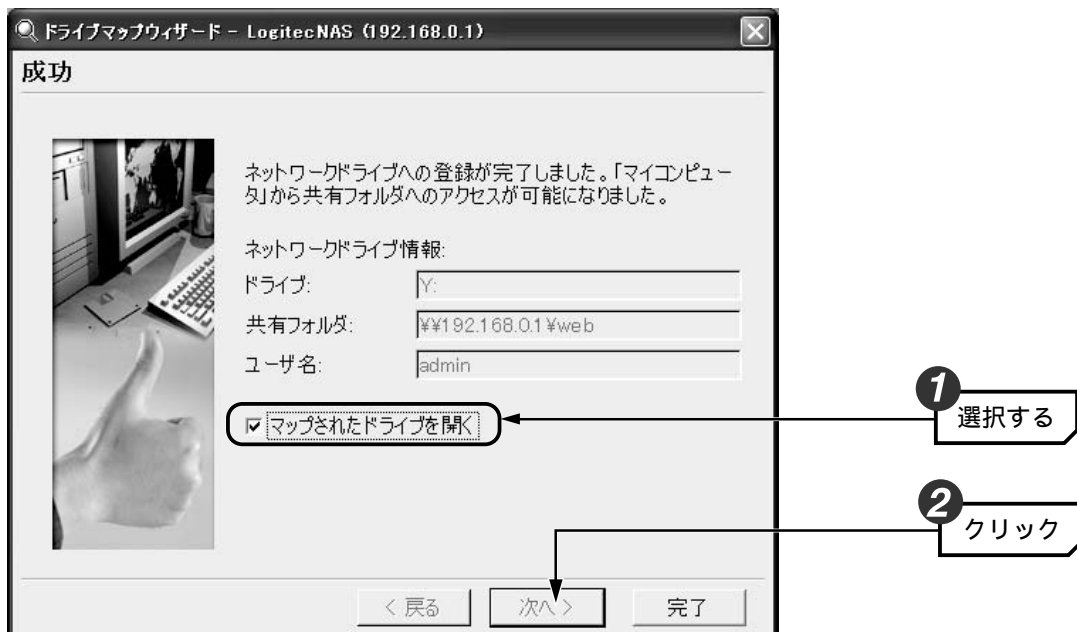


MEMO Macintosh環境では、ドライブマップウィザードは使用できません。導入編「AppleTalk共有による接続」(P43)をお読みにになり、webフォルダをデスクトップ上にマウントさせ、手順5に進んでください。

3 必要に応じて使用するドライブ名を変更し、ユーザ名、パスワードを入力して、**次へ**をクリックします。



4 マッピングが成功すると、次の画面が表示されます。「マップされたドライブを開く」のチェックボックスをクリックし、**完了**をクリックします。



MEMO 共有フォルダ「web」は、出荷時状態ではシステム管理者ユーザ（admin）しかアクセス権がありません。

- 5** 用意しておいたWebのソースファイルをドライブマップされた「web」フォルダにコピーします。



MEMO 初期ページ（トップページ）のファイル名は、「index.html」としてください。これ以外では「http://本製品のIPアドレス/」でアクセスしたときにページが表示されません。

- 6** これで新しいWebサイトが作成されました。Webブラウザを開き、アドレス欄に「http://本製品に設定されたIPアドレス/」と入力して **移動** を押し、コピーしたWebサイトが表示されます。



（画面は例です）

6 FTPサービスの利用

FTPサービスを有効にすると、FTP経由で本製品を利用できます（FTP共有）。

●FTPサーバのアドレス

FTPサービスを有効にすると、次のアドレスでFTPクライアントからアクセスできるようになります。

`ftp://本製品に設定したIPアドレス/`

例 本製品のIPアドレスが「192.168.0.1」の場合

`ftp://192.168.0.1/`

FTPクライアントからのアクセス方法については、導入編「FTP共有による接続」（P46）をお読みください。



セキュリティの関係上、ルータを超えた転送を伴う使用については、未サポートとなります。

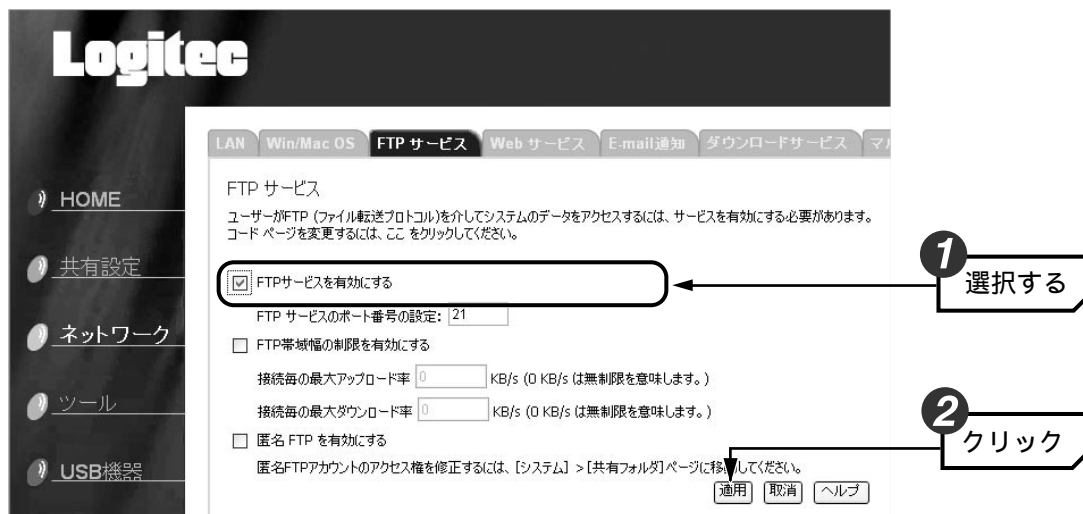
FTPサービスを有効にする

FTPサービスを有効にする手順を説明します。

FTPサービスは、初期設定では無効になっているため、利用の際は有効にする必要があります。

1 管理画面にログインし、[ネットワーク]→「FTPサービス」タブを選択します。

2 表示された項目から「FTPサービスを有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用**ボタンを押します。



出荷時設定はオフになっています。

その他の設定値については次のとおりです。

FTPサービスのポート番号の設定	通常は初期値の「21」から変更する必要はありません。使用するネットワーク環境により変更が必要な場合のみ変更します。
FTP帯域幅の制限を有効にする	通常はチェックする必要はありません。ネットワークトラフィックに問題がある環境で使用する場合の設定です。
匿名FTPを有効にする	FTPとして共有するフォルダに対して、本製品のユーザー以外のアクセスを許可する設定です。「匿名FTPユーザの管理」をお読みください。

- 3** 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。
[ネットワーク]→「FTPサービス」画面に戻れば設定は完了です。

これで、本製品の共有フォルダがFTP経由でアクセスできるようになりました。FTPクライアントからのアクセス方法については、導入編「FTP共有による接続」(P46)をお読みください。

匿名FTPユーザの管理

FTPサーバを運用する際に、「匿名FTPアカウント」(Anonymous FTP)を使用したい場合は、次のように設定します。
FTPサービスを有効にし、他のクライアントが接続していない状態で作業を始めてください。

ここでは、Anonymous FTPに「読込専用(RO)」の権限を付与する例を説明します。

MEMO

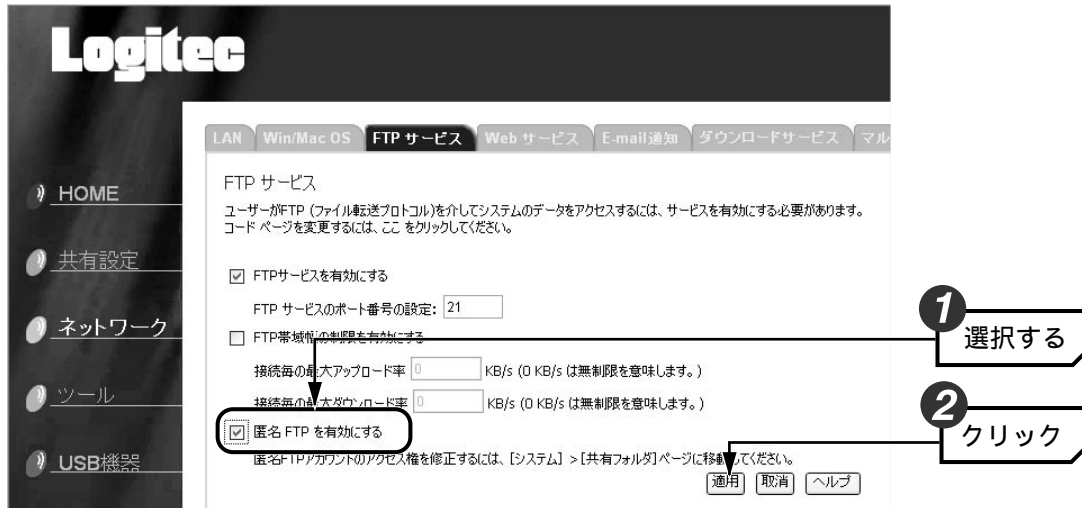
●Anonymous FTPについて

匿名FTPアカウント(Anonymous FTP)とは、共用性の高いデータをアカウントとパスワードの管理なしに提供する仕組みです。Anonymous FTPでのFTP利用時は、パスワードに自分のメールアドレスを入力して利用する習慣があります。Anonymous FTPのアクセス権限は、RO(読み出しのみ許可)にするのが一般的です。

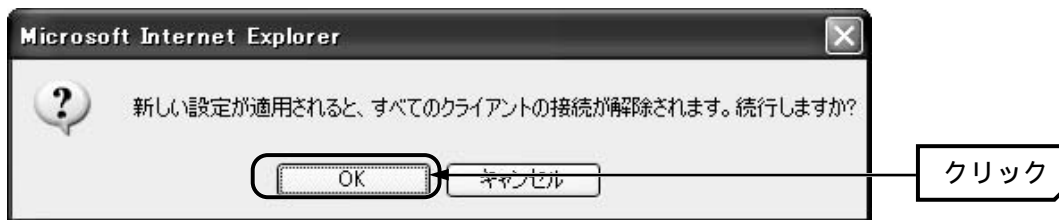
Anonymous FTPは特殊なユーザのため、[共有設定]→「ユーザ」画面には表示されません。

- 1** 管理画面にログインし、[ネットワーク]→「FTPサービス」タブを選択します。

- 2** 「匿名FTPを有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用** をクリックします。



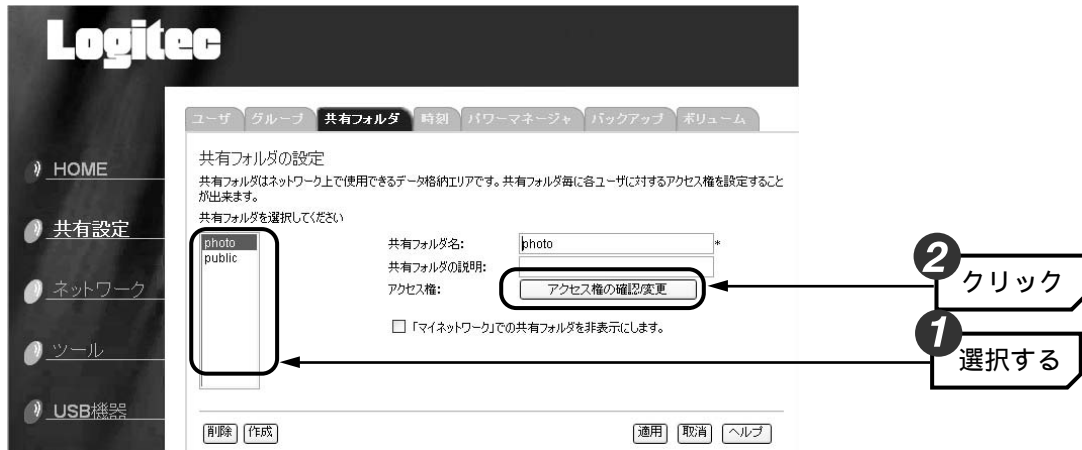
- 3** 次の画面が表示されますが、そのまま**OK** をクリックします。



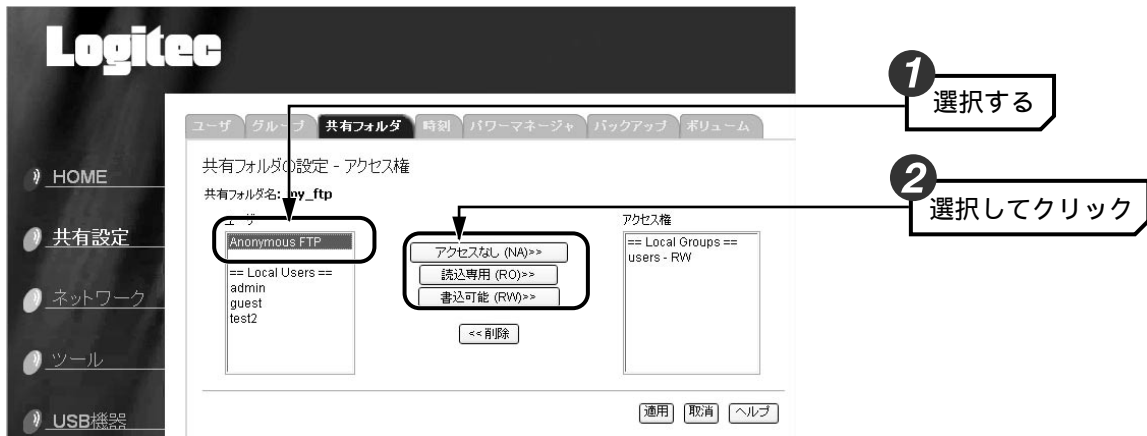
匿名FTPの設定は、他のクライアントが接続していない状態でおこなってください。

- 4** 設定が完了したことを確認して、**続行** をクリックします。
[ネットワーク]→「FTPサービス」に戻ったら、手順5に進みます。
- 5** 共有フォルダにanonymous FTPユーザの権限を追加します。
管理画面の[共有設定]→「共有フォルダ」タブを選択します。

- 6** anonymous FTP設定を追加したい共有フォルダを選択し、**アクセス権の確認/変更** をクリックします。



- 7** <ユーザ>から、「Anonymous FTP」を選択し、アクセス権の種類をボタンで選択すると、「アクセス権」に「Anonymous FTP」が移動します。



注意 匿名FTPは、ユーザ名、パスワードなしでアクセス可能です。不特定ユーザに書き換えられて困る場合は、「読込専用 (RO)」にしてください。

- 8 <アクセス権>に「Anonymous FTP」が追加されたことを確認し、**適用**をクリックします。



- 9 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。
[共有設定]→「共有フォルダ」画面に戻れば設定は完了です。

7 ダウンロードステーション機能の利用

ダウンロードステーション機能は、インターネットから大容量のファイルや、定期的にダウンロードする必要のあるファイルを、あらかじめ設定しておいた時間に自動的にダウンロードし、指定した共有フォルダに保存する機能です。

一度設定しておけば、管理用パソコン（クライアント）の電源を入れる必要はありません。

ダウンロードステーション機能を使用するには、ストレージマネージャでダウンロードステーション機能を有効にし、「ダウンロードリダイレクタ」をインストールする必要があります。

※以下、管理用パソコンがWindowsの場合を例に説明しています。

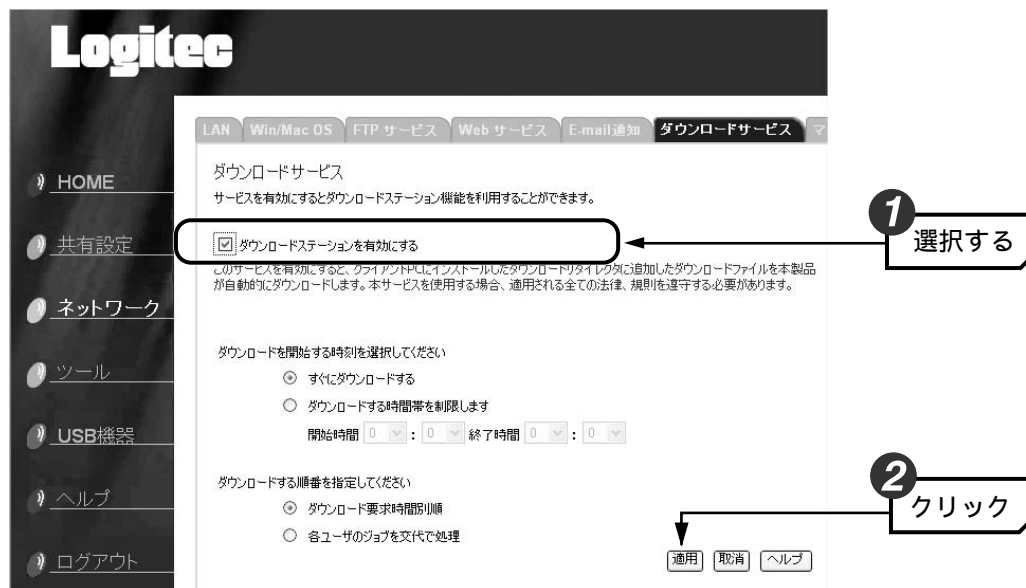
ダウンロードステーション機能を有効にする

ダウンロードステーション機能を有効にする手順を説明します。

ダウンロードステーション機能は、初期設定では無効になっているため、利用の際は有効にする必要があります。

- 1 管理画面にログインし、[ネットワーク]→「ダウンロードサービス」タブを選択します。

- 2** 表示項目から「ダウンロードステーションを有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用**ボタンを押します。



出荷時設定はオフになっています。

その他の設定値については次のとおりです。必要に応じて設定してください。

ダウンロードを開始する時刻～	<ul style="list-style-type: none"> ● すぐにダウンロードする ダウンロードリダイレクトにダウンロード対象を設定すると、すぐにダウンロードを始めます。 ● ダウンロードする時間帯を制限します ダウンロードする時間帯を設定します。夜間などのネットワーク利用者が少ない低い時間帯に設定することで、ネットワークへの負荷を低減できます。
ダウンロードする順番を～	<ul style="list-style-type: none"> ● ダウンロード要求時間別順 ダウンロードを要求したユーザに関係なく、ダウンロード要求時間の順番にダウンロードします。 ● 各ユーザのジョブを交代で処理 ダウンロードを要求したユーザが複数いる場合に、ユーザごとにダウンロードします。複数ユーザ使用時に利用者の公平性が高まります。

- 3** 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行** ボタンをクリックします。
[ネットワーク]→「ダウンロードサービス」画面に戻れば設定は完了です。

引き続き、「ダウンロードリダイレクトのインストール」に進んでください。

ダウンロードリダイレクトのインストール

ダウンロードリダイレクトは、添付CD-ROMからインストールする必要があります。

- 1** 添付の「LHD-LANQGサポートディスク」を管理用パソコンのCD-ROMドライブに入れ、セットアップランチャーを起動します。
画面については、導入編「2. セットアップランチャーの起動」(P22)の手順1, 2をお読みください。

- 2** 「ダウンロードリダイレクト」のアイコンをダブルクリックすると、インストーラが起動しますので、インストーラの指示にしたがってインストールを完了します。

引き続き、「ダウンロードリダイレクトのセットアップ」に進んでください。

ダウンロードリダイレクトのセットアップ

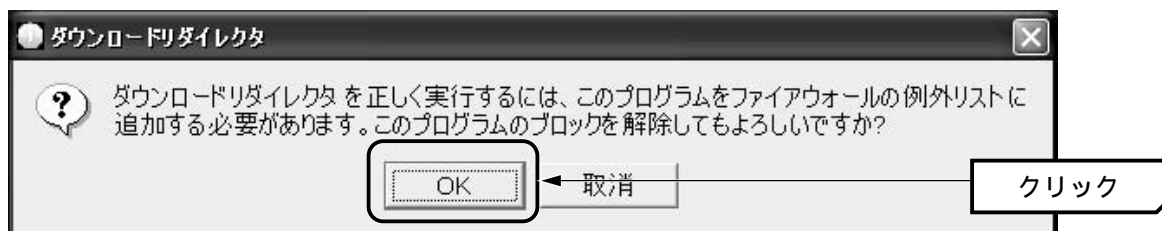
ダウンロードリダイレクトのセットアップ手順を説明します。



先に本製品のダウンロードステーション機能を有効にしてから作業を始めてください。ダウンロードリダイレクトのセットアップが正常に完了しません。

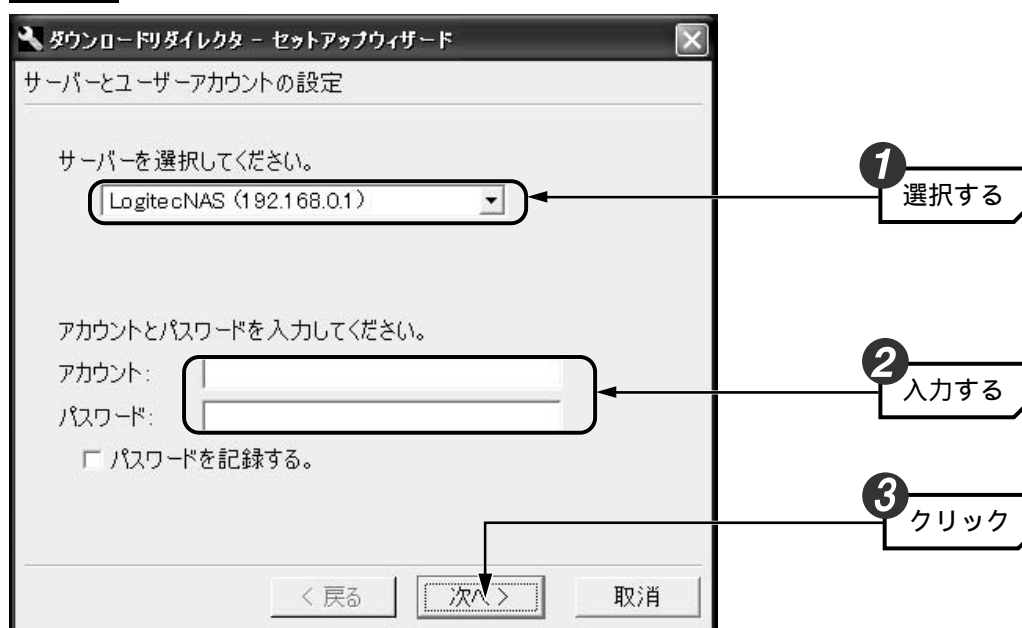
1 デスクトップのアイコンをダブルクリック、または、スタートメニューの [(すべての)プログラム]→[Logitech]→[Logitech Download Redirector]を選択して、ダウンロードリダイレクタを起動します。

2 管理用パソコンの環境によっては、次の画面が表示されますので、**次へ**をクリックします。



ダウンロードリダイレクタは、Windowsファイアウォールなどのファイアウォールソフトと同時に使用できませんので、例外に設定する必要があります。この画面は、初めてダウンロードリダイレクタを起動するときのみ表示されます。

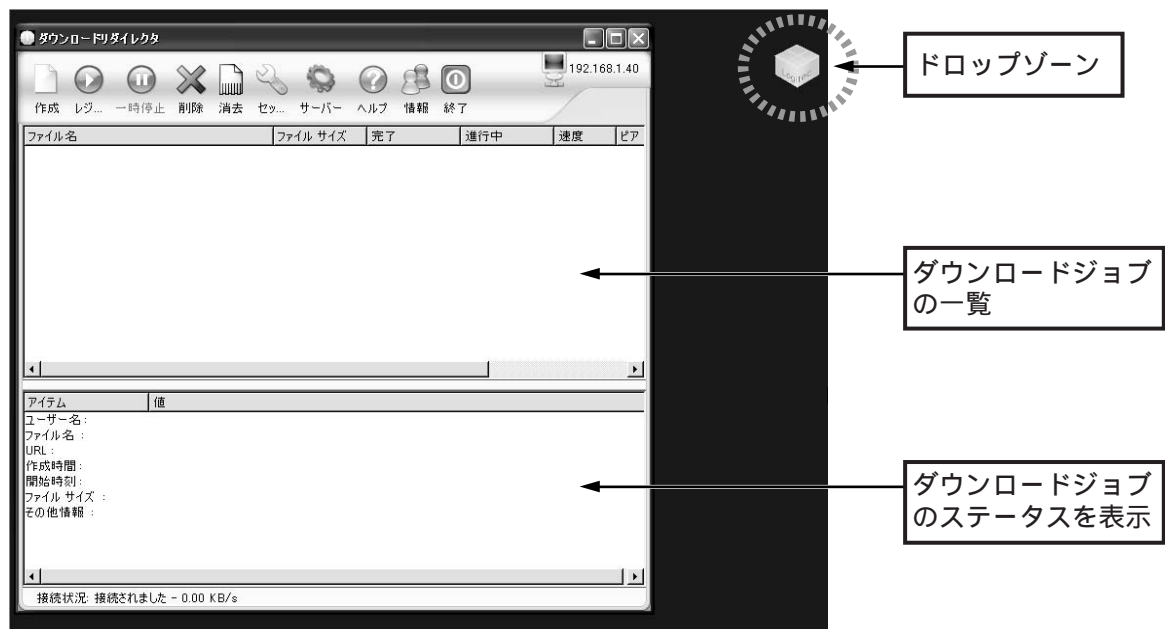
3 セットアップウィザードが起動し、自動的に本製品が選択され、次の画面が表示されます。サーバを確認し、アカウントとパスワードを入力して、**次へ**をクリックします。



- 4** ダウンロードしたデータを保存する共有フォルダを指定し、**完了**をクリックします。



- 5** 正常にセットアップが完了すると、ダウンロードリダイレクタの初期画面が表示されます。



これでダウンロードリダイレクタのセットアップは完了です。
 利用方法については、「ダウンロードリダイレクタを使用する」をお読みください。

ダウンロードリダイレクタを使用する

ダウンロードリダイレクタの使用方法について説明します。

ダウンロード対象の登録

ダウンロードするページ(URL), ファイルの登録には, 次の3種類の方法があります。

●デスクトップの「ドロップゾーン」へのドラッグ&ドロップ

ダウンロードリダイレクタを起動すると, デスクトップ上にアイコン「ドロップゾーン」が表示されます。ドロップゾーンにWebブラウザで表示されているダウンロード対象をドラッグ&ドロップすることで登録します。



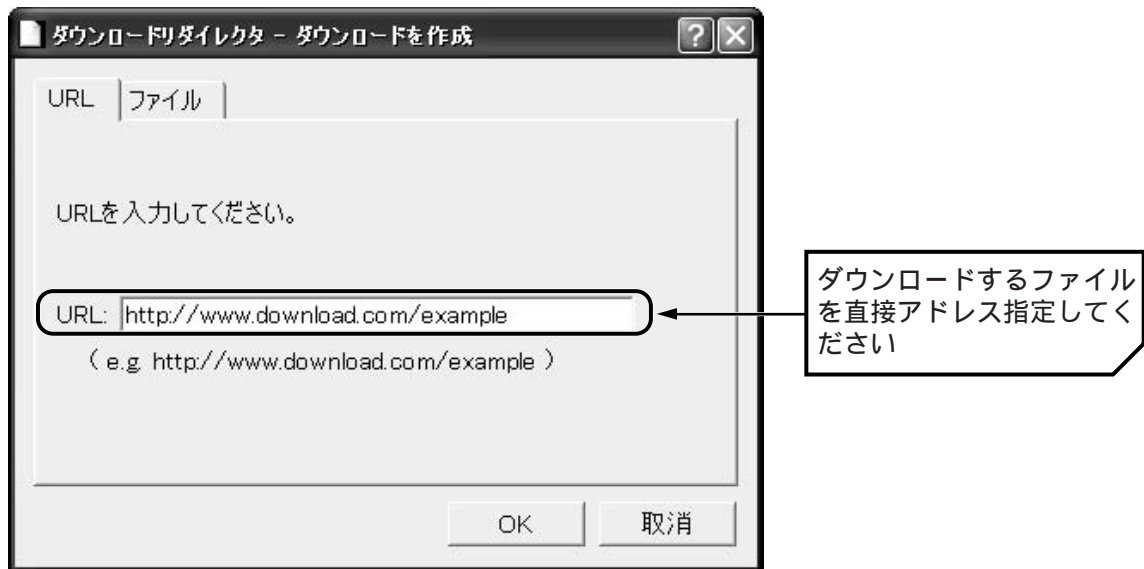
ドラッグ&ドロップできるのは, 画像などのダウンロード対象そのものか, ダウンロード対象を直接指定する形式のリンクのみです。
javaスクリプトなどの間接的にファイルを呼び出す形のリンクには対応していません。

●ダウンロードリダイレクタのウィンドウにドラッグ&ドロップ

ドロップゾーンへのドラッグ&ドロップと同様に, ダウンロードリダイレクタのウィンドウにドラッグ&ドロップすることもできます。

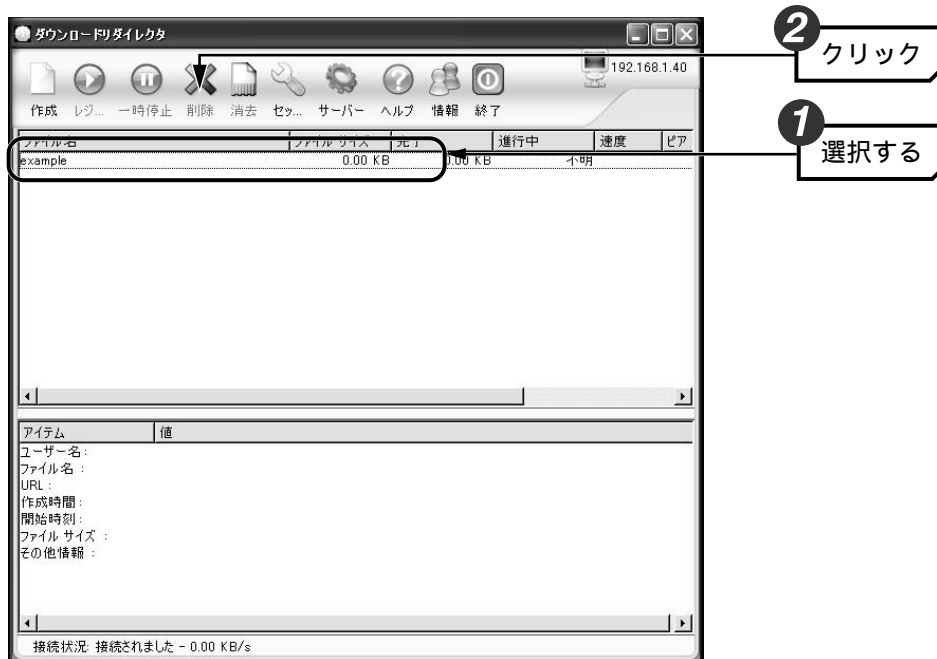
●ダウンロードリダイレクタのメニューを使用して登録

ダウンロードリダイレクタの[作成]を選択し、表示されたダイアログから、ダウンロード対象を登録することもできます。



ダウンロード対象の削除

ダウンロード対象を選択し、メニューから[削除]を選択すると、リストから削除されます。



ダウンロードリダイレクタの終了

メニューから[終了]を選択するか、ドロップゾーンを右クリックして表示されるメニューから、「終了」を選択すると、警告メッセージが表示されます。

OK を選択すると、ダウンロードリダイレクタを終了します。



ダウンロードリダイレクタのクローズボックスをクリックしただけでは、終了しません（ドロップゾーンは表示されたままです）。

8 USB機器の利用

本製品にUSB機器を接続することにより、次の4つの機能を利用できます。
導入編の「7. USB機器の使用について」もあわせてお読みください。



USBポートに機器を接続する場合は、USB機器とUSBポートを直接接続してください。USBハブを経由して接続しないでください。

- USBディスクマネージャ →P89
- USBプリンタマネージャ →P92
- USBバックアップ →P96
- UPS（無停電電源装置） →P101

USBディスクマネージャ

ストレージマネージャの[USB機器]→「USBディスク」でアクセスできる、USBハードディスクやUSBメモリといった、外部記憶領域を持つUSB機器を管理する機能です。

USB機器を接続すると、接続したディスク領域を「usbshare*」フォルダとして使用できるようになります。「usbshare*」フォルダは、本製品からUSBハードディスクを取り外すと、自動的に使用できなくなります。

MEMO

- 外部記憶領域を持つUSB機器は、同時に2台まで接続できます。
- 共有フォルダは、それぞれ「usbshare1」、「usbshare2」となります。
- 「usbshare*」には、自動的に「users」グループにRWのアクセス権が付与されます。

USBプリンタマネージャ

ストレージマネージャの[USB機器]→「USBプリンタ」でアクセスできる、USBプリンタを管理する機能です。本製品にUSBプリンタを接続して、ネットワークプリンタとしてクライアント間で共有できます。

USBバックアップ

ストレージマネージャの[ツール]→「USBバックアップ」でアクセスできる、本製品に保存したデータをバックアップする機能です。接続したUSBディスクを、本製品に内蔵のハードディスクのバックアップ領域として使用できます。スケジュールを設定した自動バックアップと手動バックアップ

プを選択できます。

バックアップ領域として使用するには、USBディスクをバックアップ用にフォーマットする必要があります。

UPS（無停電電源装置）

ストレージマネージャの[USB機器]→「UPS」でアクセスできる、無停電電源装置（UPS）を管理する機能です。UPSを接続しておくことで、UPSの状態を表示し、本製品の電源が不意な停電などで切断された場合にも、正常にシャットダウン処理がおこなわれ、内蔵ディスクを保護します。

USBディスクマネージャを使用する

USBディスクマネージャを使用して、本製品に接続したUSBディスクを共有フォルダ（増設用領域）としてフォーマットする手順を説明します。

バックアップ領域として使用方法については、「USBバックアップ」をお読みください。

本製品が利用可能な状態で作業を始めてください。

MEMO

接続するUSBディスクがFAT32形式でフォーマットされている場合は、本製品でフォーマットする必要はありません。接続してすぐ共有フォルダとして使用できます。

1

本製品背面のUSBポートにUSBディスクを接続します。

USBハブを使用せず、直接USBポートに直接接続してください。

外部電源が必要な場合は、ACアダプタなどを接続してから接続してください。

2 管理画面にログインし、[USB機器]→「USBディスク」タブを選択します。

3 接続したUSBディスクが「USB Disk1」と表示されますので、**フォーマット** をクリックします。

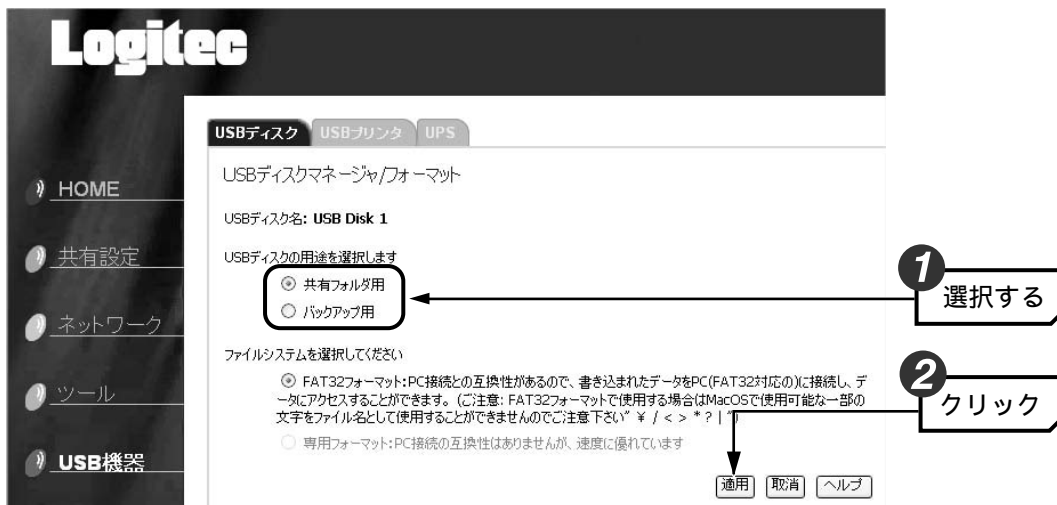


USBディスクを2台接続すると、「USB Disk1」、「USB Disk 2」と表示されます。



USBディスクを取り外す場合は、**イジェクト** をクリックして、画面に「USB Disk*」が表示されなくなったことを確認してから取り外してください。USBディスクを取り外すと、共有は自動的に解除されます。

4 USBディスクの用途とファイルシステムを選択して、**適用** をクリックします。



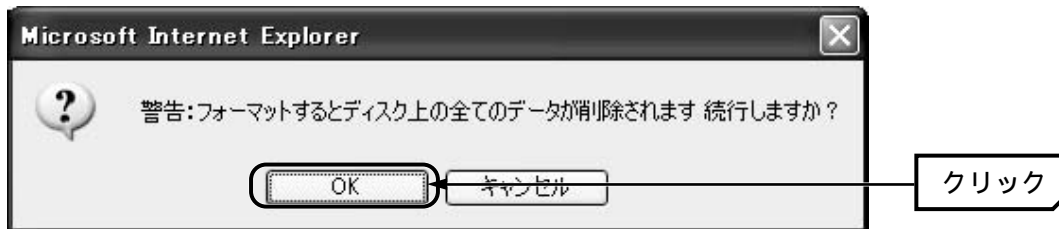
●ディスクの用途

共有フォルダ用	接続したディスクを共有フォルダとして使用します。本製品の増設領域として使用できます。
バックアップ用	接続したディスクを本製品内蔵ディスクのバックアップ領域として使用します。

●ファイルシステム

FAT32	Windowsなどと共通のフォーマットです。MacOSで利用する場合にファイル名の制限があります。また、2GB以上のファイルをバックアップすることはできません。
専用フォーマット	アクセス速度と信頼性に優れた本製品専用フォーマットです。この形式でフォーマットしたディスクは他のパソコンなどに接続しても内容を見ることはできません。1GB以下のディスクでは、このフォーマットを選択できません。

5 警告メッセージが表示されますので、**OK** をクリックします。



6 しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行** をクリックします。[USB機器]→「USBディスク」画面に戻れば、フォーマットは完了です。

USBプリンタマネージャを使用する

本製品にUSBプリンタを接続すると、[USB機器]→「USBプリンタ」タブで表示されるUSBプリンタマネージャに登録され、共有プリンタとして使用できます。

USBプリンタマネージャ上では、接続したUSBプリンタの取り外し（イジェクト）、プリントジョブのクリアができます。



各OSからネットワークプリンタを設定する方法については、以下をお読みください。

- Windows環境（P93）
- Mac OS X環境（P94）
- Mac OS 9環境（P95）

Windows環境からのネットワークプリンタの設定

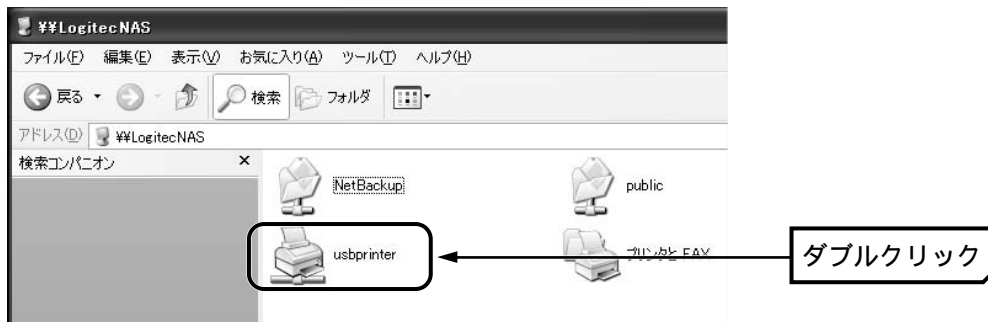
Windows環境から本製品に接続したプリンタを使用する手順を説明します。

- プリンタの追加ウィザードでは、プリンタのタイプに「ネットワークプリンタ」を選択します。
- プリンタドライバは、ご使用のプリンタの製造メーカー、型番を良く確認して指定してください。
- その他、ネットワークプリンタのご使用についてご不明な点は、Windowsのヘルプまたは、ご使用のプリンタの取扱説明書を参照してください。
- プリンタによっては、先にプリンタドライバをローカルデバイスとしてインストールしておく必要があります

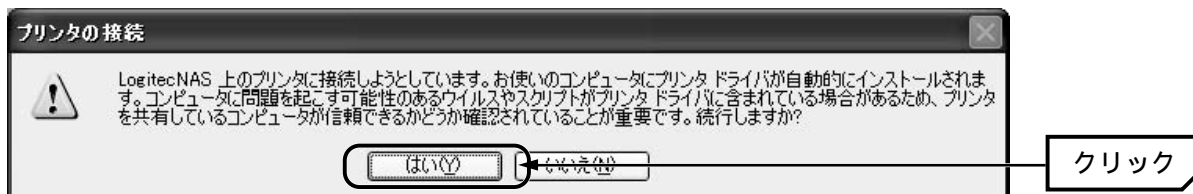
1 ご使用のクライアントコンピュータから本製品にアクセスします。

本製品へのアクセス方法については導入編「6. 一般ユーザとしての利用」(P36)をお読みください。

2 「usbprinter」をダブルクリックします。



3 次のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



4 プリンタの追加ウィザードが始まります。このあとはウィザードの指示に従い、適切なプリンタドライバをインストールします。

Mac OS X環境からのネットワークプリンタの設定

Mac OS X環境から本製品に接続したプリンタを使用する手順を説明します。



Macintoshクライアントからは、Postscript (ポストスクリプト) プリンタ以外はネットワークプリンタとして使用できません。

- 1 メニューバーの「移動」から「アプリケーション」を選択します。
- 2 アプリケーションウィンドウで、[ユーティリティ]→[プリンタ設定ユーティリティ]を選択し、「プリンタ設定ユーティリティ」をダブルクリックします。
- 3 プリンタ設定ユーティリティのダイアログボックスが表示されますので、**追加**をクリックします。



- 4 詳細設定画面が表示されます。
このあとはプリンタのマニュアル等を参照して、必要な設定をおこなってください。

Mac OS 9環境からのネットワークプリンタの設定

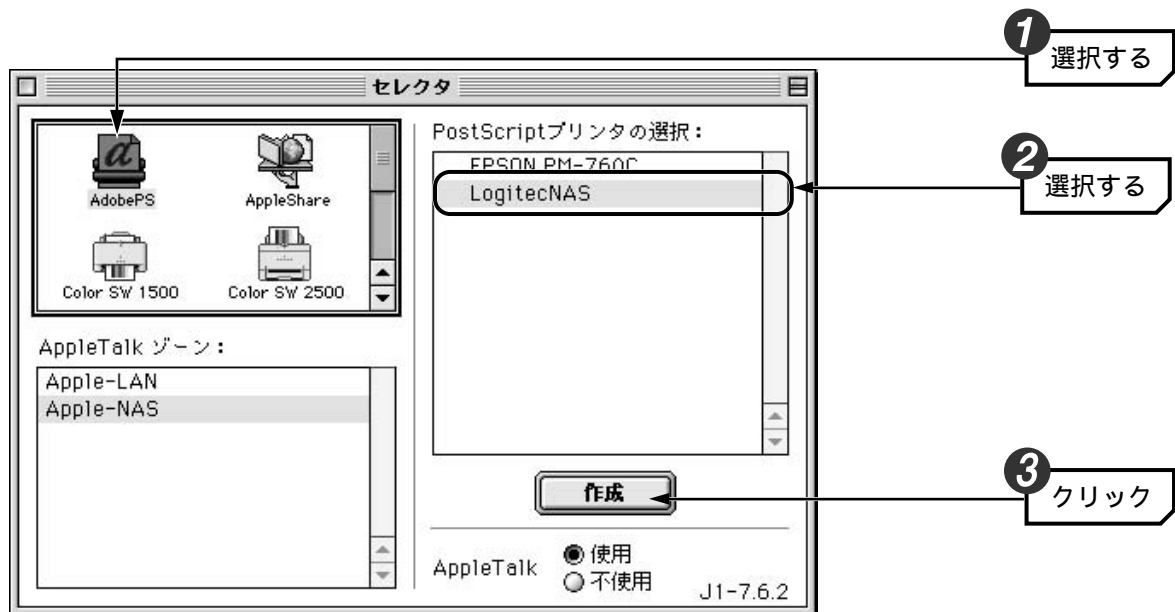
Mac OS 9環境から本製品に接続したプリンタを使用する手順を説明します。あらかじめ、Postscriptプリンタのマニュアルを参照し、ご使用のコンピュータにPostscriptプリンタのドライバをインストールしておいてください。



Macintoshクライアントからは、Postscript (ポストスクリプト) プリンタ以外はネットワークプリンタとして使用できません。

1 アップルメニューから「セレクト」を選択します。

2 「セレクト」ウィンドウが表示されますので、左側のリストで「AdobePS」を選択し、Postscriptプリンタの選択画面で、LHD-LAN名称を選択し、**作成** をクリックします。



3 次の画面が表示されますので、「PPDの選択」ボタンをクリックします。



- 4** PPDファイルの選択画面になるので、適切なドライバを選択してください。

USBバックアップを使用する

USBバックアップを使用すると、本製品内のハードディスクからUSBディスクへデータをバックアップできます。

バックアップは手動のほか、特定の時間に自動で実行するようスケジュールを組んで自動化することもできます。

USBバックアップをおこなうには、バックアップ用にフォーマットされたUSBディスクが必要です。フォーマットについては、「USBディスクマネージャを使用する」(P92)をお読みください。

USBバックアップの種類

バックアップには「フルバックアップ」と「差分バックアップ」があります。

●フルバックアップ

共有データすべてをバックアップします。はじめてのバックアップはこちらを選択します。

●差分バックアップ

一度フルバックアップをおこなったあとは、変更箇所のみ同じUSBディスクにバックアップします。これを差分バックアップと呼びます。

フルバックアップに比べ、バックアップ時間を大幅に短縮できます。



差分ファイルとしてバックアップされるのは、追加、変更、削除、ファイル名/ディレクトリ名が変更されたファイル、フォルダです。

USBバックアップの仕様

USBバックアップの仕様を次に示します。

●バックアップ場所

バックアップデータは共有フォルダ「usbbackup」に格納されます。この共有フォルダはadminユーザでのみアクセスできます。ただし、RO（読み出しのみ）権限のみ付与されます。

●USBディスクの容量

バックアップに使用するUSBディスクの容量は、バックアップ対象の容量より大きいものでなければなりません。

●バックアップ中のUSBディスク取り外し

データのバックアップ中にバックアップ中のUSBディスクが取り外された場合、次のバックアップはフルバックアップとなります。

●バックアップ中以外のUSBディスク取り外し

バックアップをしていないときにUSBディスクを取り外した場合、次回バックアップの開始前に接続していれば、差分バックアップとなります。

●バックアップのキャンセル

実行中のバックアップを止めたい場合には、**キャンセル**をクリックします。途中でキャンセルをした場合、次のバックアップはフルバックアップとなります。

●フォーマット形式による制限

USBディスクのフォーマットがFAT32の場合、2GB以上のサイズのファイルのバックアップはできません。

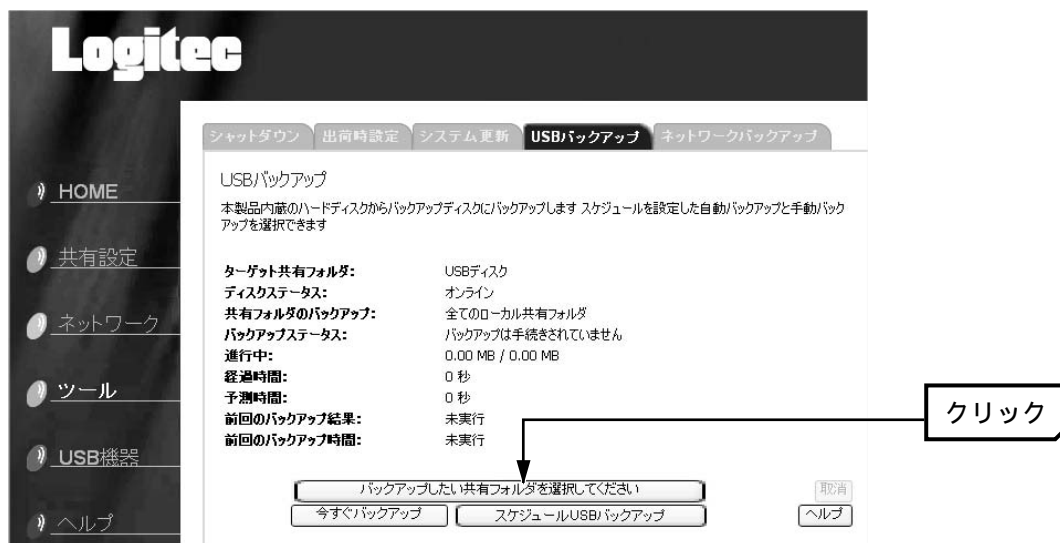
USBバックアップ手順

USBバックアップの手順を説明します。

バックアップ用にフォーマットされたUSBディスクを接続してから作業を始めてください。

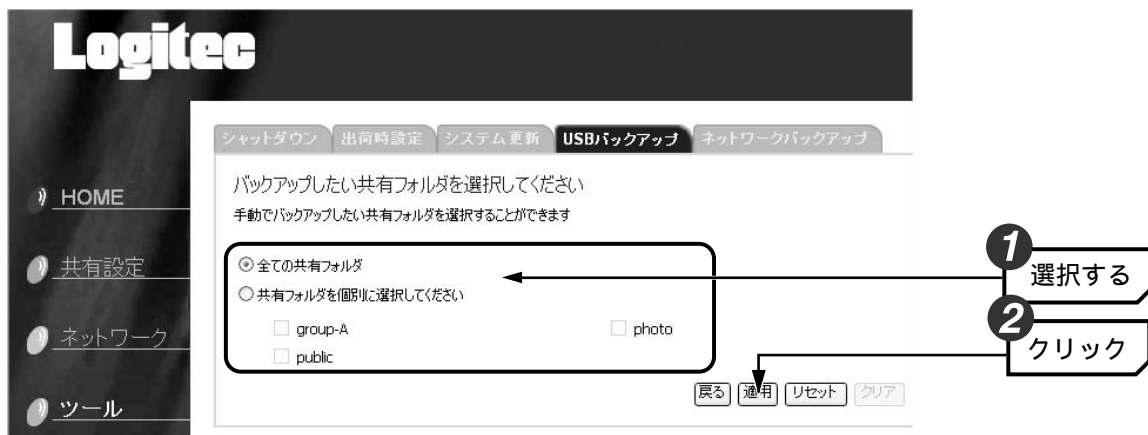
1 管理画面にログインし、[ツール]→「USBバックアップ」タブを選択します。

2 **バックアップ共有フォルダを選択してください** をクリックします。



フルバックアップの場合、この手順を飛ばして手順4に進んでもかまいません。

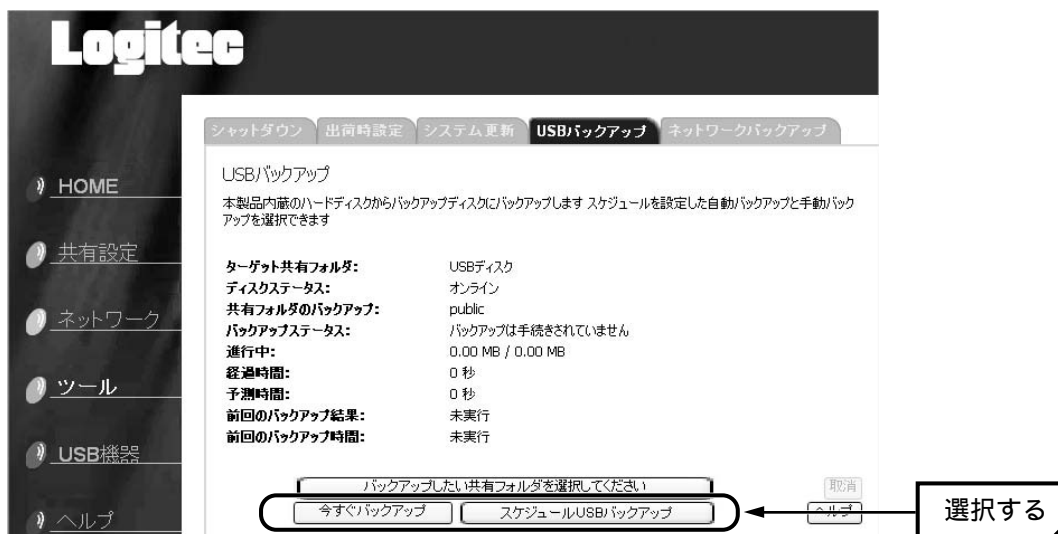
3 バックアップの種類と対象を選択し、**適用** をクリックします。



全ての共有フォルダ	本製品の共有フォルダすべてをバックアップします（フルバックアップ）。
共有フォルダを個別に選択してください	共有フォルダの一覧から、バックアップしたい共有フォルダにチェックを入れます。

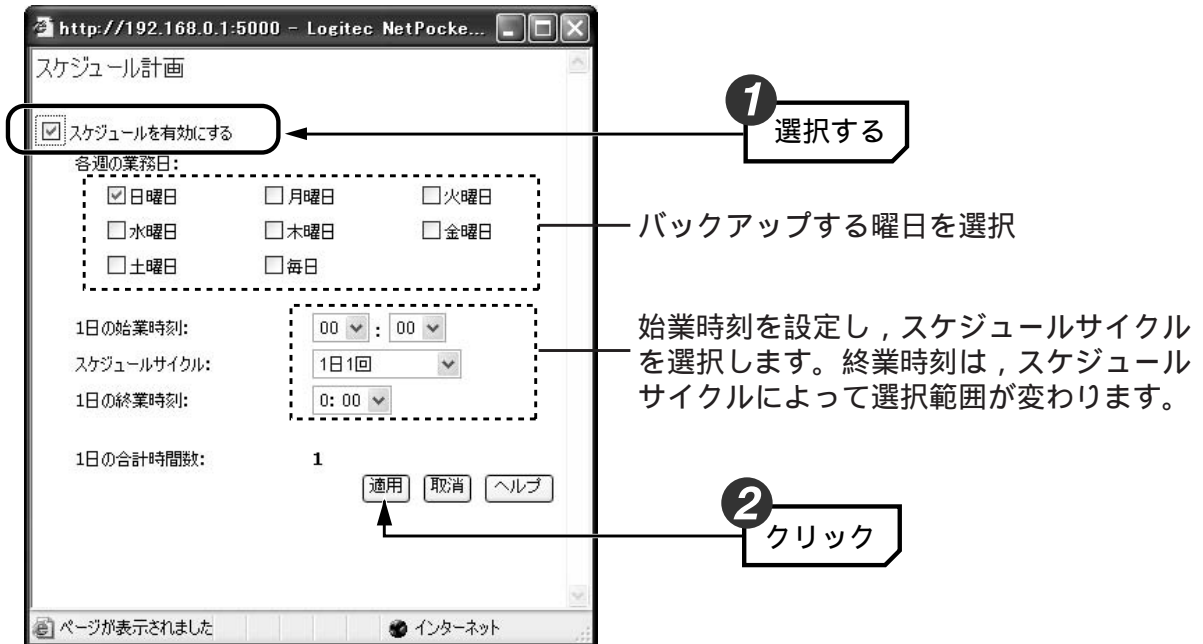
4 USBバックアップ画面に戻りますので、画面下部のボタンでバックアップのタイミングを選択します。

今すぐバックアップ を選択すると、このまますぐにバックアップを開始します。



今すぐバックアップ	ただちにバックアップを始めます（手動バックアップ）。
スケジュール USBバックアップ	バックアップ時間を設定してバックアップします（自動バックアップ）。

- 5** 「スケジュールUSBバックアップ」を選択した場合、次の手順にしたがってスケジュールを設定し、**適用**をクリックします。
これで、バックアップの設定は完了です。



バックアップデータのリストア

バックアップしたデータをリストアするには、次の手順でおこないます。

- ① 共有フォルダ「usbbackup」にadminユーザでログインします。
- ② 「usbbackup」内の共有フォルダ内のデータを、元の共有フォルダ内にコピーします。

MEMO

Windowsでは、コマンドラインで次のコマンドを実行することで、バックアップフォルダに直接アクセスできます。

このコマンドを実行するには、事前にネットワークドライブから本製品を削除（切断）しておく必要があります。

```
net use Z:¥¥LHD-LAN の名称¥usbbackup /user:admin
```

UPS（無停電電源装置）を使用する

本製品にUPS（無停電電源装置）を接続すると、[USB機器]→「UPS」に登録され、本製品からUPSを管理できるようになります。

UPSを接続することにより、本製品の電源が不意な停電などで切断された場合に、本製品を自動的にシャットダウンし、UPSの電源を監視します（セーフモード）。電源が切断されてからセーフモードに移行するまでの時間は、[USB機器]→「UPS」で設定できます。

セーフモードでの動作は、UPSのバッテリーの状態によって変わります。

UPSの状態	セーフモード時の動作
バッテリー使用中	セーフモード移行前に電源供給が再開された場合は、システムを通常状態に保持します。 セーフモード移行後に電源が復旧した場合は、システムを自動的に起動します。
低バッテリー	システムをただちにセーフモードに移行します。 電源供給が再開された場合は自動的にシステムを起動します。
電源切れ	UPSの機能は働きません。 本製品の電源復旧機能を有効にしておくことで、電源供給が再開した場合に自動的に本製品を起動させることができます。 電源復旧機能は、[共有設定]→「パワーマネージャ」で設定します。

本製品からUPSを管理するには、[USB機器]→「UPS」画面にアクセスし、「UPSを有効にする」にチェックを入れる必要があります。

The screenshot shows the 'UPS' management page. On the left is a navigation menu with 'USB機器' selected. The main content area has tabs for 'USBディスク', 'USBプリンタ', and 'UPS'. Below the tabs, there is a section for '無停電電源装置(UPS)' with explanatory text. A checkbox labeled 'UPSを有効にする:' is checked, with a callout '1 選択する' pointing to it. Below the checkbox is a dropdown menu for '電源が落ちた後' set to '0' and the text '分間に[セーフモード]に入ります。'. Below this is a table titled 'UPS情報' with the following data:

UPS情報	
製造元	American Power Conversion
機種	APC CS 500 FW:28.h2.A USB FW:h2
ステータス	接続されまし<td>
負荷	140%
バッテリー充電	100%
予測バッテリー時間	3360 秒

At the bottom of the page are buttons for '更新', '適用', '取消', and 'ヘルプ'. A callout '2 クリック' points to the '適用' button.

Chapter 4

応用操作編

ここでは、基本操作編で説明しなかった「ストレージマネージャ」の機能について、コマンドリファレンスの形式で説明しています。

ストレージマネージャの基本的な使用方法については、「Chapter 3 基本操作編」をお読みください。

画面左フレームの設定項目を「メニュー」、画面上フレームの設定項目を「タブ」と表記しています。

1. [HOME]メニュー 104
2. [共有設定]メニュー 109
3. [ネットワーク]メニュー 128
4. [ツール]メニュー 137
5. [USB機器]メニュー 149
6. その他のメニュー 153

1 [HOME]メニュー

[HOME]メニューの各設定項目について説明します。

●[HOME]メニューの各画面

概要	本製品の基本情報とストレージマネージャのサイトマップを表示します。	P105
システム情報	本製品のシステム情報を表示します。 ネットワーク設定 時刻設定 内蔵ハードディスク状態 USBデバイス情報	P106
ログ	本製品に記録された各ログと、接続ユーザ情報を表示します。表示されるログは次のとおりです。 ・システムログ ・接続ログ ・USBバックアップログ ・ネットワークバックアップログ	P107
著作権・商標	本製品に関連する著作権、商標を表示します。	P108

概要

本製品の基本情報とストレージマネージャのサイトマップを表示します。



基本情報	LHD-LAN名称, 型番, IPアドレス, ボリューム構成とそれぞれのボリュームの使用容量を表示します。
サイトマップ	ストレージマネージャの各メニューの一覧です。文字をクリックすると、直接そのメニューにジャンプします。

システム情報

本製品のシステム情報を表示します。
本製品の状態を把握したい場合に参照します。



ネットワーク設定	<p>本製品のネットワーク情報を表示します。 表示項目は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MACアドレス ・サブネットマスク ・デフォルトゲートウェイ ・AppleTalkゾーン ・IPアドレス ・DNSサーバ ・ワークグループ ・WINSサーバ
時刻設定	<p>本製品の時刻設定情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●タイムサーバ NTP (Network Time Protocol) サーバを設定している場合に、サーバ名を表示します。 ●タイムゾーン 設定されているタイムゾーンを表示します。
ハードディスク	<p>本製品に接続されたディスクの型番、サイズ、ステータス、ボリューム情報を表示します。 <u>ディスクに異常があると、ボリュームに「クラッシュ」と表示されます。</u></p>
USBデバイス情報	<p>USBポートにUSB機器を接続すると、ここにデバイス情報が表示されます。</p>

ログ

本製品に記録された各ログと、接続ユーザ情報を表示します。

各ログは、製品の動作に関して弊社テクニカルサポートにお問い合わせいただいた際に、確認させていただく場合があります。



システムログ	システムに関するイベント/エラーが記録されています。
接続ログ	クライアントからのアクセス履歴が記録されています。
現在の接続	現在本製品にアクセスしているユーザの情報が表示されます。
USBバックアップログ	USBディスクへのバックアップ履歴が記録されています。
USBコピーログ	USBメモリなどからデータのコピーを行った際の履歴が記録されています。

著作権・商標

本製品に関連する著作権、商標を表示します。



2 [共有設定]メニュー

[共有設定]メニューの各設定項目について説明します。

ユーザ認証について

本製品はクライアントパソコンのユーザ名を元に、そのコンピュータからアクセスしてくるユーザを判別します。ただし、Windows環境からアクセスする場合と、Macintosh環境からアクセスする場合で、認証過程が異なります。

●Windowsパソコンからの認証

本製品の共有フォルダにアクセスする際は、Windowsにログオンする時に使用したユーザ名とパスワードで自動的に判別します。ログオン時のユーザ名とパスワードと同じ設定を本製品に設定することで、アクセス時にユーザ名やパスワードの入力は必要なくなります。

また、Windowsパソコンにログオンしているユーザ名が本製品にはユーザとして登録されていなくても、自動的に「guest」ユーザとしてログインすることになります。ただし、「guest」ユーザが有効になっていない場合はログインできません。



共有フォルダをデフォルト設定で作成すると、usersグループにRWのアクセス権が付与されます。guestユーザはusersグループに所属しており、初期設定のまま使用すると、ネットワークに属するすべてのユーザが共有フォルダにアクセスできることとなります。セキュリティやリソース配分をきめ細かく管理したい場合は、guestユーザを無効にすることをおすすめします（guestは削除できません）。

●Macintoshパソコンからの認証

本製品の共有フォルダにアクセスする際に入力するユーザ名、パスワードが適用されます。

●[共有設定]メニューの各画面

ユーザ	新規ユーザの登録, 既存ユーザの設定変更をおこないます。	P111
グループ	新規グループの登録, 既存グループの設定変更をおこないます。	P112
共有フォルダ	共有フォルダの作成, 削除, および共有フォルダへのアクセス権の設定, 変更をおこないます。	P113
時刻	システム日時, タイムサーバ (NTPサーバ) を設定します。	P114
パワーマネージャ	電源復旧機能の有効/無効, およびHDDスリープ機能の設定をおこないます。	P115
バックアップ	本製品の設定情報 (ユーザ, グループ, 共有フォルダ設定) のバックアップおよびリストアをおこないます。	P116
ボリューム	内蔵ディスクを合併させてボリュームを作成するほか, 同時にRAID構築もここで設定します。	P118

ユーザ

新規ユーザの登録，既存ユーザの設定変更をおこないます。



ユーザ名	ユーザ名を表示，入力します。デフォルトのユーザ名 (admin, guest) は変更できません。
ユーザの説明	ユーザについての説明を入力します。
パスワード，パスワードの確認	パスワードを入力します。入力した文字は表示されません。「パスワードの確認」にも同じパスワードを入力してください。
ボリューム使用状況	ユーザに供給するディスク容量を制限します (GB単位)。「制限なし」を選択すると，容量を制限しません。
このユーザを無効にする	ユーザ情報を残したまま，アクセスをさせないようにできます。削除できないデフォルトのユーザ名であるguestを無効にする場合は，ここをチェックします。 ※adminは削除および無効にできません。

MEMO

- パスワードは，全角文字7文字または半角英数字15文字以内で設定します。アンダースコア (_)，ハイフン (-)，ドット (.)，スペースが使用できます。大文字，小文字が区別されます。
ただし，最初の文字は英数字以外登録できません。
- ユーザの説明は，全角32文字，半角64文字まで入力できます。

グループ

新規グループの登録，既存グループの設定変更をおこないます。
グループとは、「同じアクセス権を持つユーザの集まり」です。

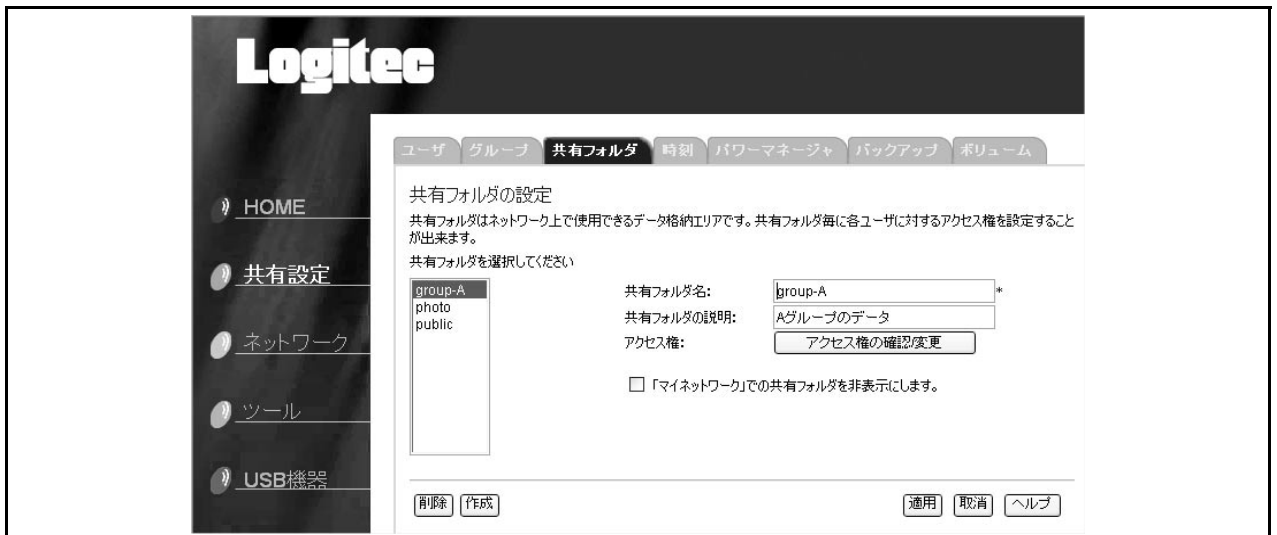


グループ名	グループ名を表示，入力します。デフォルトのグループ名（users）は変更できません。
グループの説明	グループについての説明を入力します。
メンバ	グループに属するユーザが表示されます。ユーザを追加，削除するには， メンバーの追加・削除 をクリックして「グループ-メンバの追加・削除」でおこないます。

MEMO usersグループには，ユーザのすべてが自動的に登録されます。
usersグループのメンバは変更，削除できません。

共有フォルダ

共有フォルダの作成，削除，および共有フォルダへのアクセス権の設定，変更をおこないます。



共有フォルダ名	共有フォルダ名を表示，入力します。
共有フォルダの説明	共有フォルダについての説明を入力します。 入力した情報は，クライアントからアクセスする場合に 表示されます。
アクセス権	アクセス権の確認/変更 をクリックして「共有フォルダ の設定-アクセス権」画面に遷移し，アクセス権の設定/ 変更をおこないます。
マイネットワーク での共有フォルダ を非表示にします	このチェックボックスにチェックを入れると，「SMB共 有による接続」(P39) で本製品を検索したときに，フォ ルダが見えなくなります。アクセスするユーザに，許可 した以外のフォルダ構成を見せたくない場合に設定しま す。

時刻

システム日時、タイムサーバ（NTPサーバ）を設定します。



タイムゾーン	特別な時間帯で運用しないかぎり、初期値の「(GMT+09:00)東京、大阪、札幌」から変更する必要はありません。
タイムサーバとの同期を有効にする	ネットワーク上のタイムサーバ（NTPサーバ）と本製品の時刻を同期させたい場合にチェックします。あわせて次の項目も設定する必要があります。 ●同期タイミング 時刻を同期させるタイミングを選択します。 ・毎日： 毎日AM0:00に同期 ・毎週： 毎週日曜日のAM0:00に同期 ・毎月： 毎月1日のAM0:00に同期 ●タイムサーバ タイムサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。
手動による日付・時刻の設定	タイムサーバと同期させずに、手動で時刻を設定する場合にチェックします。あわせて、「年、月、日、時、分、秒」の各項目を設定します。

MEMO

タイムサーバにインターネット上のホスト名を指定する場合は、名前解決のため[ネットワーク]→「LAN」の「DNSサーバ」を正しく登録しておくか、DHCP設定で名前解決ができる環境が必要です。

パワーマネージャ

電源復旧機能の有効／無効、およびHDDスリープ機能の設定をおこないます。



電源復旧	「電源復旧機能を有効にする」をチェックすることで、電源障害によりシステムが突然シャットダウンしたときでも、電源供給が再開されると自動的にシステムを起動します。この機能は、UPSを接続した際にご利用ください。
HDDスリープ	省電力のため、外部からのアクセスがないときに、内蔵ハードディスクをスリープモードにします。スリープモードにするまでの時間は、「アイドルングの時間」で設定します。設定値は次のとおりです。 無し、10/15/20/30分、1/2/3/4/5時間



電源障害によりシステムが突然シャットダウンした場合は、RAIDを構成していてもドライブ内のデータが損傷する場合があります。UPSを接続した運用を強くおすすめします。

弊社は、いかなる運用下でもデータ損害に対するサポートはいたしかねますのでご了承ください。

バックアップ

本製品の設定情報（ユーザ、グループ、共有フォルダ設定）のバックアップおよびリストアをおこないます。

バックアップおよびリストア手順については、次の項目をお読みください。

- 設定情報をバックアップする（P117）
- 設定情報をリストア（復旧）する（P118）



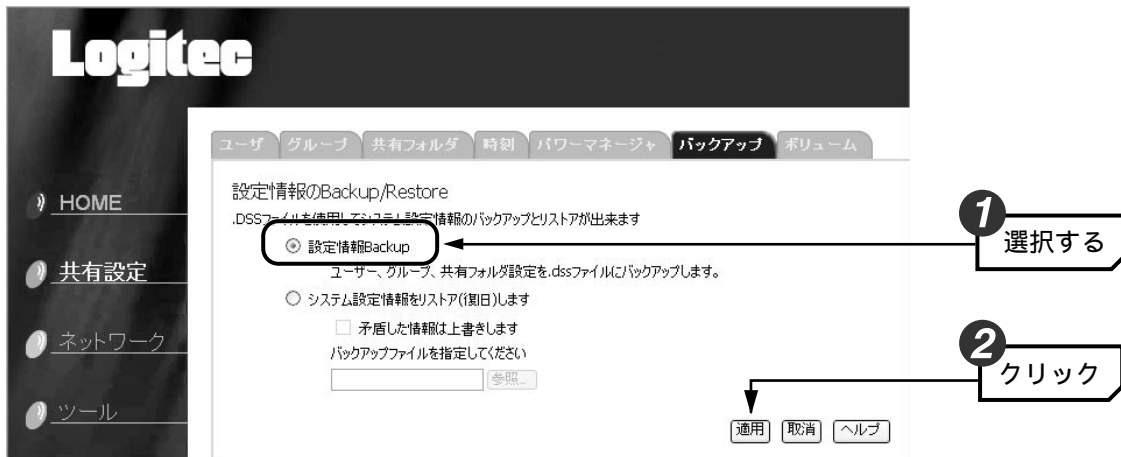
設定情報Backup	<p>次の設定情報を、拡張子「.dss」の外部ファイルにバックアップします。デフォルトファイル名は「configbackup.dss」です。</p> <p>【バックアップされる設定情報】 ユーザ、グループ、共有フォルダ設定</p>
システム設定情報をリストア（復旧）します	<p>バックアップした設定情報ファイル（xxxx.dss）を使用して、本製品の設定情報を復旧します。</p> <p>●矛盾した情報は上書きする ユーザのアクセス権とグループのアクセス権が矛盾している場合は、優先順位に従った設定で上書きされます。 →アクセス権の優先順位（P62）</p>

設定情報をバックアップする

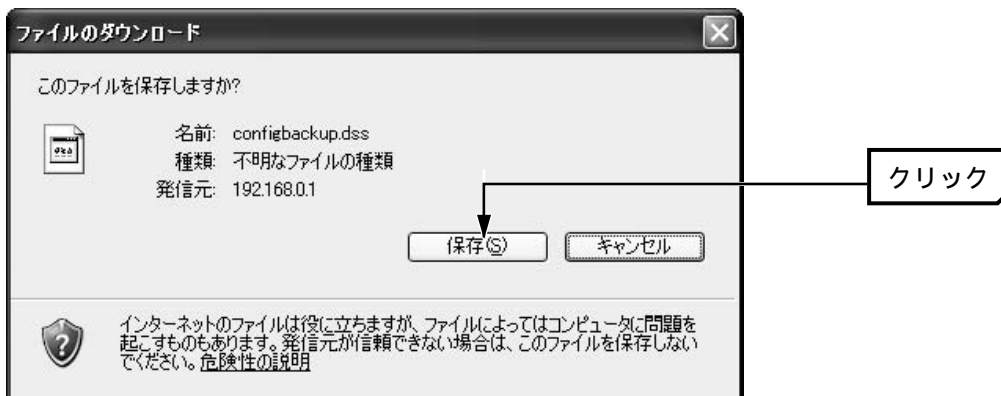
本製品の設定情報をバックアップする手順を説明します。

1 管理画面にログインし、[共有設定]→「バックアップ」を選択します。

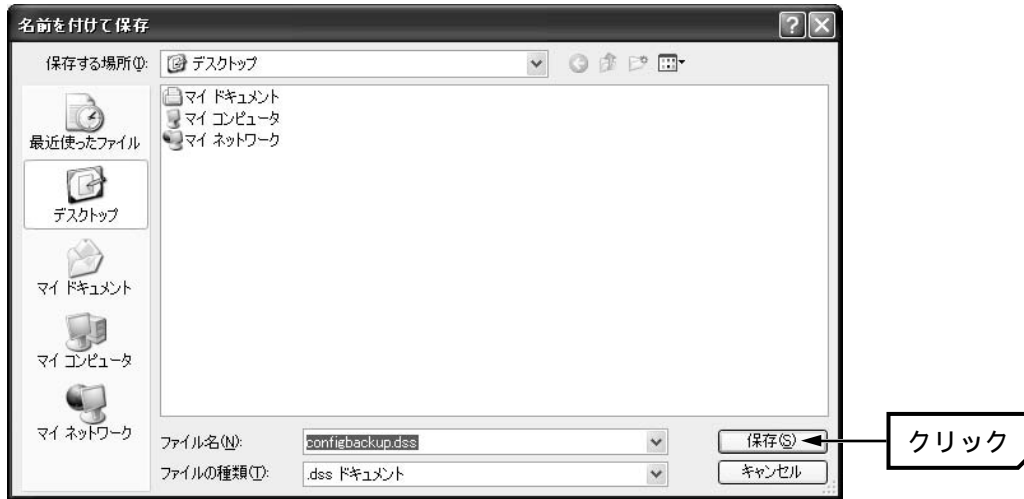
2 「設定情報backup」にチェックを入れて、**適用**をクリックします。



3 「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されますので、**保存**をクリックします。



- 4** 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存場所、ファイル名を設定して、**保存**をクリックします。



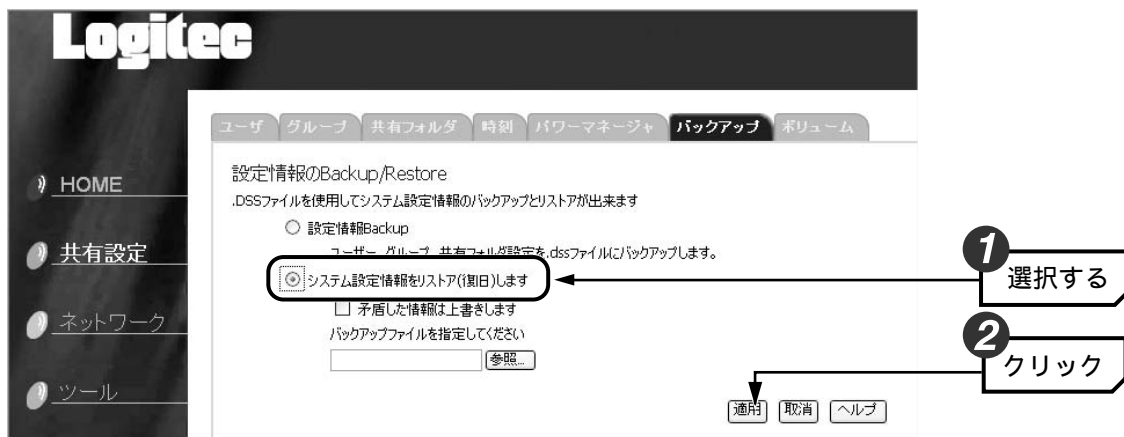
以上で設定情報のバックアップは完了です。

設定情報をリストア（復旧）する

バックアップした設定情報ファイル（xxxx.dss）から、設定情報を復旧（リストア）する手順を説明します。

- 1** 管理画面にログインし、[共有設定]→「バックアップ」を選択します。

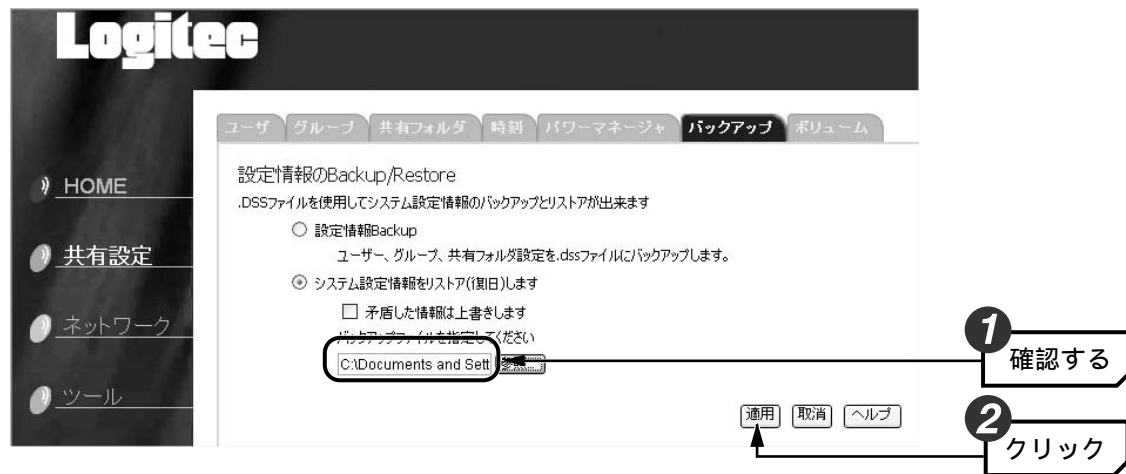
- 2** 「システム設定情報をリストア（復旧）します」にチェックを入れて、**参照**をクリックします。



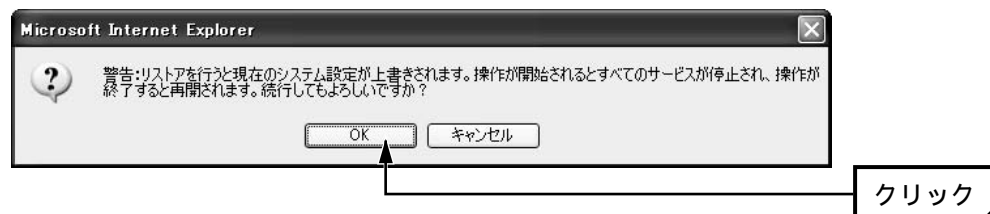
- 3** 「ファイルの選択」ダイアログが表示されますので、バックアップファイル（xxxx.dss）を選択して、**開く**をクリックします。



- 4** テキストボックスにバックアップファイル名が表示されていることを確認して、**適用**をクリックします。



- 5** 警告ダイアログが表示されますので、内容を確認して**OK**をクリックします。リストアが完了するまでしばらくお待ちください。





リストアを開始すると、すべての設定情報が上書きされます。リストア中は本製品のサービスが停止し、リストア終了後に再開されます。

6

設定変更完了画面が表示されますので、**続行** をクリックします。

[共有設定]→「バックアップ」画面に戻れば設定情報のリストアは完了です。

ボリューム

内蔵ディスクを合併させてボリュームを作成するほか、同時にRAID構築もここでおこないます。



ボリュームの構築手順については、次の項目をお読みください。

- ボリュームを削除する (P121)
- ボリュームを作成する (P123)

RAIDを構成しているドライブに障害が発生した場合の修復手順については、次の項目をお読みください。

- ボリュームを修復する (P125)

RAIDについての一般的な知識については、概要編「6. RAIDについて」(P16)をお読みください。



ボリューム構成を変更する場合は、いったんボリュームを削除する必要があります。ボリュームを削除すると、保存されたデータはすべて削除されますので、必要に応じてバックアップをとってからおこなってください。また、ボリューム削除中/作成中は絶対に電源を切らないでください。

※ボリュームを削除しても、ユーザ設定は保持されます。

作成可能なボリュームの組み合わせ

本製品に内蔵されているハードディスクは4台です。RAIDのタイプにより設定可能な組み合わせは次のとおりです。

使用ディスク数	設定可能なRAIDタイプ	使用可能容量 (LHD-LAN1000QG)
1	非RAID	約230GB
2	RAID0	約460GB
	RAID1	約230GB
3	RAID0	約690GB
	RAID5	約460GB
4	RAID0	約920GB
	RAID5	約690GB

ボリュームを削除する

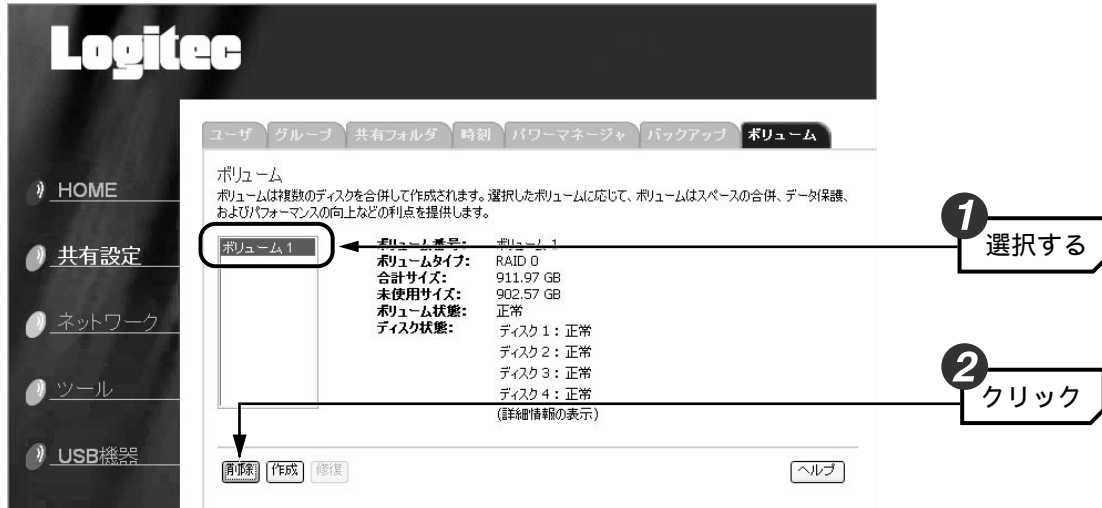
既存のボリュームを削除する手順を説明します。



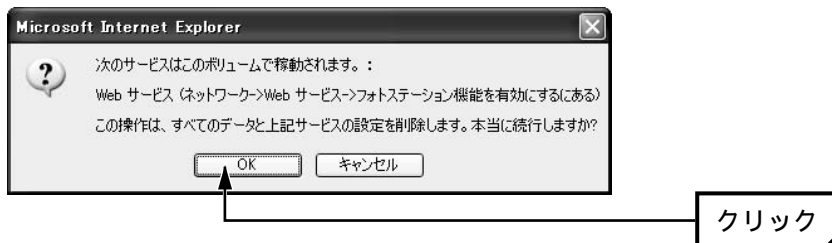
ボリュームを削除すると、保存されたデータはすべて削除されますので、必要に応じてバックアップをとってからおこなってください。また、Webサービスやダウンロードステーション機能などの設定も削除されます。

1 管理画面にログインし、[共有設定]→「ボリューム」を選択します。

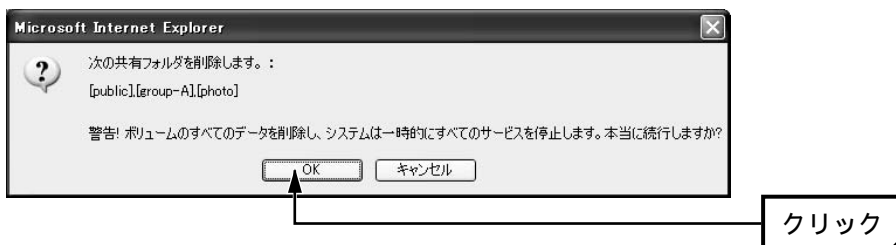
2 削除したいボリュームを選択し、**削除**をクリックします。



3 ボリュームを削除すると、各サービスの設定が無効になります。メッセージの内容を確認し、**OK**をクリックします。



4 ボリュームを削除すると、共有フォルダは削除されます。メッセージの内容を確認し、**OK**をクリックします。



5 しばらくすると、ボリュームの削除が完了し、設定変更完了画面が表示されますので、**続行**をクリックします。[共有設定]→「ボリューム」に戻れば、ボリュームの削除は完了です。

ボリュームを作成する

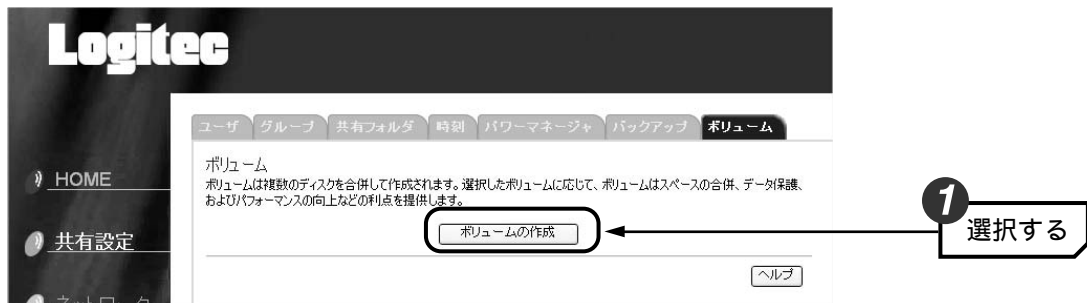
新たにボリュームを作成する手順を説明します。



内蔵ハードディスクがすべて他のボリュームとして使用されている場合は、新たにボリュームは作成できません。

1 管理画面にログインし、[共有設定]→「ボリューム」を選択します。

2 「作成」または「ボリュームの作成」をクリックします。



既存のボリュームが1つも存在しない場合の画面です。

3 「ボリュームの作成」画面が表示されますので、使用するディスクとボリュームタイプを選択し、「適用」をクリックします。

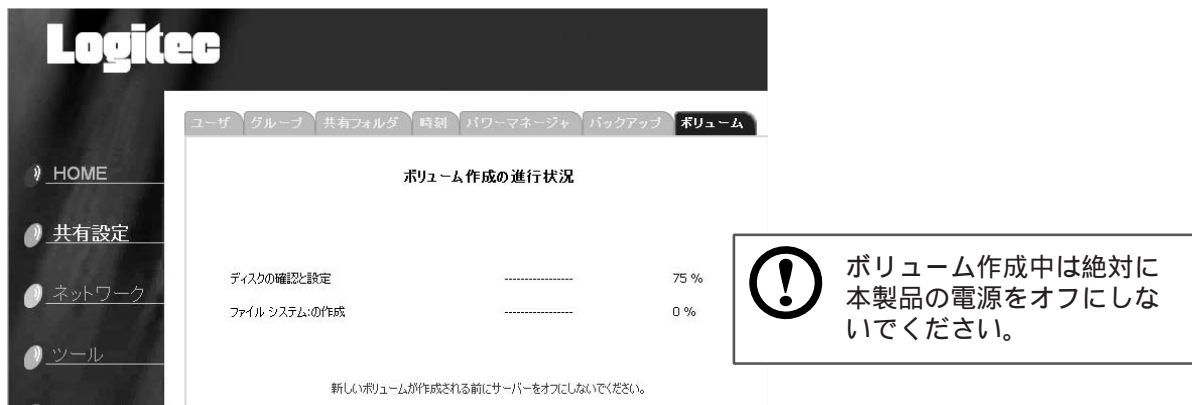


使用ディスク数とボリュームタイプについては、「作成可能なボリュームの組み合わせ」(P121)を参照してください。

- 4** 警告ダイアログが表示されますので、内容を確認して、**OK**をクリックします。



- 5** ボリュームの作成が始まります。完了までには最大10分程度かかりますので、しばらくお待ちください。



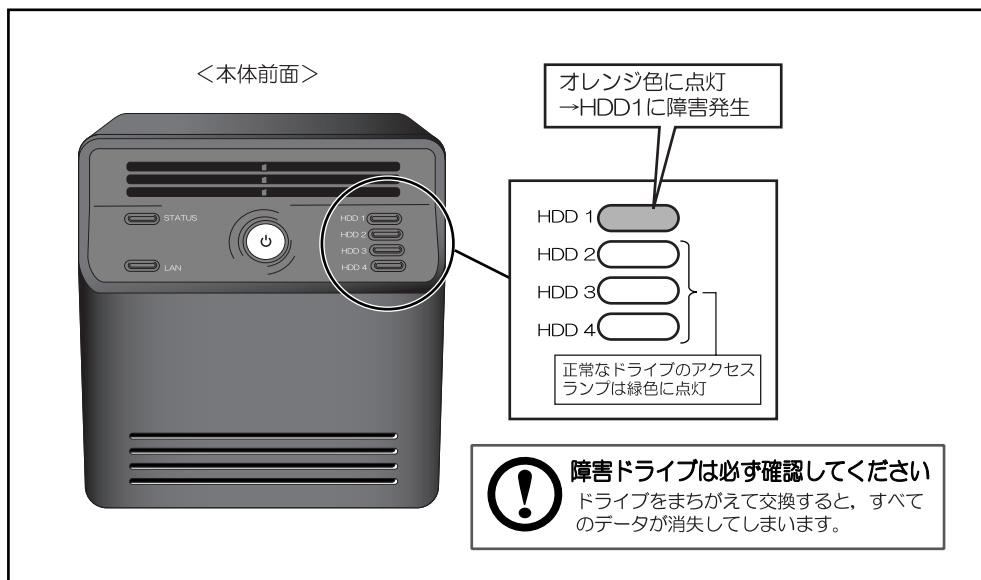
注意 ボリューム作成中は、絶対に電源を切らないでください。
本製品が正常に起動しなくなることがあります。

- 6** [HOME]→「システム情報」を選択し、ボリュームが作成されていることが確認できれば、ボリュームの作成は完了です。

ボリュームを修復する

運用中のドライブに障害が発生しても、冗長性のあるRAID構成（RAID 1、RAID 5）にしている場合は、新しいドライブに入れ替えてボリュームを修復することで、保存データを保持できます。

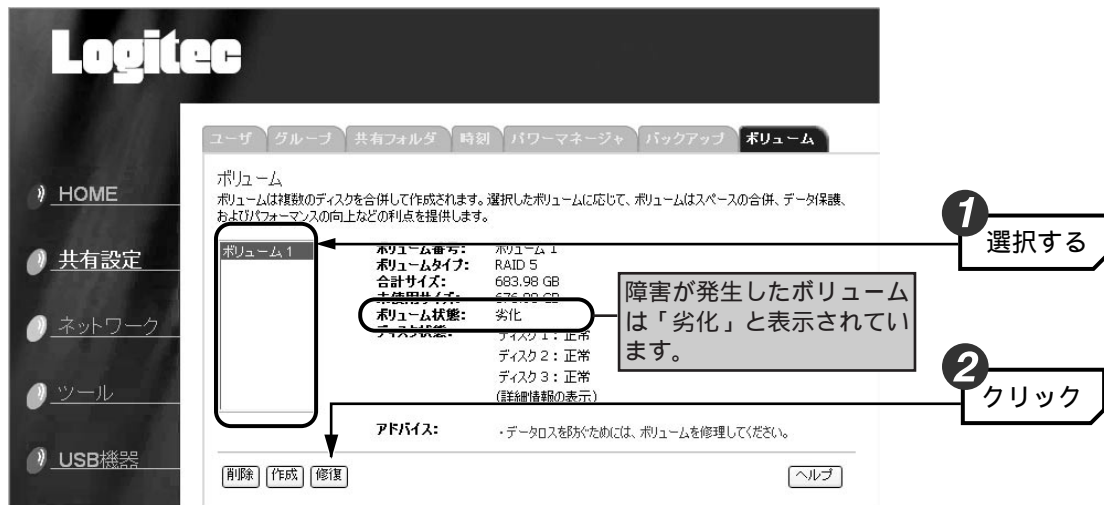
ディスクの交換方法などの詳細は、別冊の「クイックリペアガイド」をお読みください。ここでは、ボリュームの修復手順のみを説明します。
概要編「6. RAIDについて」（P16）も参照してください。



1 「クイックリペアガイド」を参考に、障害が発生したドライブを確認し、リペアドライブに入れ替えます。

2 管理画面にログインし、[共有設定]→「ボリューム」を選択します。

3 修復したいボリュームを選択し、**修復**をクリックします。

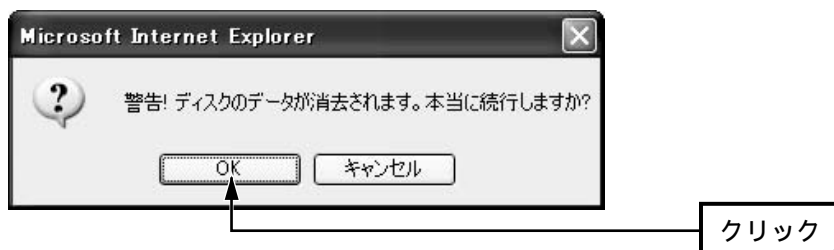


4 リペアドライブに交換したディスク番号を選択し、**適用**をクリックします。



5 警告メッセージが表示されますので、**OK**をクリックします。

ボリュームの修復が始まります。完了までには最大10分程度かかりますので、しばらくお待ちください。





ボリューム修復中は、絶対に電源を切らないでください。
本製品が正常に起動しなくなることがあります。

6

しばらくすると、ボリュームの修復が完了し、設定変更完了画面が表示されますので、**続行**をクリックします。[共有設定]→「ボリューム」に戻りますので、ボリュームが修復されていることを確認します。

以上で、ボリュームの修復は完了です。

3 [ネットワーク]メニュー

[ネットワーク]メニューの各設定項目について説明します。

●[ネットワーク]メニューの各画面

LAN	LHD-LAN名称, IPアドレスなど, ネットワークに関する内容を設定します。	P129
Win/MacOS	ネットワークに関するWindows, Mac固有の情報を設定します。	P130
FTPサービス	FTPサービスの各設定をおこないます。	P131
Webサービス	フォトステーション機能, 簡易Webサーバ機能などのWebサービスの設定をおこないます。	P132
E-mail通知	本製品の障害やイベントの発生をE-mailで通知する, 「E-mail通知機能」の設定をおこないます。	P133
ダウンロードサービス	ダウンロードステーション機能の各設定をおこないます。	P135
マルチメディアサービス	マルチメディアサービスの各設定をおこないます。	P136

LAN

LHD-LAN名称, IPアドレスなど, ネットワークに関する内容を設定します。

LHD-LAN名称	本製品のネットワーク上のマスタ名を設定します。 初期値はLogitecNASです。
ネットワークの設定	IPアドレスに関する設定です。 ●DHCPサーバより情報を取得する ネットワーク内にDHCPサーバやDHCPサーバ機能を搭載したルータなどがある場合はこちらを設定します。IPアドレスを自動取得します。 ●手動で設定する DHCPサーバがない環境で使用するときや、固定IPが必要な場合はこちらを選択し、必要項目を入力します。
リンクステータス	通信品質に関する情報を表示します。
ジャンボフレームを有効にする	ジャンボフレームの有効/無効とMTU値の組み合わせを選択します。 →「JumboFrame (ジャンボフレーム) について」(P130)

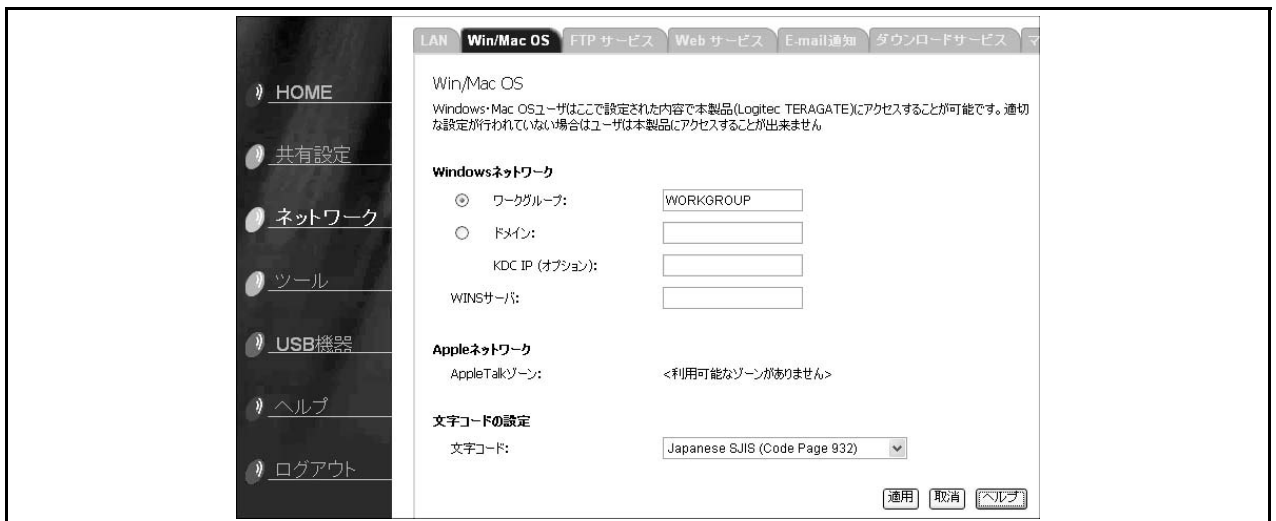
JumboFrame (ジャンボフレーム) について

本製品は、一度に送るデータのサイズ（フレームサイズ）を大きくしてデータ転送速度を向上させる「JumboFrame」に対応しています。フレームサイズは4Kバイト（4,074bytes）に対応しています。

JumboFrameを使用するには、ネットワークがギガビット環境に対応しており、すべてのハブがJumboFrameに対応している必要があります。

Win/MacOS

ネットワークに関するWindows, Mac固有の情報を設定します。



Windows ネットワーク

Windowsネットワーク固有の設定です。

●ワークグループ

本製品が属するワークグループの名称を入力します。

●ドメイン

Windowsのドメイン名を入力し、ドメイン管理者のユーザ名、パスワードを入力します。ネットワークがドメインで構成されていない場合は入力する必要はありません。KDC IP(オプション)は未サポートのため入力しないでください。

●WINSサーバ

ネットワーク上にWINSサーバがある場合に、WINSサーバのIPアドレスを入力します。

Appleネットワーク	AppleTalkゾーンを選択します。ネットワーク内にAppleTalkゾーンがない場合は選択できません。
文字コードの設定	初期値の「Japanese SJIS (Code Page 932)」から変更しないでください。

FTPサービス

FTPサービスの各設定をおこないます。

具体的な設定については、基本操作編「6. FTPサービスの利用」をお読みください。



FTPサービスを有効にする	FTPサービスを有効にする場合にチェックを入れます。ポート番号は、ご使用のネットワーク環境により変更する必要がある場合にのみ変更してください。
FTP帯域幅の制限を有効にする	有効にすることで、FTP転送速度を制限できます。ネットワークトラフィックに問題がある環境で使用する場合の設定です。
匿名FTPを有効にする	FTP共有の際、パスワードなしでのログインを許可する設定です。 →「匿名FTPユーザの管理」(P76)

MEMO

●ポート番号について

FTPサービス、Webサービスでポート番号を変更/追加する場合は、同じポート番号が重ならないようにしてください。また、次のポート番号は使用できません。

20-23, 25, 110, 137, 139, 143, 199, 443, 445, 515, 543, 548, 587, 993, 995, 3306, 5000, 5432, 9999

Webサービス

フォトステーション機能、簡易Webサーバ機能などのWebサービスの設定をおこないます。

具体的な設定については、次の項目をお読みください。

●フォトステーション機能

→基本操作編「4. フォトステーション機能の利用」

●簡易Webサーバ機能

→基本操作編「5. 簡易Webサーバ機能の利用」



増設HTTPポートを追加します	デフォルトのポート番号80のほかに、フォトステーションなどのWebサービスを使用するためにHTTPポートを追加したい場合に設定します。 →「ポート番号について」(P131)
フォトステーション機能を有効にする	フォトステーション機能を有効にする場合にチェックします。 →基本操作編「4. フォトステーション機能の利用」
簡易Webサーバ機能を有効にする	簡易Webサーバ機能を有効にする場合にチェックします。 →基本操作編「5. 簡易Webサーバ機能の利用」
MySQLを有効にする	Webサーバ機能使用時にデータベース「MySQL」を利用する場合にチェックします。 ※本機能はサポート対象外です。

E-mail通知

本製品の障害やイベントの発生をE-mailで通知する、「E-mail通知機能」の設定をおこないます。



SMTPサーバ	SMTPサーバ（メールサーバ）のIPアドレスまたはドメイン名を入力します。
メール送信の際に認証を行う	指定したメールサーバで認証が必要な場合はここにチェックして、ユーザ名、パスワードを設定します。
Emailアドレス1,2	通知するメールアドレスを入力します。2つまで入力できます。
テストメールを送る	設定完了後にテストメールを送信します。

MEMO SMTPサーバにインターネット上のホスト名を指定する場合は、名前解決のため[ネットワーク]→「LAN」の「DNSサーバ」を正しく登録しておくか、DHCP設定で名前解決ができる環境が必要です。

●E-mailの例（斜体部分は環境によって異なります）

Subject: *LogitecNASの内蔵ディスクHDD1に異常が発生しました*

管理者様

LogitecNASの内蔵ディスクHDD1に異常が発生しました
管理画面を起動して状況を確認してください

Logitec

ダウンロードサービス

ダウンロードステーション機能の各設定をおこないます。
 具体的な設定については、基本操作編「7. ダウンロードステーション機能の利用」をお読みください。



ダウンロードステーション機能を有効にする	ダウンロードステーション機能を有効にする場合にチェックを入れます。
ダウンロードを開始する時刻....	クライアントが登録したファイルのダウンロード時間を指定します。 →基本操作編「7. ダウンロードステーション機能の利用」
ダウンロードする順番を....	ダウンロード順を指定します。 →基本操作編「7. ダウンロードステーション機能の利用」

マルチメディアサービス

マルチメディアサービスの各設定をおこないます。

このサービスを有効にすることで、本製品に保存されたマルチメディアファイルをネットワーク内のUPnP DMA (Digital Media Adapter) に対応した機器に提供 (配信) できます。

詳細については、DMA機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- マルチメディアサービスは、弊社サポート対象外です。
- マルチメディアファイルを保存する共有フォルダは次の名称にする必要があります (UPnP DMAの規格による)。

photo, video, music



マルチメディアサービスを有効にする	マルチメディアサービスを有効にする場合にチェックを入れます。
DMAコードページ	DMAコードページを設定します。 利用するDMAと共通にする必要があります。
DMAメニュー言語	DMAメニューの言語を設定します。 利用するDMAと共通にする必要があります。

4 [ツール]メニュー

[ツール]メニューの各設定項目について説明します。

●[ツール]メニューの各画面

シャットダウン	本製品をシャットダウン/再起動します。	P138
出荷時設定	本製品の設定を、製品出荷時の初期状態に戻します。	P139
システム更新	ストレージマネージャ（ファームウェア）のバージョンを更新します。	P140
USBバックアップ	接続したUSBディスクに内蔵データをバックアップします。USBディスクを接続しているときのみ表示されます。	P141
ネットワークバックアップ	ネットワークバックアップの各設定をおこないます。	P142

シャットダウン

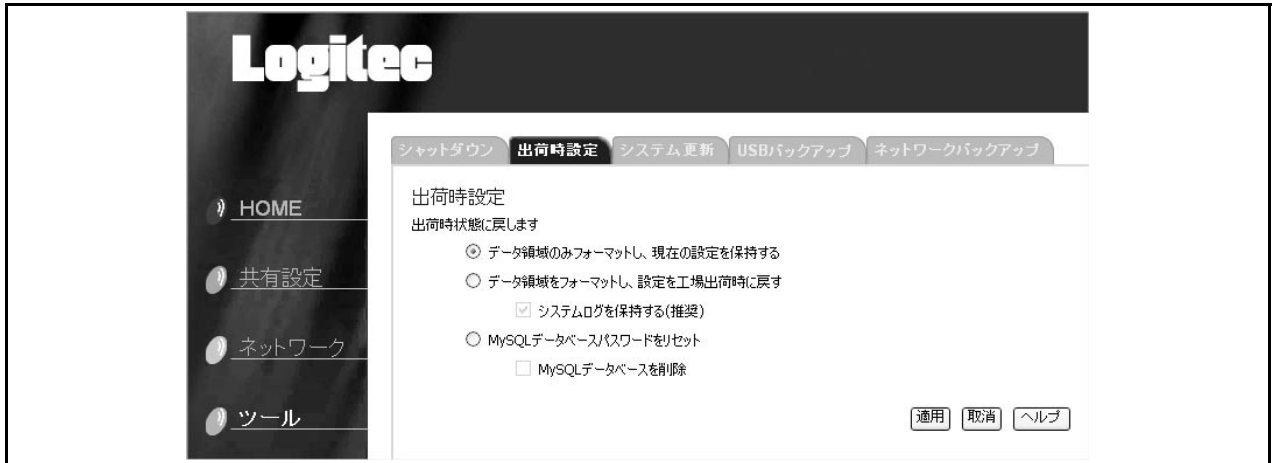
本製品をシャットダウン/再起動します。



再起動	<p>本製品を再起動します。再起動を完了してもストレージマネージャの画面は切り替わりません。</p> <p>再びストレージマネージャに接続するには、クイックセットアップツールからもう一度本製品を検索してください。</p>
シャットダウン	<p>本製品の電源を切ります。</p> <p>本体前面の電源スイッチをピープ音が鳴るまで押し続けることでも電源を切ることができます。</p>

出荷時設定

本製品の設定を、製品出荷時の初期状態に戻します。



データ領域のみフォーマットし、現在の設定を保持する	共有フォルダや保存データのみ削除します。 ユーザやグループなどの設定情報は保持します。
データ領域をフォーマットし、設定を工場出荷時に戻す	ユーザやグループなどの設定情報を含めて、すべてのデータを削除して製品出荷時の初期状態に戻します。 「システムログを保持する」にチェックを入れると、システムログのみ保持します。
MySQLデータベースパスワードをリセット	MySQLを有効にしている場合に、データベースパスワードをリセットします。「MySQLデータベースを削除」にチェックを入れると、データベースも削除されます。 ※MySQLはサポート対象外です。

システム更新

ストレージマネージャ（ファームウェア）のバージョンを更新します。



ファームウェアの更新は、あらかじめ更新ファイルを手に入れた後から作業を始めてください。ファームウェアのアップデート情報、アップデート手順については、弊社ホームページ（<http://www.loctec.co.jp/>）でご確認ください。



- ファームウェアの更新中は絶対に電源を切らないでください。
- ファームウェアを更新するときは、念のため保存データのバックアップをとってからおこなうことをおすすめします。

●システム更新に失敗した場合

システムの更新に失敗した場合は以下の理由が考えられます。

- システム更新作業が停電などの理由で中断された
- 更新ファイルが現状のシステムバージョンより古い
- 更新ファイルが壊れている
- システム更新のために必要な空き容量がない

上記問題を解決したあとに、再度システム更新を試みてください。それでもシステムが更新されない場合は弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

USBバックアップ

接続したUSBディスクに内蔵データをバックアップします。バックアップ用にフォーマットされたUSBディスクを接続しているときのみ表示されます。詳細については、次の項目を参照してください。

- USBディスクのフォーマット
基本操作編「USBディスクマネージャを使用する」(P89)
- USBバックアップの手順
基本操作編「USBバックアップを使用する」(P96)



ネットワークバックアップ

ネットワークバックアップの各設定をおこないます。

ネットワークバックアップとは、本製品と同じネットワークバックアップ機能を持つLHD-LANシリーズに、本製品の共有フォルダの内容をバックアップする機能です。バックアップ方法には、手動のほか、スケジュールリングのうえ自動実行することも可能です。

ネットワークバックアップを利用するには、本製品とバックアップするLHD-LANシリーズの双方のネットワークバックアップサービスを有効にしておく必要があります。

ネットワークバックアップを利用するには、次の説明をお読みください

- ネットワークバックアップサービスを有効にする (P143)
- ネットワークバックアップサービスによるバックアップ (P144)

MEMO

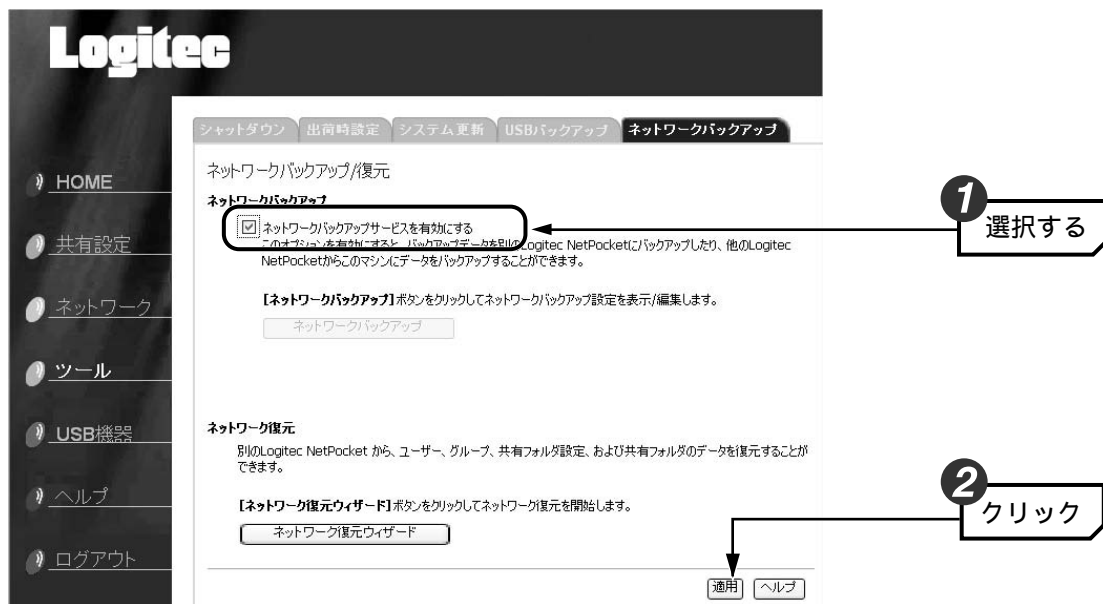
ネットワークバックアップサービスを有効にすると、「NetBackup」という共有フォルダが自動作成され、adminにRWのアクセス権が付与されます。



ネットワークバックアップサービスを有効にする

ネットワークバックアップサービスを有効にする手順を説明します。

- 1 管理画面にログインし、[ツール]→「ネットワークバックアップ」タブを選択します。
- 2 「ネットワークバックアップサービスを有効にする」のチェックボックスをチェックして、**適用**ボタンを押します。



出荷時設定はオフになっています。

- 3 設定完了のメッセージが表示されますので、**続行**ボタンをクリックします。「ネットワークバックアップ」画面に戻れば設定は完了です。

本製品を他のLHD-LANシリーズのバックアップ領域として使用する場合は、これで設定は完了です。
 本製品の共有フォルダのバックアップを設定するには、次の「ネットワークバックアップを利用する」に進んでください。

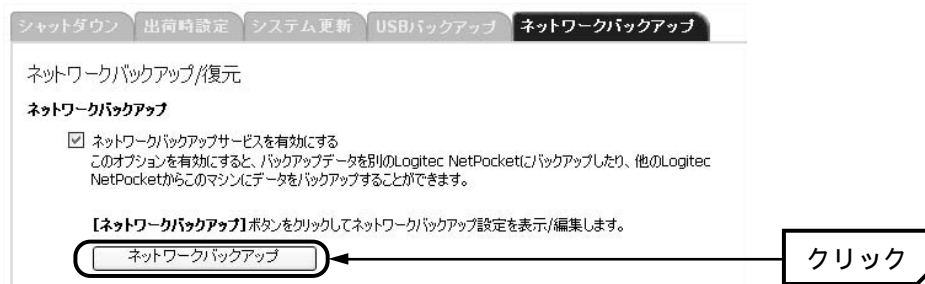
ネットワークバックアップサービスによるバックアップ

本製品の共有フォルダの内容をバックアップする手順を説明します。

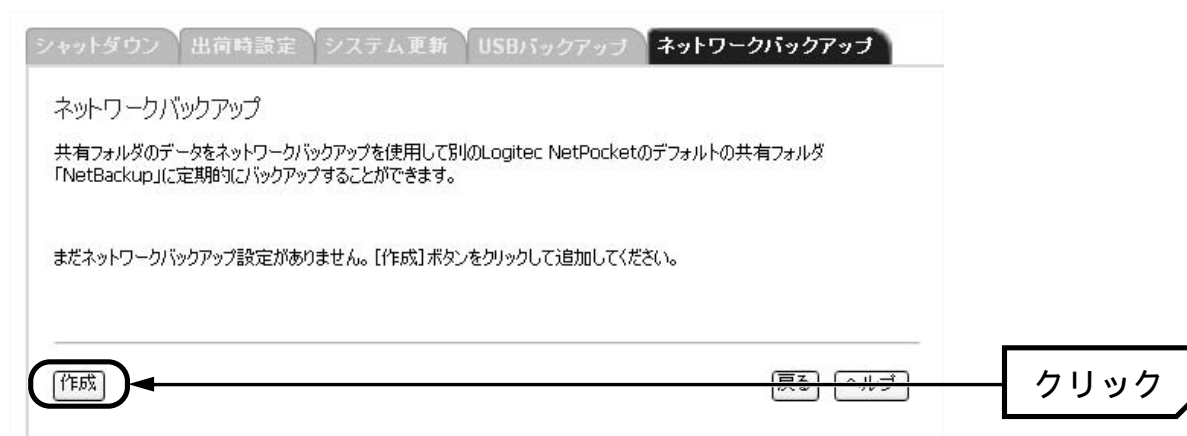
「ネットワークバックアップサービスを有効にする」で本製品のサービスを有効にし、バックアップ領域として使用するLHD-LANシリーズ側のネットワークバックアップサービスを有効にしてから作業をはじめてください。

1 管理画面にログインし、[ツール]→「ネットワークバックアップ」タブを選択します。

2 **ネットワークバックアップ** をクリックします。



3 **作成** をクリックします。



- 4** 「ネットワークバックアップ作成」画面が表示されます。
 「ソース」からバックアップしたい共有フォルダを選択し、「ターゲット」でバックアップ場所などの設定をおこないます。
 設定が終わったら、**適用**をクリックします。

ネットワークバックアップ - 作成

ソース
共有フォルダを選択してください
(複数選択が可能)
public

ターゲット
ターゲットサーバーを選択します

① 選択する
選択: RackStation(192.168.0.22)

② 選択する
ホスト名またはIPアドレスを入力します:
(推奨:サーバーIPがDHCPとして設定されている場合は、ホスト名を入力します。)

ターゲットサーバーのアドミニストレータのパスワード
パスワード:

③ スケジュールを設定する
 バックアップスケジュールを有効にする
 標準スケジュール
 詳細スケジュール
 バックアップ時刻: 時: 00 分: 00
 スケジュールの計画

必要に応じて入力する

④ クリック
適用 取消 ヘルプ

ターゲットサーバーを選択します	自動的にネットワーク内のLHD-LANシリーズが検索されて表示されますので、「選択」をクリックしてプルダウンメニューからバックアップデータを格納するサーバーを選択します。
パスワード	バックアップデータを格納するサーバーの管理者パスワードを入力します。
バックアップスケジュールを有効にする	<p>チェックすることで、スケジュール設定が有効になります。「標準スケジュール」、「詳細スケジュール」からスケジュール方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●標準スケジュール 1日に1回、または週に1回決まった時間にバックアップするときはこちらを選択してください。 ●詳細スケジュール 標準スケジュールより細かいスケジュールを設定したい場合にこちらを選択します。次のような設定が可能です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日の指定 ・ 始業時刻、終業時刻、サイクルの指定 始業時刻と終業時刻の間に、何時間おきにバックアップするかを設定できます。設定は次の順序でおこないます。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 始業時刻の設定 2) スケジュールサイクルの設定 3) 終業時刻の設定 終業時刻の設定は、スケジュールサイクルの設定により、選択できる範囲が変わります。
バックアップ暗号化を有効にする	バックアップ処理中の、本製品とバックアップサーバ間の通信が暗号化されます。これによりデータセキュリティが強化されます。ターゲット側もバックアップ暗号化をサポートしている必要があります。
バックアップを即座に開始します	スケジュールリングをせずに、すぐにバックアップを開始します。

5

しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行**をクリックします。[ツール]→「ネットワークバックアップ」画面に戻れば、バックアップの設定は完了です。



※「バックアップを即座に開始します」を選択した場合は、バックアップ後に元の画面に戻ります。

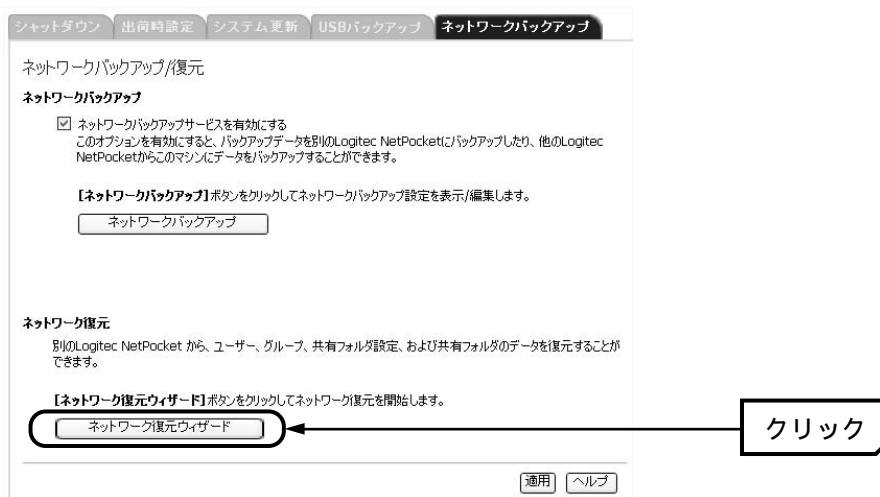
データの復元

バックアップデータを本製品に復元する手順を説明します。

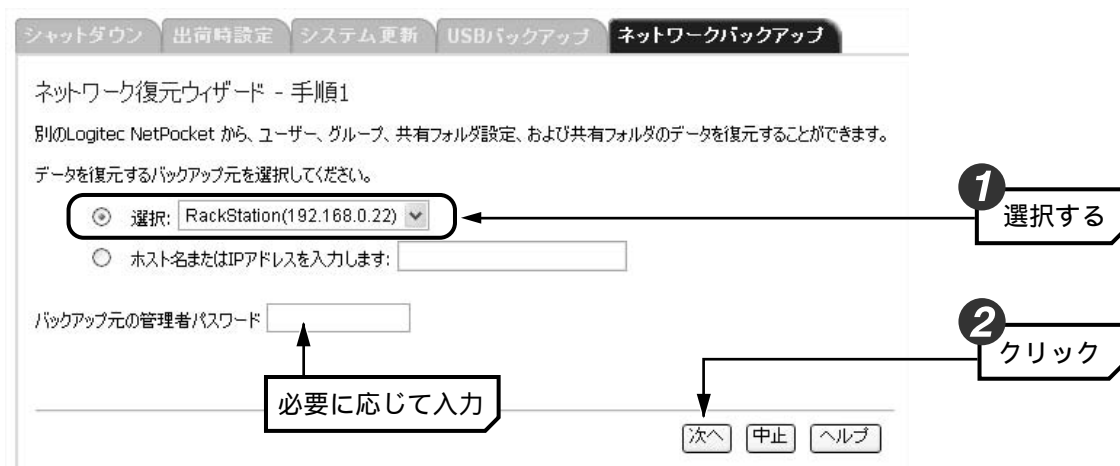
バックアップしたデータの復元は、[ツール]→「ネットワークバックアップ」の **ネットワーク復元ウィザード** をクリックすることで開始するウィザードでおこないます。

1 管理画面にログインし、[ツール]→「ネットワークバックアップ」タブを選択します。

2 **ネットワーク復元ウィザード** をクリックします。

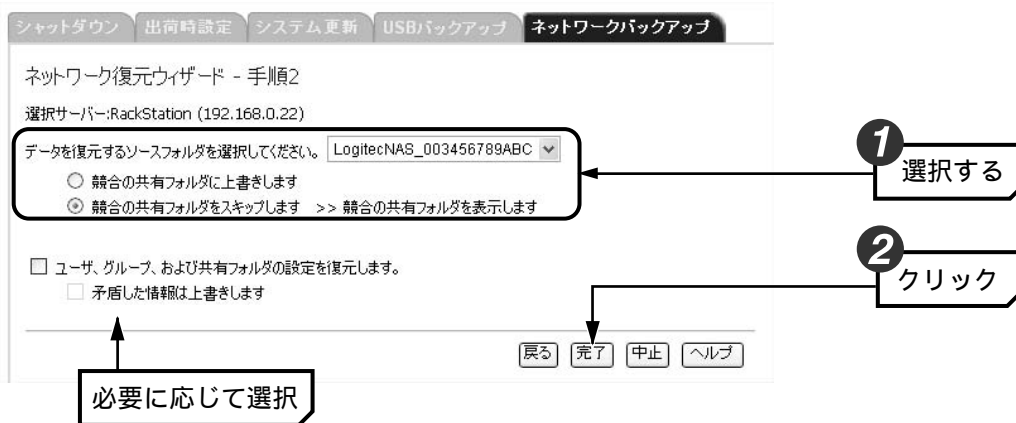


3 ネットワーク復元ウィザードが始まります。ターゲットのLHD-LANシリーズを選択し、 **次へ** をクリックします。



必要に応じて、管理者パスワードを入力します。

- 4** 復元の詳細設定をおこないます。必要な項目を選択して、**完了**をクリックします。



競合の共有フォルダ..	バックアップ側と本製品で同じ共有フォルダが存在する場合に上書きするか、処理をスキップするかを選択します。
ユーザ、グループ、および共有フォルダの設定を復元します	共有フォルダの設定情報をあわせて復元する場合にチェックします。「矛盾した情報は上書きします」を選択すると、ユーザとグループでアクセス権の設定が矛盾している場合に、優先順位にしたがって上書きされます。 →「アクセス権の優先順位」(P62)

- 5** しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行**をクリックします。[ツール]→「ネットワークバックアップ」画面に戻れば、バックアップの設定は完了です。

※「競合の共有フォルダに上書きします」を選択した場合は、復元前に確認メッセージが表示されますので、**OK**をクリックしてください。

5 [USB機器]メニュー

[USB機器]メニューの各設定項目について説明します。

●[USB機器]メニューの各画面

USBディスク	本製品に接続したUSBディスクや、USBメモリなどの記憶領域を持つUSB機器のフォーマットや取り外しをおこないます。	P149
USBプリンタ	本製品に接続したUSBプリンタの取り外しやジョブのクリアをおこないます。	P151
UPS	本製品に接続したUPS（無停電電源装置）の状態を表示し、電源管理をおこないます。	P152

具体的な設定については、「基本操作編 8. USB機器の利用」の次の項目をお読みください。

- USBディスク →USBディスクマネージャを使用する（P89）
- USBプリンタ →USBプリンタマネージャを使用する（P92）
- UPS →UPS（無停電電源装置）を使用する（P101）

USBディスク

本製品に接続したUSBディスクなどのフォーマットや取り外しをおこないます。



USBディスクの取り外し

接続したUSBディスクを取り外すときの手順を説明します。

- ① 管理画面にログインし、[USB機器]→「USBディスク」タブを選択します。
- ② 接続しているUSBディスクの情報が表示されます。**イジェクト**をクリックします。
- ③ 確認ダイアログが表示されますので、**OK**をクリックします。
- ④ しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行**をクリックします。[USB機器]→「USBディスク」画面に戻ったら、USB機器を取り外してください。



USBディスクの取り外しは、必ずストレージマネージャでイジェクトを実行してからおこなってください。イジェクト前に取り外すと、USBディスクの保存データが壊れるおそれがあります。

USBディスクのフォーマット

「基本操作編 8. USB機器の利用」の「USBディスクマネージャを使用する」(P89)を参照してください。

USBプリンタ

本製品に接続したUSBプリンタの取り外しやジョブのクリアをおこないます。プリンタを本製品に接続して共有する手順については、「基本操作編 8. USB機器の利用」の「USBプリンタマネージャを使用する」(P92)を参照してください。



USBプリンタの取り外し

接続したUSBプリンタを取り外すときの手順を説明します。

- ① 管理画面にログインし、[USB機器]→「USBプリンタ」タブを選択します。
- ② 接続しているUSBプリンタの情報が表示されます。**イジェクト**をクリックします。
- ③ 確認ダイアログが表示されますので、**OK**をクリックします。
- ④ しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行**をクリックします。[USB機器]→「USBプリンタ」画面に戻ったら、USBプリンタを取り外してください。



USBプリンタの取り外しは、必ずストレージマネージャでイジェクトを実行してからおこなってください。イジェクト前に取り外すと、プリントジョブが削除されることがあります。

プリントジョブのクリア

プリンタ共有中にプリントジョブをクリアする必要がある場合は、次の手順でおこないます。

- ① 管理画面にログインし、[USB機器]→「USBプリンタ」タブを選択します。
- ② 接続しているUSBプリンタの情報が表示されます。**クリア**をクリックします。
- ③ 確認ダイアログが表示されますので、**OK**をクリックします。
- ④ しばらくすると、完了メッセージが表示されますので、**続行**をクリックします。[USB機器]→「USBプリンタ」画面に戻れば、プリントジョブのクリアは完了です。

UPS

本製品に接続したUPS（無停電電源装置）の状態を表示し、電源管理をおこないます。

UPSを本製品に接続して使用方法については、「基本操作編 8. USB機器の利用」の「UPS（無停電電源装置）を使用する」（P101）を参照してください。

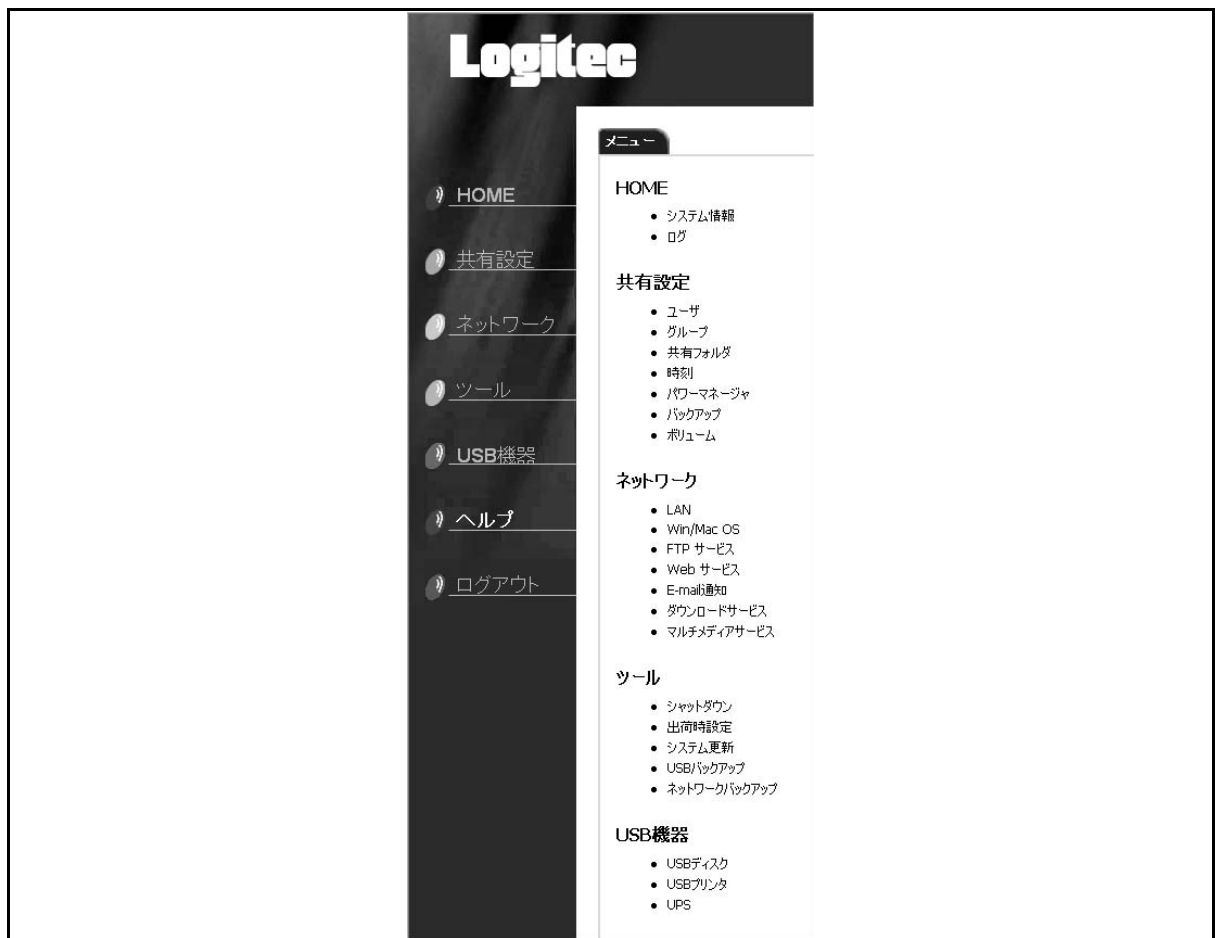


6 その他のメニュー

その他のメニューについて説明します。

[ヘルプ]メニュー

本製品のオンラインヘルプのメニュー一覧を表示します。各画面で **ヘルプ** を押して表示するほかに、ここから直接ヘルプを表示できます。



[ログアウト]メニュー

ストレージマネージャからログアウトし、ログイン画面に戻ります。

Chapter 5

付録編

ここでは、本製品がうまく動作しない場合のトラブルシューティング「こんなときは」を掲載しています。「こんなときは」をお読みになっても解決しない場合は、別冊の「セットアップガイド」の「サポートサービスについて」をご覧ください。

1. こんなときは	156
2. 設定制限表	161

1

こんなときは

本製品がうまく動作しない場合のトラブルシューティングです。
弊社テクニカルサポートへのお問い合わせの前にお読みください。

Mac, Windows共通のトラブル

パスワードを忘れてしまった

一般ユーザのアカウントの場合は、システム管理者に管理者アカウント (admin) の権限で個人設定を設定し直します。

「基本操作編 1. パスワードの設定」(P52) を参照してください。

ただし、adminのパスワードを忘れた場合は、設定の変更やバックアップなどは一切できなくなります。メモするなど、忘れないように管理してください。

内蔵ドライブに障害が発生した (ハードディスクエラー)

冗長性のあるRAID構成 (RAID1, RAID5) で使用している場合は、一度に1台のみの障害はデータを保持したまま修復できます。

障害の発生したディスクを特定したあと、ただちに本製品の電源を切り、正常なディスクに交換してください。

別冊の「クイックリペアガイド」および「ボリュームを修復する」(P125) を参照して修復作業をおこなってください。

ディスク交換後は、復元中でもクライアントからアクセスできます。

復旧が可能なのは1台のハードディスクが破損した場合のみです。複数のハードディスクが同時に使用不能になった場合は、システム自体も完全に使用不能になり、システムに保存されているすべてのデータが失われます。



RAIDシステムは複数のディスクへデータを書き込み、冗長性を高めることによってディスク障害発生時にデータ復旧を潤滑におこなうためのものです。

ただし、同時に2台のハードディスクに障害が発生した場合や、外部的要因（ウイルスや物理的破壊）からデータを守ることはできません。

どのようなディスク構成で使用する場合も、データのバックアップは必ずおこなってください。本製品を初期状態に戻すと、本製品に保存されたデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取ってから作業してください。

ボリュームの修復に失敗した（リビルドエラー）

ボリュームの修復に失敗する場合は、次の原因が考えられます。
テクニカルサポートにお問い合わせの前にご確認ください。

- ① 交換したハードディスクも損傷している。
- ② リビルドするハードディスクとは別に残りのハードディスクも損傷している。

クイックセットアップツールで本製品が認識されない

次の項目について確認してください。

- ① 本製品がネットワーク機器に正しく接続されているかを確認します。
- ② 使用しているLANケーブルを別のものと変えてみます。
- ③ ACアダプタがACコンセントに正しく接続され、電源が入っているかを確認します。
- ④ 本製品のIPアドレスが他のネットワーク機器と重複していないかを確認します。
- ⑤ 使用しているクライアントPCと本製品が同じサブネット上（ネットワークアドレス上）に存在しているかを確認します。
- ⑥ 常駐プログラム（アンチウイルスソフトなど）を停止させてみます。
- ⑦ クイックセットアップツールがファイアウォールの例外に設定されているかを確認します。
- ⑧ ファイアウォールソフトを停止させてみます。
- ⑨ 別のクライアントで試してみます。

- ⑩ 接続しているハブのポートを変えてみます。
- ⑪ ハブを変えてみます

アクセス許可していないユーザがアクセスできてしまう

ユーザがドライブマップウィザードを使用して管理者 (admin) 権限で共有フォルダをマッピングした場合、以後パソコンを再起動しても、そのユーザからのアクセスは常に管理者 (admin) からのものとして処理されます。

この場合、そのユーザのマイコンピュータ上でネットワークドライブのマッピングを解除してください。これにより、そのユーザは登録されている権限でしかアクセスできなくなり、設定したアクセス制限が有効になります。

クライアントPCから本製品にアクセスできない

次の項目について確認してください。

- ① クライアントPCに正しくIPアドレスが設定されているかを確認します。
- ② ストレージマネージャの「ネットワーク設定」が正しく設定されているかを確認します。
- ③ 本製品と同じIPアドレスまたはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、どちらかのIPアドレスとサーバ名を変更してください。
- ④ 本製品に同時にログオンできるクライアントは最大20です。しばらく待つてから再度接続を試みると、アクセスできるようになることがあります。
- ⑤ Windows 2000クライアントが不意にアクセス権限フォルダにアクセスできなくなった場合は、本製品にログインする際にドメイン/ワークグループから一度ログアウトし、再度ログインし直してみてください。
- ⑥ 上記の設定がすべて正しい場合は、本製品を再起動してみます。

ネットワーク設定を変更したらストレージマネージャに接続できなくなった

ネットワークの環境設定を修正し (アドレス, ドメイン, DNSなど), ネットワーク設定を再度確認し, 必要に応じて変更します。ブラウザを閉じ, ストレージマネージャに再度接続を試みてください。

Macintoshクライアントのトラブル

本製品が見つからない

次の項目について確認してください。

- ① 本製品の電源が入っていて、ネットワークに接続されていることを確認します。
- ② Macintoshクライアントが他のAppleTalkサーバに接続できるかを確認します。接続できない場合、このMacintoshクライアントのネットワーク設定に問題がある可能性があります。
- ③ 本製品の[ネットワーク設定]→「Win/Mac OS」タブ内のApple Talkゾーンが正しく設定されていることを確認してください（管理者アカウントが必要）。

特定の共有フォルダにアクセスできない

次の項目について確認してください。

- ① 対象の共有フォルダが本製品上に存在するかを確認します。
- ② フォルダ名やファイル名に31文字を越える文字列を使用していないかを確認します。
- ③ ネットワーク管理者がAppleTalkまたはTCP/IPプロトコル上でApple ネットワーキング接続を有効にしていることを確認します。
- ④ 共有フォルダに対するアクセス権があるかを確認します。
- ⑤ ユーザがguestとしてログインする場合に、システムアドミニストレータがguestアカウントにパスワードを設定していないことを確認します。
- ⑥ 本製品と同じIPアドレスまたはサーバ名を使用しているホストがネットワーク上に存在しないかを確認します。存在する場合は、どちらかのIPアドレスとサーバ名を変更してください。
- ⑦ 本製品に同時にログオンできるクライアントは最大20です。しばらく待ってから再度接続を試みると、アクセスできるようになることがあります。
- ⑧ 上記の設定がすべて正しい場合は、本製品を再起動してみます。

Windowsクライアントが保存したファイルを実行できない

MacintoshクライアントおよびWindowsクライアントは同じフォルダを共有できます。しかし、MacintoshとWindowsは異なるアプリケーションでファイルを実行するため、pdfやhtmlなどのMacintoshとWindowsの両方がサポートするファイルへのアクセスは制限されることがあります。

たとえば、Windowsクライアントがhtmlファイルを保存した場合、Macintoshクライアントは、このファイルをサーバ上でダブルクリックできません。これは、Windowsの「関連するアプリケーションの種類」の保存形式がMacintoshと異なるため、Macintoshは、Windowsで作成されたhtmlファイルをどのプログラムで開くことができるか判別できないためです。この場合の解決方法は2つあります。

- ① ファイルとアプリケーションの関連付けをMacintoshクライアント上で設定し直す。
- ② Macintoshクライアント側で、そのファイルを実行したいアプリケーションをあらかじめ起動しておく。

Macintoshクライアントが保存したファイルをWindowsクライアントが直接開くことができない場合も、同様に解決できます。

4GBを超える単一ファイルを保存できない

Macintoshクライアントのシステムの制限です。
→ 「2. 設定制限表」(P161) を参照してください。

保存したファイルをWindowsクライアントが削除できない

Macintoshでは、ファイル名の最後の桁をスペースにすることができますが、Windowsではできません。Macintoshクライアントがこの形式のファイルを保存した場合、Windowsクライアントはそれを認識できないため、ファイルを削除できません。Windowsクライアントと共有する必要があるファイルは、ファイル名の最後をスペースとして保存しないようにしてください。

2

設定制限表

共有フォルダ名などの、本製品に関する命名規則をまとめて記載しています。
複数のOSで共有する場合は、もっとも厳しい条件に合わせてください。

●LHD-LAN名称（ホスト名）

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	半角15文字	英字（大文字小文字の区別なし）、数字、マイナス	先頭は英字のみ可
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9			
Mac OS X			

●ユーザ名

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	15文字	英字（大文字小文字の区別なし）、数字、アンダーバー、マイナス、ドット、全角日本語	機種依存文字不可
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9			
Mac OS X			

●パスワード

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	12文字	英字（大文字小文字の区別なし）、数字、記号類、スペース	—
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9			
Mac OS X			

●コメント

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	半角64文字	英字, 数字, アンダーバー, マイナス, ドット, スペース, 全角日本語	機種依存文字不可
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9			
Mac OS X			

●グループ名

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	半角15文字	英字 (大文字小文字の区別あり), 数字, アンダーバー, マイナス, ドット, スペース, 全角日本語	<ul style="list-style-type: none"> ● 先頭は英字, 数字, アンダーバー, ドット, 2バイト文字のみ可 ● 末尾はスペース不可 ● 機種依存文字不可
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9			
Mac OS X			

●共有フォルダ名

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	32文字	英字 (大文字小文字の区別なし), 数字, アンダーバー, マイナス, ドット, スペース, 全角日本語	<ul style="list-style-type: none"> ● 先頭はマイナス, スペース不可 ● 末尾はスペース不可 ● 機種依存文字不可
Windows 2000	12文字		
Windows NT4.0			
Windows Me			
Windows 98	15文字		
Mac OS 9			
Mac OS X			

●フォルダ名、ファイル名

	最大文字数	使用可能文字	その他制限
Windows XP	半角255文字 (フルパス)	英字（大文字小文字の区別なし）、数字、一部の記号、スペース、全角日本語	● 機種依存文字不可 ● 次の半角文字不可 ¥, /, :, (カンマ), ;, *, ?, <, >,
Windows 2000/NT4.0			
Windows Me			
Windows 98			
Mac OS 9	半角31文字		機種依存文字不可
Mac OS X	半角254文字		

●1ファイルの最大容量

Windows XP	1TB未満
Windows 2000/NT4.0	
Windows Me	500GB
Windows 98	2GB未満
Mac OS 9	4GB未満
Mac OS X	

●フォルダ階層数

フルパスで256文字以内

RAIDシステム搭載 ネットワーク接続型HDユニット ユーザーズマニュアル
(LHD-LANQGシリーズ用)

発行  **ロジテック株式会社** 2006年8月 第1版

©2006 LOGITEC CORPORATION. All rights reserved.

0608-LHD-003N

Logitech